

『平成30年度トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査』

—トップスポーツによる地域活性化とスポーツ振興を目指して—

報告書

令和元年9月20日

公益財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports

序文

- 本報告書は2015年から調査研究活動を行っている公益財団法人ヤマハスポーツ振興財団「トップスポーツ・プロジェクト」の平成30年度（2018年度）の成果をまとめたものである。
- これまで本プロジェクトでは「プロフェッショナル-アマチュア」の垣根を越えた「トップスポーツ」に着目し、わが国のトップレベルのリーグ、チーム（クラブ）の運営実態について探索的調査研究を進めてきた。
※「トップスポーツ」の持続可能なシステム構築に向けた探索的調査その1 -ジャパンラグビー トップリーグに着目して-（平成28年度実施）
- 平成30年度は「一般社団法人トップリーグ連携機構」と当該機構に所属する各リーグ、各チーム（クラブ）の協力により、トップレベルの競技組織が拠点地域（ホームタウン）において、どのような活動を行っているのか、その実態に迫る調査を実施することができた。
- 本プロジェクトの主要なテーマは「"地域社会"と"トップスポーツ"の未来像の探求」にあるが、地域への関わりはプロスポーツとアマチュアスポーツでは大きく異なる。しかしながら、地域の側（自治体、地域の民間組織、住民）の視点に立つならば、プロ・アマ問わずスポーツ組織は、地域経済の活性化やまちづくり、住民の健康増進、子どもたちの教育に関わる「資源」として期待される対象である。
- プロとアマの境界を越えた比較、種目間の比較、地域間の比較を可能とする本調査研究の学術的な意義は大きいと考えるが、本プロジェクトの各メンバーは、地域で活動するリーグやチーム（クラブ）の関係者、それらの組織に関わる競技団体、自治体、企業・NPOなどが活動の施策を策定していくことに活かせる研究にすることを常に心がけてきた。プロジェクトメンバー一同、これらの組織に本研究を活用していただき、わが国のトップスポーツと地域社会の振興に役立つことを期待している。
- 今後は自治体や地域住民に対する質問紙調査やインタビュー調査などを行い「トップスポーツと地域社会の未来像」について、より立体的に描くことができるような調査研究を実施していきたい。

最後に、本調査研究にご協力いただいた一般社団法人トップリーグ連携機構と機構に所属するリーグ、チームの関係者のみなさまにこの場を借りて心よりお礼を申し述べたい。

YMFIS調査研究トップスポーツ・プロジェクトリーダー
岡本純也（一橋大学 経営管理研究科 准教授）

【目次】

- 序章 報告書の概要
- 調査票
- 報告書サマリー
- 第1章 トップスポーツ組織の事業概況まとめ
- 第2章 トップスポーツ組織のホームタウンに関するまとめ
- 第3章 トップスポーツ組織の地域活動の捉え方や課題に関するまとめ
- 第4章 トップスポーツ組織の地域における具体的活動状況のまとめ
- 第5章 トップスポーツ組織が重要視するステークホルダーまとめ
- 第6章 トップスポーツ組織のマスコットキャラクター・商標・グッズに関するまとめ
- 第7章 トップスポーツ組織の地域活動におけるベンチマークまとめ
- 報告書執筆者一覧

◆序章：報告書の概要

【報告書について】

- 当財団が平成30年度（2018年）に実施した一般社団法人 日本トップリーグ連携機構に加盟する各リーグ所属の全国各地のトップスポーツ組織（プロ・実業団・大学）を対象に実施した「トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査」に協力いただいた全91組織（クラブ・チーム）の回答結果を分析し掲載しています。

※本調査にあたり、サッカーリーグで過去から継続実施中の「地域における普及・振興活動調査」を参考としています。

【全体構成について】

- 本報告書は以下で構成されています。

- ①（調査協力いただいた）トップスポーツ組織（クラブ・チーム）の基本属性
- ② 各設問に対する回答結果の分析

【その他】

- 回答クラブ・チーム数極少のリーグ（リーグ加盟クラブ・チーム総数に対し回答クラブ・チーム数が少ない、の意味）は、本分析結果が調査対象である該当リーグ全体の傾向や特徴を示していない可能性があります。
- フリーコメント等、一部設問について本報告書に調査結果を掲載していない場合があります。

調査の概要

【概要】 異なる背景や事業目的を有すトップスポーツ組織（クラブ・チーム）の取組みを、共通指標で比較可能なデータとして収集し、各組織におけるファン・スポンサー獲得・競技人口増など地域スポーツ振興や事業の安定拡大等の施策検討時への貢献を目指す。

【成果】 ・競技種目ごとのトップスポーツ組織の取組みにおける特徴を報告書にまとめる。
・**自チームの特徴が明確**になり、**今後どのような取組みを行うべきか**の施策立案に役立つデータベースの作成。

※本調査によって期待されるベネフィット

- ・**プロスポーツ組織**：地域密着型の事業強化に役立ち、ローカルレベルでのファン層拡大やスポンサー獲得に有用。
- ・**アマスポーツ組織**：母体企業（実業団の場合）以外からの多様かつ安定的な支援獲得に有用。

調査手法	➤ WEBアンケートと調査票郵送の併用（選択可）
対象者条件	➤ 日本トップリーグ連携機構加盟チームの内、本調査実施にあたり、協力意思を示した13リーグ（一部種目は男女を別カウント） 120クラブ・チーム
サンプル数	➤ 91サンプル（回収率75.83%）
実査期間	➤ 2018年7月10日～8月10日
調査実施機関	➤ 調査主体：公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 ➤ 調査協力：一般社団法人 日本トップリーグ連携機構 ➤ 調査委託：株式会社サーベイリサーチセンター

1) 基本属性

- ・チーム名
- ・チーム登録地
- ・設立年度
- ・ホームタウンの有無
- ・ホームスタジアムやグラウンドの有無
- ・チームのウェブサイトやSNSなど
- ・ファンクラブの有無
- ・ファンクラブ会員数など
- ・母体企業の有無（有りの場合、その名前）



2) 地域活動への実施内容、頻度、チーム側参加者について

- ・スポーツ教室（規模、回数、参加者数など）
- ・福祉&ボランティア活動（規模、回数など）
- ・地元イベント（具体的内容、規模、回数など）
- ・学校訪問（対象、回数、目的など）
- ・企業訪問（対象、回数、目的など）
- ・地域行政との連携活動（具体的内容など）
- ・スポンサー表敬訪問（規模、回数など）
- ・ファンクラブ等の支援団体向け活動など（具体的内容など）



※一部設問が異なる為、調査票を分けて調査実施。

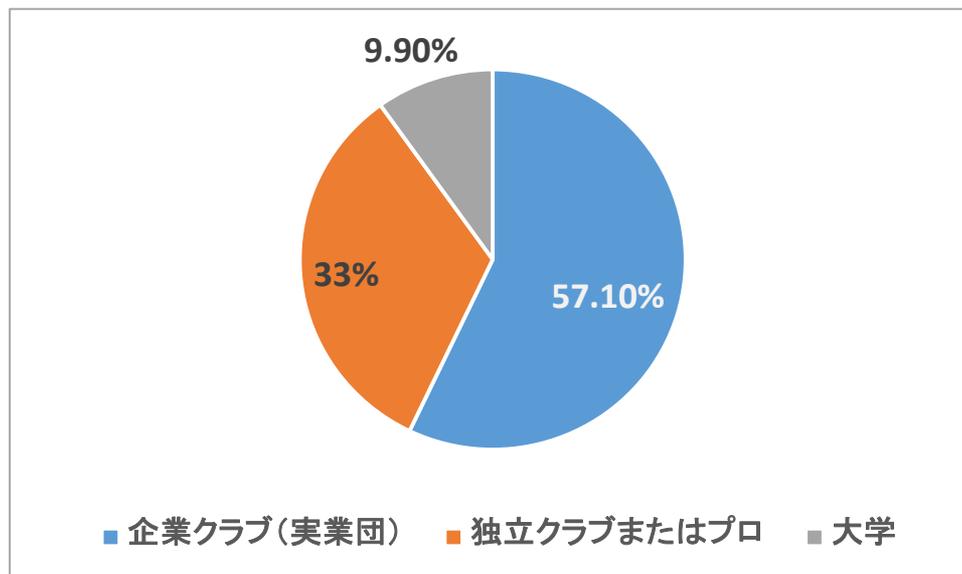
調査票は『チーム向け（企業クラブ。独立/プロ）』と『大学向け（大学系）』の2種類

回答クラブ・チームの基本属性

リーグ別クラブ・チーム数

	X リーグ	ホ ッ ケ ー 男 子	ホ ッ ケ ー 女 子	ア イ ス ホ ッ ケ ー	ソ フ ト ボ ー ル	な で し こ リ ー グ	ト ラ グ ビ ー ト ッ プ リ ー グ	W リ ー グ	V リ ー グ 男 子	V リ ー グ 女 子	リ ー グ 男 子 ハ ン ド ボ ー ル	リ ー グ 女 子 ハ ン ド ボ ー ル	B リ ー グ
加盟チーム数(n=230)	18	13	10	4	25	32	16	12	24	22	9	9	36
調査協力チーム数(n=120)	14	12	10	2	10	12	16	3	10	11	9	9	2
回答チーム数(n=91)	14	8	7	2	7	12	7	3	8	8	7	6	2
回答チーム数/加盟チーム数の比率	77.8	61.5	70.0	50.0	28.0	37.5	43.8	25.0	33.3	36.4	77.8	66.7	5.6

運営形態別回答クラブ・チーム比率



調査票 <企業クラブ・独立/プロクラブ向け①>

平成 30 年度

<チーム向け>

トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査

平成 30 年 7 月

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

ご記入上のお願い

本調査は日本トップリーグ連携機構様のご協力により、全国の加盟チームの皆さまを対象に、当財団が取組む「トップスポーツを活用した地域活性化・地域スポーツ振興活動への貢献」を目指す調査研究活動の基礎資料を得ることを目的としています。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。ご回答の際は、下記の点にご注意ください。

- 鉛筆もしくは黒・青のボールペンをお使いください。
- 最初のページから順番にお答えください。
- ご回答は質問文に従って、あてはまる番号を○で囲むか、該当する数字や文字をご記入ください。
- ご記入いただきましたアンケート用紙は、**7月20日(金)**までに同封の返信用封筒に入れて(切手は不要です)ご投函ください。

【調査実施機関】

調査主体:公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

調査協力:一般社団法人日本トップリーグ連携機構

調査委託:株式会社サーベイリサーチセンター

調査票の発送・回収・データ入力については、当財団の委託先である株式会社サーベイリサーチセンターが担当しております。調査の実施について、不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

【問合せ先】

株式会社 サーベイリサーチセンター 調査事務局 担当:鈴木

〒116-8581 東京都荒川区西日暮里2-40-10

TEL:03-3802-6760(月～金曜日、9時～17時)

URL: <http://www.surece.co.jp/>

■調査主催機関■

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 担当:尾鍋

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

TEL:0538-32-9827 (月～金曜日、9時～17時)

URL: <http://ymfs.co.jp>

◆ 記入者のプロフィール

氏名		所属	
役職		電話/FAX 番号	
E-mail			

I 貴団体の事業概要に関する設問 ※貴団体=クラブ・チームのこと、以下同じ

問1 以下のプロフィールをお答えください。

チーム名			
形態	1. 企業クラブ(実業団)	2. 独立クラブまたはプロ	3. 大学
親会社	※ない場合は「なし」とお書きください。		
運営会社団体名			
所属部署管轄			

問2 現在の組織体系での設立年について、お知らせください。(番号に1つ〇)

1. 2016年以降	2. 2015年	3. 2014年	4. 2013年
5. 2012年	6. 2011年	7. 2010年～2005年	8. 2004年～1995年
9. 1994年～1985年	10. 1985年以前		

問3 貴団体にはホームタウン(本拠地)がありますか。(番号に1つ〇)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

【問3で「1. はい」と回答された方にお伺いします】

問3-1 貴団体の「ホームタウン名」をお知らせください。(都道府県名および市区町村名でご記入ください)

※複数ある場合はすべてご記入ください。

--

問3-2 貴団体にとってのホームタウンとはどのようなものでしょうか。

--

問4. マスコットキャラクターについてお知らせください。(番号に1つ〇)

マスコットの有無	1. あり	2. なし
マスコットのきぐるみの有無	1. あり	2. なし

調査票 <企業クラブ・独立/プロクラブ向け②>

II 地域活動に関する設問

問5 貴団体にとって「地域活動」とは何を意味するのでしょうか。それぞれ「あてはまる」～「あてはまらない」のうちいずれかの番号 1 つに○をつけてください。またそれぞれ項目で想定している地域活動の具体的事例がありましたら各項目の下段にご記入ください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 地域への経済的支援	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒				
2. 地域への人的・物的資源の提供(地域イベントへの参加、試合会場の提供など)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒				
3. 自組織の取り組むスポーツ種目の地域での活用(スポーツ教室事業など)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒				
4. 経済的支援を地域から提供してもらうための仕組みづくり(市民株主や自治体からの助成金を獲得する仕組みづくりなど)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒				
5. 人的・物的支援を地域から提供してもらうための仕組みづくり(ボランティアを受け入れる仕組みづくりなど)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒				
6. その他	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒				

問5-1 上記 1～6 うち、貴団体に特に力を入れている・重要なものをお知らせください。(番号を 1 つ記入)

問6 貴団体が今後地域活動を強化してうえで、課題(目標と現状のギャップ認識)は明確かどうかについてお知らせください。(番号に 1 つ○)

1. まったく明確ではない	2. 明確ではない	3. どちらでもない	4. 明確である	5. 非常に明確である
---------------	-----------	------------	----------	-------------

問6-1 上記でお答えいただいた「課題」について具体的にお知らせください。

問7 以下の地域活動への参加頻度および、参加者についてお知らせください。

		参加者				
		選手	監督・コーチ	運営団体、部の組織トップ	運営団体、部の社員	マスコットキャラクター
学校訪問	1. 小学校や中学校への訪問活動 ※1	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
表敬訪問	2. スポンサーへの訪問	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	3. 県庁、市役所、区役所への訪問	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
地元イベント	4. 地元政治家/議連会合への出席	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	5. いじめ防止等社会啓発活動、キャンペーンへの協力、投票・納税の呼びかけ	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	6. 祭り・イベントへの出展・参加	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	7. 交通安全キャンペーン協力、一日警察署長	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	8. 商店街への訪問	回 1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし

※1 平日に学校の授業で行われたスポーツ教室、学校で行われる読み聞かせ、読書授業なども含む

調査票 <企業クラブ・独立/プロクラブ向け③>

	頻度	参加者					
		回/年	選手	監督・コーチ	運営団体、部の組織トップ	運営団体、部の社員	マスコットキャラクター
貴団体系 技種目の スポーツ 教室 イベント	9. クラブ運営のスクール等(有料)	回	1. あり 2. なし				
	会員数		人				
	10. 無料のスクール開催※2	回	1. あり 2. なし				
	11. 地域協会のイベント参加	回	1. あり 2. なし				
12. 指導者講習会の実施	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	
貴団体系 技種目 以外の スポーツ 教室 イベント	13. 貴団体系技種目以外のクラブの保有	保有数		保有種類			
	14. 貴団体系技種目以外のスポーツ教室やイベント(スポーツクリニック、マラソン大会、地元スポーツ大会等。)の実施有無	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 1. あり 2. なし </div> (1. ありの場合、15を回答)					
	15. 貴団体系技種目以外のスポーツ教室やイベント	回	1. あり 2. なし				

※2 休日放課後の学校での活動も含む

	頻度	参加者					
		回/年	選手	監督・コーチ	運営団体、部の組織トップ	運営団体、部の社員	マスコットキャラクター
福祉活動	16. 献血キャンペーンへの協力	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	17. 福祉施設、病院への訪問、障がい者/高齢者向けの活動など	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	18. 震災復興支援など被災地に関する活動	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
運営ボランティア・支援団体	19. ホームゲーム運営などにおけるボランティアスタッフ確保の方法(複数回答)	1. チームのボランティア組織がある チーム内に事務局が (1. あり 2. なし) 2. 試合を主管する競技団体を通じて確保 3. 自治体等のスポーツボランティア団体を通じて確保 4. その他 () 5. 運営はすべて有償スタッフで行っており、ボランティアはいない ⇒22へ					
	20. ボランティアがホームゲームの運営を支援した回数	回					
	21. ボランティアがホームゲーム以外の地域活動(地元イベントの参加、スポーツ教室、福祉活動など)を支援した回数	回	(ボランティアの支援を受けていない場合は0)				
	22. 後援会・ファンクラブの有無	1. 後援会あり、ファンクラブあり 2. 後援会あり、ファンクラブなし(後援会がファンクラブ機能を兼ねる) 3. 後援会あり、ファンクラブなし(後援会にファンクラブ機能なし) 4. 後援会なし、ファンクラブあり 5. 後援会なし、ファンクラブなし					

調査票 <企業クラブ・独立/プロクラブ向け④>

	頻度	参加者					
		回/年	選手	監督・コーチ	運営団体、部の組織トップ	運営団体、部の社員	マスコットキャラクター
チャリティイベント	23. 赤い羽根募金、ユニセフ募金、クラブ独自の公的目的募金の実施	回	1. あり 2. なし				
講演	24. 学校や企業、団体などでの講演活動	回	1. あり 2. なし				
環境活動	25. 地域の清掃ボランティア活動への協力	回	1. あり 2. なし				
物的支援を得るための仕組み作り	26. 地元企業による物品やサービスによる支援を受けいれる仕組みがある			1. あり 2. なし	2. なし		
資金的支援を得るための仕組み作り	27. 市民株主の仕組みがある			1. あり 2. なし	2. なし		
	28. 市民株主総会の仕組みがある			1. あり 2. なし	2. なし		
	29. スポンサー料を引き下げている			1. あり 2. なし	2. なし		
	30. 新聞等を通じて感謝広告を掲載している			1. あり 2. なし	2. なし		
その他	31. 必勝祈願、メディア等表彰式への出席	回	1. あり 2. なし				
その他 (上記に含まれない活動)	32. 具体的に ()	回	1. あり 2. なし				
	33. 具体的に ()	回	1. あり 2. なし				
	34. 具体的に ()	回	1. あり 2. なし				

Ⅲ 事業活動や成果に関する設問

問8 貴団体において重要視するステークホルダーの上位3つまで下記枠線内より番号をお選び頂き、それぞれの成果状況についてお知らせください。

ステークホルダーの番号	優先順位		
	1位	2位	3位

※下記枠線内選択肢を番号で記入

1. 観客	2. ファンクラブ(サポーター組織)会員	3. ホームタウン地域住民
4. 周辺地域住民(ホームタウン以外に在住)	5. 貴団体関係者(従業員など)	
6. スポンサー企業関係者(従業員、関連会社社員)	7. 株主	
8. 母体企業関係者(従業員、関連会社社員)	9. 母体企業の事業顧客	
10. 地域行政	11. その他()	

調査票 <企業クラブ・独立/プロクラブ向け⑤>

<商標使用について>

問9 ホームタウンなどの地域団体(行政、教育、商店街など)にチーム保有商標(チーム名、ロゴ、マスコットキャラクターデザインなど)の使用許諾についてお知らせください。

1. 無償で許可しており、活用している地域団体がある
2. 有償で許可しており、活用している地域団体がある
3. 無償で許可しているが、活用している地域団体はない
4. 有償で許可しているが、活用している地域団体はない
5. 使用を許可していない
6. その他()

問9-1 上記で活用している主な地域団体の具体名についてお知らせください。(主な団体名最大3つ)

--	--	--

問10 貴団体が保有する各種商標(ロゴ、マスコットキャラクターなど)を用いたPRグッズについてお知らせください。グッズがある場合はその配布方法もお知らせください。

	1. あり 2. なし	
ステッカー	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
ミニフラッグ	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
筆記用具 (ペン、メモパッド)	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
スポーツキャップ	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
タオル	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
レプリカユニフォーム	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
マスコットキャラクター ぬいぐるみ	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
キーホルダー	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
その他()	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある

<ベンチマークについて>

問11 貴団体が地域活動を行う際、各活動においてベンチマーク(事例参考や目標の意味)にしている他のスポーツ組織についてお知らせください。

ベンチマークにしているスポーツ組織がある場合は、リーグ名とチーム名をお知らせください。

	ベンチマークの有無	リーグ名	チーム名
競技普及促進活動(若年層向けスクールなど)	1. あり 2. なし		
支援者交流活動 (サイン会やファン交流会など)	1. あり 2. なし		
社会貢献活動(ボランティア、福祉支援など)	1. あり 2. なし		
地域活性化活動 (商店街やモールでのプロモーションなど)	1. あり 2. なし		

調査票〈大学系クラブ向け①〉

平成 30 年度

〈大学向け〉

トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査

平成 30 年 7 月

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

ご記入上のお願い

本調査は日本トップリーグ連携機構様のご協力により、全国の加盟チームの皆さまを対象に、当財団が取組む「トップスポーツを活用した地域活性化・地域スポーツ振興活動への貢献」を目指す調査研究活動の基礎資料を得ることを目的としています。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。ご回答の際は、下記の点にご注意ください。

- 鉛筆もしくは黒・青のボールペンをお使いください。
- 最初のページから順番にお答えください。
- ご回答は質問文に従って、あてはまる番号を○で囲むか、該当する数字や文字をご記入ください。
- ご記入いただきましたアンケート用紙は、**7月20日(金)**までに同封の返信用封筒に入れて(切手は不要です)ご投函ください。

【調査実施機関】

調査主体:公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

調査協力:一般社団法人日本トップリーグ連携機構

調査委託:株式会社サーベイリサーチセンター

調査票の発送・回収・データ入力については、当財団の委託先である株式会社サーベイリサーチセンターが担当しております。調査の実施について、不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

【問合せ先】

株式会社 サーベイリサーチセンター 調査事務局 担当:鈴木

〒116-8581 東京都荒川区西日暮里2-40-10

TEL:03-3802-6760(月～金曜日、9時～17時)

URL:<http://www.surece.co.jp/>

■調査主催機関■

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 担当:尾鍋

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

TEL:0538-32-9827 (月～金曜日、9時～17時)

URL:<http://ymfs.co.jp>

◆ 記入者のプロフィール

氏名		所属	
役職		電話/FAX 番号	
E-mail			

I 貴団体の事業概要に関する設問 ※貴団体=クラブ・チームのこと、以下同じ

問1 以下のプロフィールをお答えください。(番号に1つ〇)

チーム名				
------	--	--	--	--

形態	1. 体育会運動部	2. 準体育会運動部	3. サークル	4. その他 ()
----	-----------	------------	---------	---------------

大学内の 管轄部署	1. 運動部を統括する専門部署	2. その他の部署	<具体名>		
法人格	1. クラブを運営するもしくは支援する法人がある(OBOG会、後援会なども含む) 2. クラブ運営に関して法人化された組織はないが設立を検討している 3. クラブ運営に関して法人化された組織はなく設立も検討していない				
監督	1. 大学教員	2. 大学職員	3. 大学雇用の 選任指導者	4. 学外の ボランティア	5. その他 ()

問2 現在の組織体系での設立年について、お知らせください。(番号に1つ〇)

1. 2016年以降	2. 2015年	3. 2014年	4. 2013年
5. 2012年	6. 2011年	7. 2010年～2005年	8. 2004年～1995年
9. 1994年～1985年	10. 1985年以前		

問3 大学のクラブである貴団体がトップリーグに参加する理由について、お知らせください。

調査票 <大学系クラブ向け②>

問4 貴団体にはホームタウン(本拠地)がありますか。(番号に1つ〇)

1. はい 2. いいえ

【問3で「1. はい」と回答された方にお伺いします】

問4-1 貴団体の「ホームタウン名」をお知らせください。(都道府県名および市区町村名でご記入ください)
※複数ある場合はすべてご記入ください。

問4-2 貴団体にとってのホームタウンとはどのようなものでしょうか。

【問3で「2. いいえ」と回答された方にお伺いします】

問4-3 将来的にホームタウンを設定することは検討していますか。またその理由をお知らせください。

1. はい 2. いいえ

【理由】

問5. マスコットキャラクターについてお知らせください。(番号に1つ〇)

マスコットの有無	1. あり	2. なし
マスコットのきぐるみの有無	1. あり	2. なし

II 地域活動に関する設問

問6 貴団体にとって「地域活動」とは何を意味するものでしょうか。それぞれ「あてはまる」～「あてはまらない」のうちいずれかの番号 1 つに〇をつけてください。またそれぞれ項目で想定している地域活動の具体的な事例がありましたら各項目の下段にご記入ください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 地域への経済的支援	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒	<input type="text"/>			
2. 地域への人的・物的資源の提供(地域イベントへの参加、試合会場の提供など)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒	<input type="text"/>			
3. 自組織の取り組むスポーツ種目の地域での活用(スポーツ教室事業など)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒	<input type="text"/>			
4. 経済的支援を地域から提供してもらうための仕組みづくり(市民株主や自治体からの助成金を獲得する仕組みづくりなど)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒	<input type="text"/>			
5. 人的・物的支援を地域から提供してもらうための仕組みづくり(ボランティアを受け入れる仕組みづくりなど)	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒	<input type="text"/>			
6. その他	1	2	3	4
↳ 具体的事例⇒	<input type="text"/>			

問6-1 上記 1～6 うち、貴クラブで特に力を入れている・重要なものをお知らせください。(番号を1つ記入)

問7 貴団体が今後地域活動を強化してうえで、課題(目標と現状のギャップ認識)は明確かどうかについてお知らせください。(番号に1つ〇)

1. まったく明確ではない	2. 明確ではない	3. どちらでもない	4. 明確である	5. 非常に明確である
---------------	-----------	------------	----------	-------------

問7-1 上記でお答えいただいた「課題」について具体的にお知らせください。

調査票〈大学系クラブ向け③〉

問8 以下の地域活動への参加頻度及び、参加者についてお知らせください。

	頻度	参加者					
		回/年	選手	監督・コーチ	部長	管轄部署の大学職員	マスコットキャラクター
学校訪問	1. 小学校や中学校への訪問活動 ※1	回	1. あり 2. なし				
表敬訪問	2. スポンサーへの訪問	回	1. あり 2. なし				
	3. 県庁、市役所、区役所への訪問	回	1. あり 2. なし				
地元イベント	4. 地元政治家/議連会合への出席	回	1. あり 2. なし				
	5. いじめ防止等社会啓発活動、キャンペーンへの協力、投票・納税の呼びかけ	回	1. あり 2. なし				
	6. 祭り・イベントへの出席・参加	回	1. あり 2. なし				
	7. 交通安全キャンペーン協力、一日警察署長	回	1. あり 2. なし				
	8. 商店街への訪問	回	1. あり 2. なし				

※1 平日に学校の授業で行われたスポーツ教室、学校で行われる読み聞かせ、読書授業なども含む

	頻度	参加者					
		回/年	選手	監督・コーチ	部長	管轄部署の大学職員	マスコットキャラクター
貴団体操技種目のスポーツ教室イベント	9. クラブ運営のスクール等(有料)	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	会員数		人				
貴団体操技種目以外のスポーツ教室イベント	10. 無料のスクール開催 ※2	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	11. 地域協会のイベント参加	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	12. 指導者講習会の実施	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
貴団体操技種目以外のスポーツ教室イベント	13. 貴団体操技種目以外のスポーツ教室やイベント(スポーツリニック、マラソン大会、地元スポーツ大会等。)の実施有無		<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 1. あり 2. なし (1. ありの場合、14を回答) </div>				
	14. 貴団体操技種目以外のスポーツ教室やイベント	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし

※2 休日放課後の学校での活動も含む

調査票 <大学系クラブ向け④>

	頻度	参加者					
		回/年	選手	監督・コーチ	部長	管轄部署の大学職員	マスコットキャラクター
福祉活動	15. 献血キャンペーンへの協力	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	16. 福祉施設、病院への訪問、障がい者/高齢者向けの活動など	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
	17. 震災復興支援など被災地に関する活動	回	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし	1. あり 2. なし
運営ボランティア・支援団体	18. 競技運営などにおけるボランティアスタッフ確保の方法(複数回答)	1. チームのボランティア組織がある ↳ チーム内に事務局が (1. あり 2. なし) 2. 試合を主管する競技団体を通じて確保 3. 自治体等のスポーツボランティア団体を通じて確保 4. その他 () 5. 運営はすべて有償スタッフで行っており、ボランティアはいない ⇒21へ					
	19. ボランティアが競技の運営を支援した回数	回					
	20. ボランティアが競技以外の地域活動(地元イベントの参加、スポーツ教室、福祉活動など)を支援した回数	回	(ボランティアの支援を受けていない場合は0)				
	21. 後援会・ファンクラブの有無		1. 後援会あり、ファンクラブあり 2. 後援会あり、ファンクラブなし(後援会がファンクラブ機能を兼ねる) 3. 後援会あり、ファンクラブなし(後援会にファンクラブ機能なし) 4. 後援会なし、ファンクラブあり 5. 後援会なし、ファンクラブなし				

	頻度	参加者					
		回/年	選手	監督・コーチ	部長	管轄部署の大学職員	マスコットキャラクター
チャリティイベント	22. 赤い羽根募金、ユニセフ募金、クラブ独自の公的目的募金の実施	回	1. あり 2. なし				
	23. 学校や企業、団体などでの講演活動	回	1. あり 2. なし				
環境活動	24. 地域の清掃ボランティア活動への協力	回	1. あり 2. なし				
物的支援を得るための仕組み作り	25. 地元企業による物品やサービスによる支援を受けられる仕組みがある			1. あり	2. なし		
資金的支援を得るための仕組み作り	26. 市民株主の仕組みがある(支援法人がある場合のみ)			1. あり	2. なし		
	27. 市民株主総会の仕組みがある(支援法人がある場合のみ)			1. あり	2. なし		
	28. スポンサー料を引き下げている			1. あり	2. なし		
	29. 新聞等を通じて感謝広告を掲載している			1. あり	2. なし		
その他	30. 必勝祈願、メディア等表彰式への出席	回	1. あり 2. なし				
その他(上記に含まれない活動)	31. 具体的に ()	回	1. あり 2. なし				
	32. 具体的に ()	回	1. あり 2. なし				
	33. 具体的に ()	回	1. あり 2. なし				

調査票 <大学系クラブ向け⑤>

Ⅲ 事業活動や成果に関する設問

問8 貴団体において重要視するステークホルダーの上位3つまで下記点線枠内より番号をお選び頂き、それぞれの成果状況についてお知らせください。

ステークホルダーの番号	優先順位		
	1位	2位	3位

※下記枠線内選択肢を番号で記入

1. 観客	2. ファンクラブ(サポーター組織)会員	3. 大学もしくは練習場周辺の地域住民
4. ホームタウン地域住民	5. 貴大学学生	6. 貴大学教職員
7. OBOG会	8. 後援会	
9. 学生の保護者	10. 中央競技団体	11. 学連
12. スポンサー企業		
13. 地域行政	14. その他()	

<商標使用について>

問9 ホームタウンなどの地域団体(行政、教育、商店街など)にチーム保有商標(チーム名、ロゴ、マスコットキャラクターデザインなど)の使用許諾についてお知らせください。

1. 無償で許可しており、活用している地域団体がある
2. 有償で許可しており、活用している地域団体がある
3. 無償で許可しているが、活用している地域団体はない
4. 有償で許可しているが、活用している地域団体はない
5. 使用を許可していない
6. その他()

問9-1 上記で活用している主な地域団体の具体名についてお知らせください。(主な団体名最大3つ)

--	--	--

問10 貴団体が保有する各種商標(ロゴ、マスコットキャラクターなど)を用いたPRグッズについてお知らせください。グッズがある場合はその配布方法もお知らせください。

ステッカー	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
ミニフラッグ	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
筆記用具 (ペン、メモパッド)	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
スポーツキャップ	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
タオル	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
レプリカユニフォーム	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
マスコットキャラクター ぬいぐるみ	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
キーホルダー	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある
その他()	1. あり 2. なし	1. 全て無償配布(頒布)している 2. 全て有償配布(販売)している 3. アイテムによって無償と有償がある

調査票〈大学系クラブ向け⑥〉

〈ベンチマークについて〉

問11 貴団体が地域活動を行う際、各活動においてベンチマーク(事例参考や目標の意味)にしている他のスポーツ組織についてお知らせください。

ベンチマークにしているスポーツ組織がある場合は、リーグ名とチーム名をお知らせください。

	ベンチマークの有無	リーグ名	チーム名
競技普及促進活動(若年層向けスクールなど)	1. あり 2. なし		
支援者交流活動 (サイン会やファン交流会など)	1. あり 2. なし		
社会貢献活動(ボランティア、福祉支援など)	1. あり 2. なし		
地域活性化活動 (商店街やモールでのプロモーションなど)	1. あり 2. なし		

◆サマリー1：地域との関わり方に対する意識・行動について

- 調査に回答したトップスポーツ組織の**約9割に本拠地（ホームタウン）がある**。
また、ホームタウンの定義とは“クラブの試合会場・練習場がある所”との認識が最も多い。（第2章より）
- ホームタウンを“地域密着の場”として**地域連携に眼を向けるトップスポーツ組織も多い**。（第2章より）
- トップスポーツ組織は『**自組織が取り組むスポーツ種目の活用**』を最も地域活動として意識している。（第3章より）
- トップスポーツ組織での“**地域への支援**”として『選手や指導者（監督・コーチ）による、小中学生など子どもを対象としたスポーツ教室』が積極的に実施されている。（第3章より）
- トップスポーツ組織における“**地域からの支援**”は、試合開催時のボランティアを中心とした『人的・物的』なものと、地方行政が設定する活動助成金などの『経済的』なものが中心である。（第3章より）
- トップスポーツ組織における“地域活動に関する課題認識”の度合いは、**プロクラブほど高い傾向**である。（第3章より）
- トップスポーツ組織が考える地域課題とは『**地域との連携強化を通じたクラブや競技の認知度向上**』や『**競技普及**』などが主である。（第3章より）

◆ サマリー2： トップスポーツ組織の事業に関する活動や意識

- 各リーグとも「後援会」や「ファンクラブ」など、**継続的な事業支援組織**がある。（第4章より）
- **地元企業から物品やサービスなどの支援を受ける仕組み**を有するトップスポーツ組織は多い。（第4章より）
- **市民株主制度**などを採用しているトップスポーツ組織は無かった。（第4章より）
- プロクラブほど、「**ボランティア組織の活用**」に積極的である。（第4章より）
- トップスポーツ組織が重視するステークホルダーは**クラブの事業基盤安定化に関する回答**が目立った。（第5章より）
- トップスポーツ組織では**運営形態に関わらず『ファンクラブ』や『観客』などが上位**になるが、企業系クラブでは『母体企業関係者』が上位、大学系クラブでは『大学関係者』が上位になる。（第5章より）
- 地域に対する『クラブが保有する商標』の使用許諾は、リーグによって『無償許諾』と『許諾なし』に**二極化**している。特に**プロクラブは『無償許可』の割合が高い**。（第6章より）
- 各リーグとも、グッズは『タオル』『筆記用具』『キーホルダー』など、ファンや支援者が**日常生活で使い易いものや役立つものが中心**である。（第6章より）
- 様々な地域活動（競技普及、ファンとの交流など）における**ベンチマークとして『Jリーグ』**を挙げるクラブが最も多かった。具体的には『**川崎フロンターレ**』『**名古屋グランパス**』『**豊田合成トレフェルサ**』などが注目されている。（第7章より）

◆第1章：トップスポーツ組織の事業概要まとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

<問1> プロフィール（運営形態・法人格有無・監督ポジションなど）

※運営形態区分（企業系・独立／プロ系・大学系）

<問2> 現在の組織体系での設立年

【内容サマリー】

<問1>

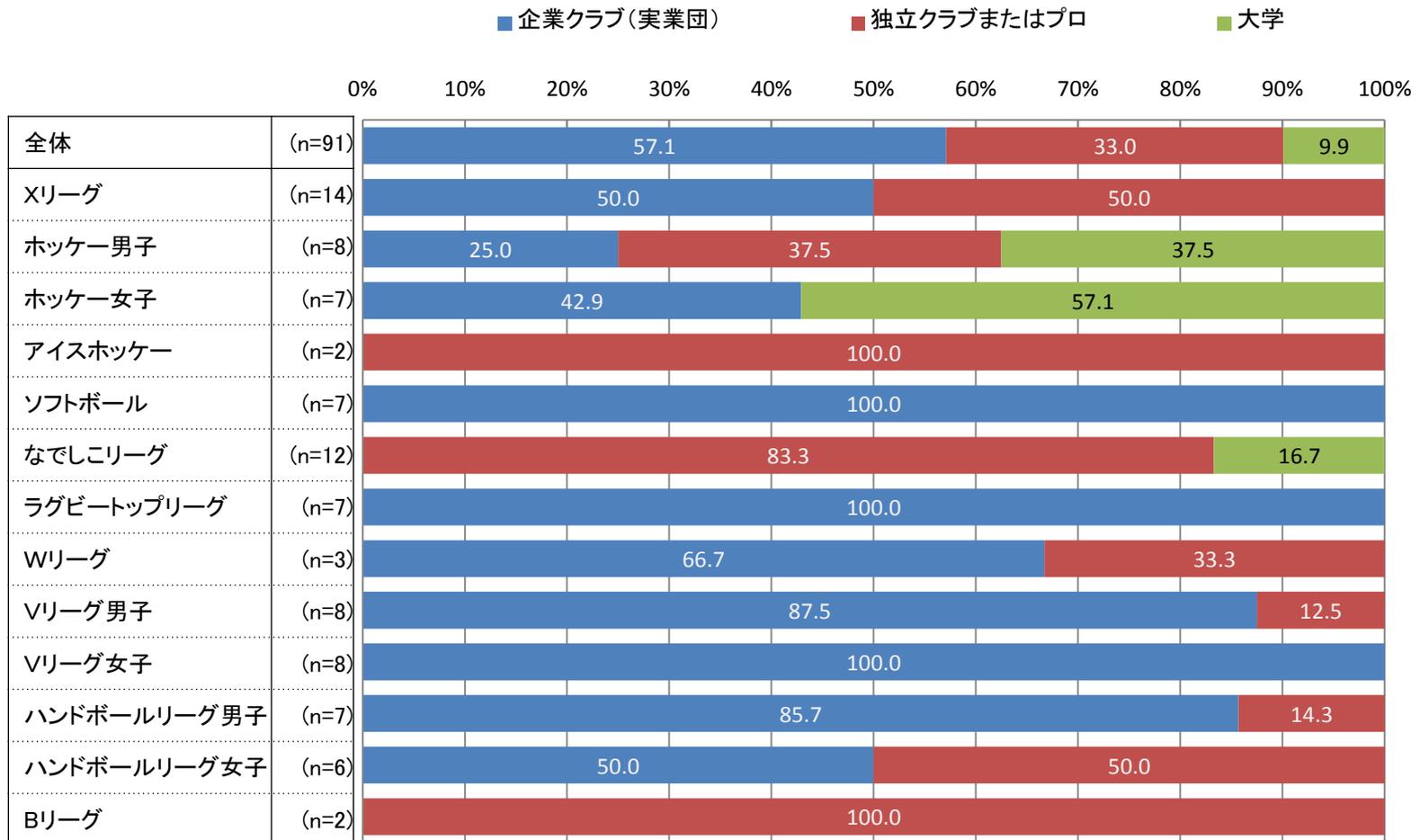
- ・回答組織の運営形態比率は**企業系6割、プロ系3割、大学系1割**。
- ・ホッケー男子のみ、3つの事業形態（企業・独立／プロ・大学）が含まれる。
- ・大学系クラブの**約8割**が「法人格取得済み」。
- ・大学系クラブの**約9割**が「体育会運動部」。

<問2>

- ・**1985年以前に設立**された組織が最も多く約4割である。
- ・国内で**企業（実業団）スポーツが盛んだった時代**に設立された組織が多い。

問1.各組織の事業運営形態について

- 全体比率では『企業クラブ』が**57.1%**、『独立クラブまたはプロ』が**33.0%**、『大学系』が**9.9%**。
- ホッケー男子のみ、3つの事業形態（企業・独立/プロ・大学）が含まれている。
- ソフトボール、ラグビートップリーグ、Vリーグ女子は『企業クラブ』のみ。アイスホッケー、Bリーグは『独立/プロ』のみ。

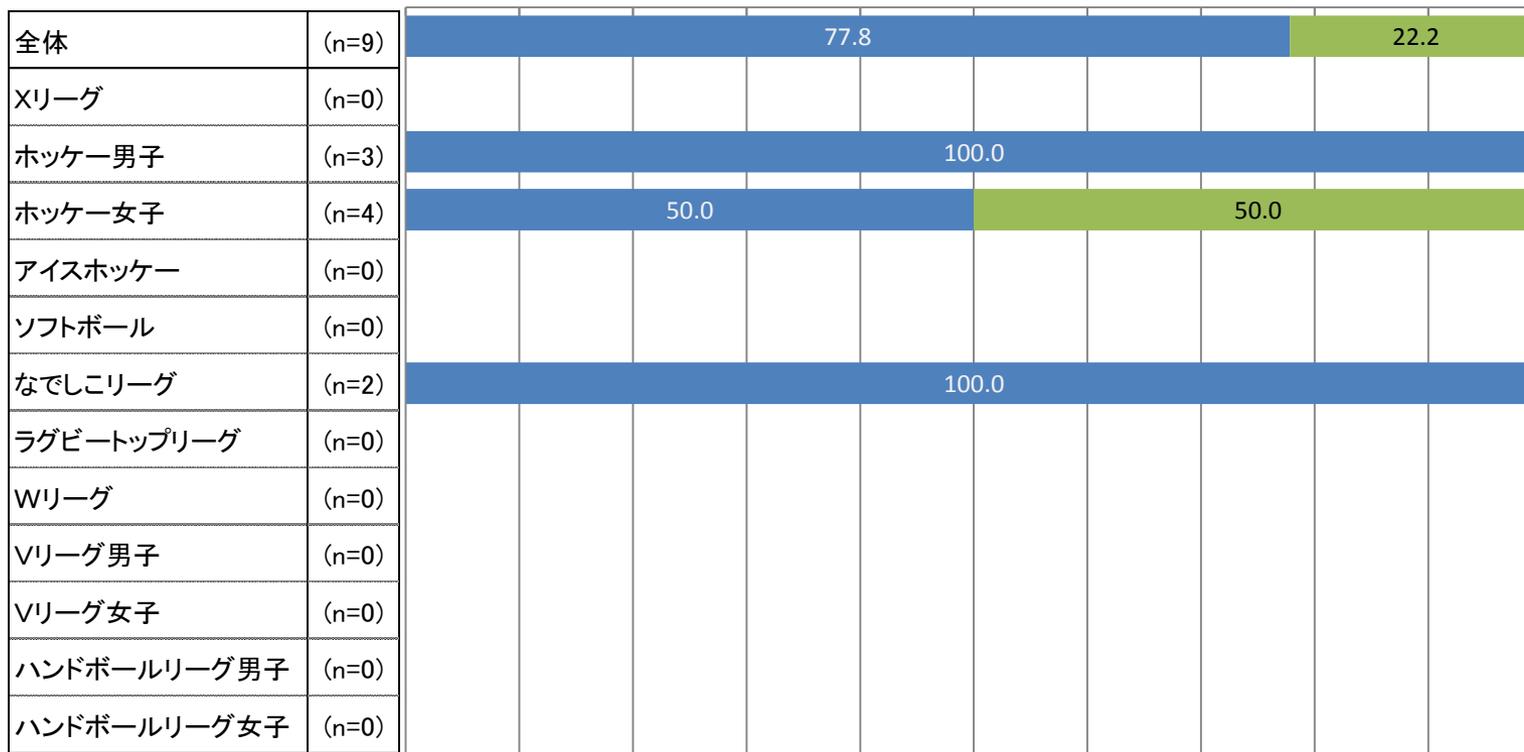


問1.大学系クラブの法人格有無について

- 全体では**77.8%**が『法人格』を取得している。
- ホッケー男子と、なでしこリーグは回答した**全てのクラブ**が『法人格』を取得している。
- ホッケーは、男女間で『法人格』の取得や今後の計画について差がある。

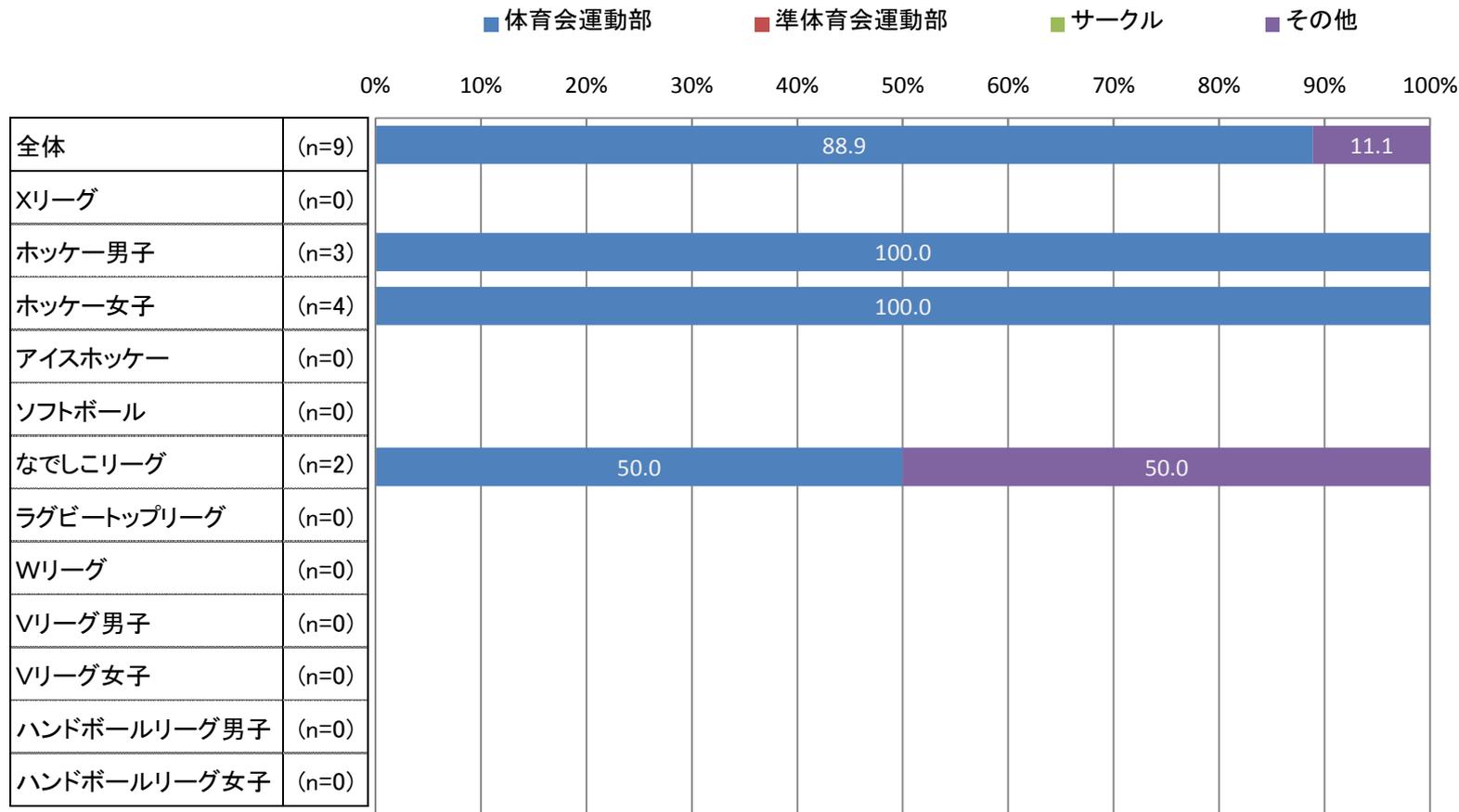
- クラブを運営するもしくは支援する法人がある(OBOG会、後援会なども含む)
- クラブ運営に関して法人化された組織はないが設立を検討している
- クラブ運営に関して法人化された組織はなく設立も検討していない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



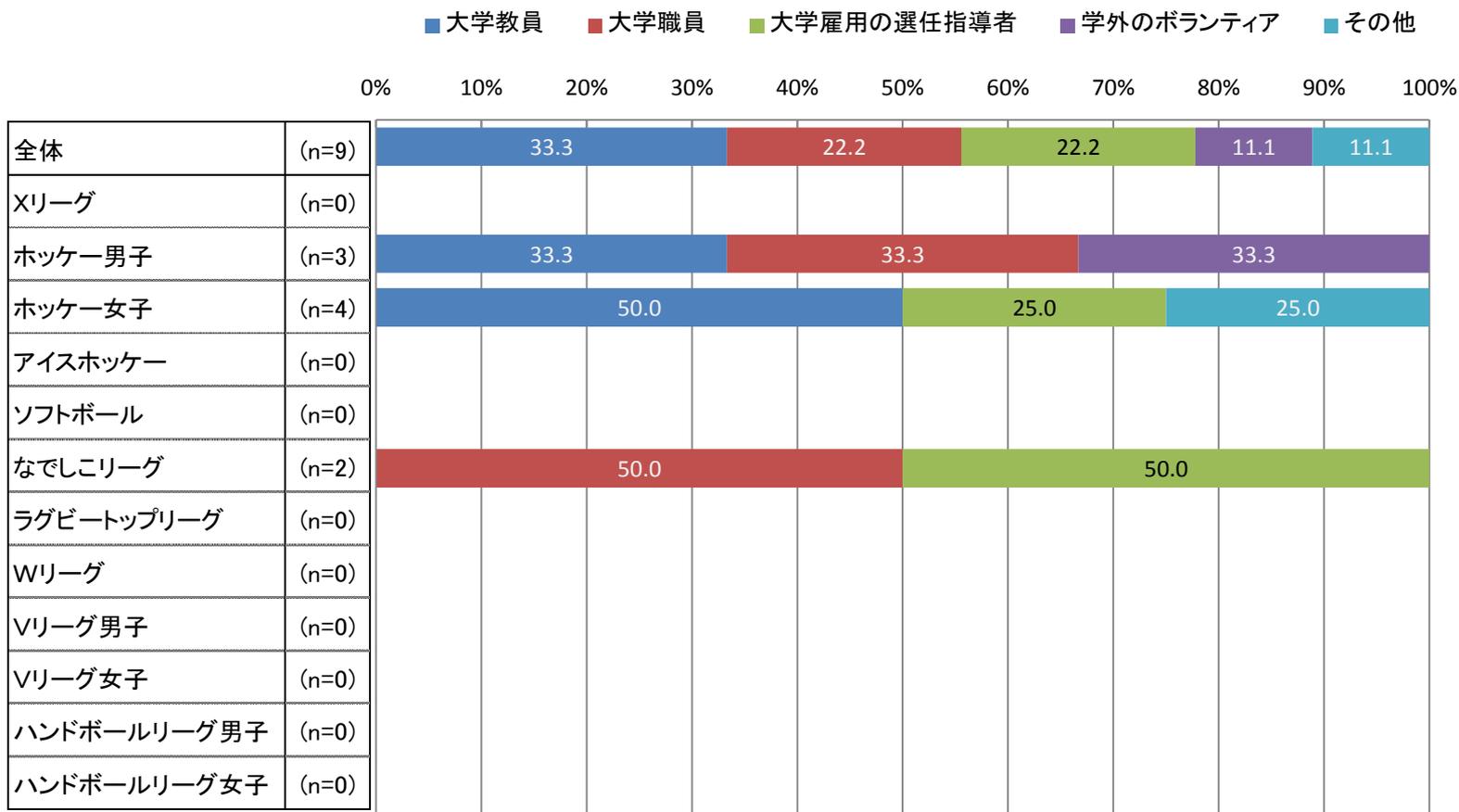
問1.大学系クラブの運営形態について

- 全体では**88.9%**が『体育会運動部』であった。
- 『準体育会運動部』や『サークル』が運営しているケースは無い。
- ホッケーは男女とも『体育会運動部』が運営している。



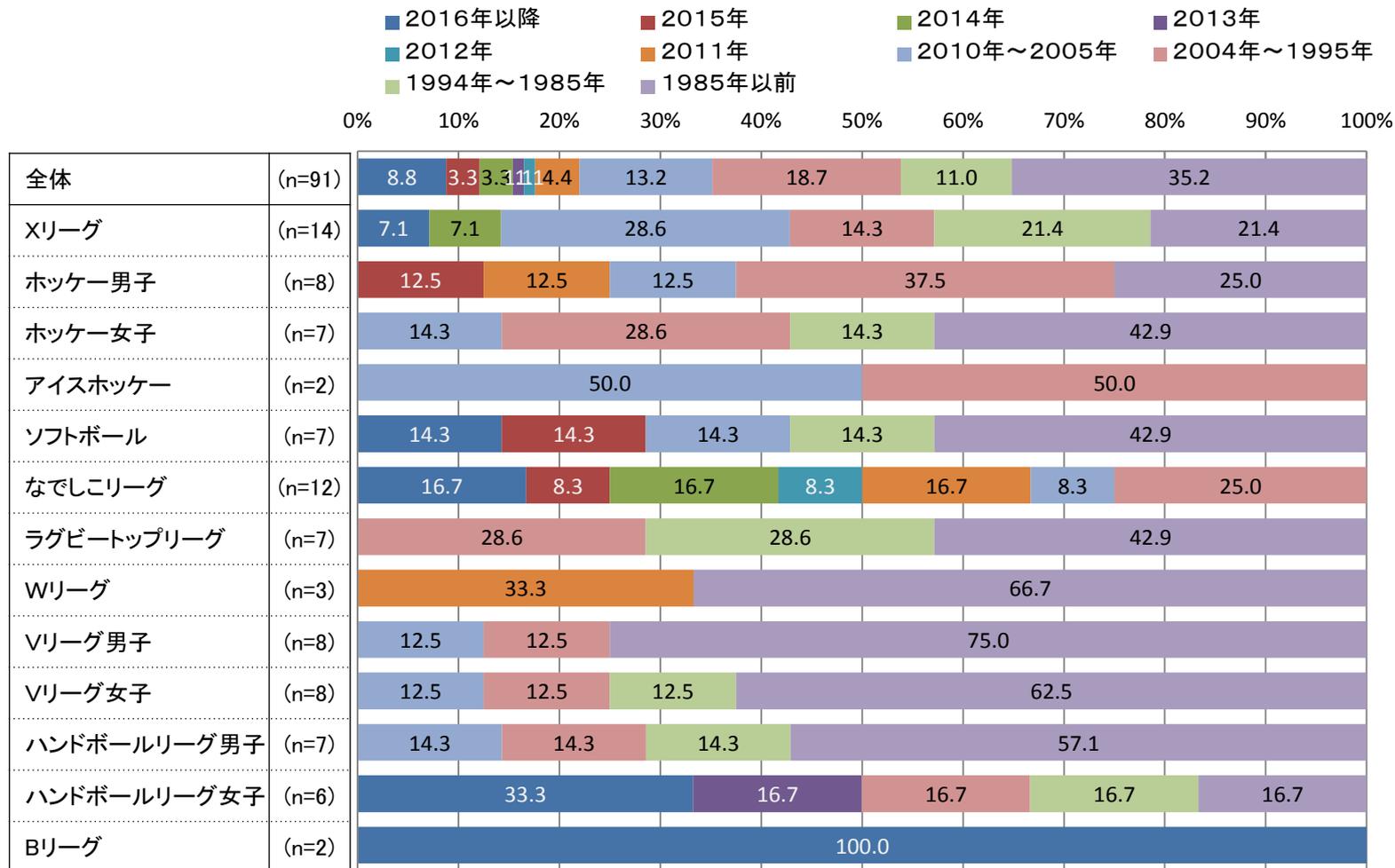
問1.大学系クラブの監督について

- 全体平均では『**大学教員**』が**最も多く**、次いで『大学職員』と『選任指導者』が同率となっている。
- 監督は『大学教員』のケースが最も多く**33.3%**。なでしこリーグでは『大学教員』の監督起用は無かった。
- ホッケー男子は『学外のボランティア』が、ホッケー女子と、なでしこリーグは『大学雇用の選任指導者』が監督就任。



問2.現在の組織体系での設立年は？

- 全体平均では『**1985年以前**』が最も多く35.2%であった。
- バレーボール、ハンドボール、女子バスケなど**実業団スポーツ**が盛んであった**昭和時代**に設立されたクラブが多い。
- Jリーグ発足やバブル崩壊後の経済立ち直り時期に設立されたクラブが、ホッケー、なでしこリーグなどに見られる。



◆第2章：トップスポーツ組織のホームタウンに関するまとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

<問3> ホームタウン（本拠地）の有無

<問3-2> ホームタウンとは、どのような存在か？

【内容サマリー】

<問3>

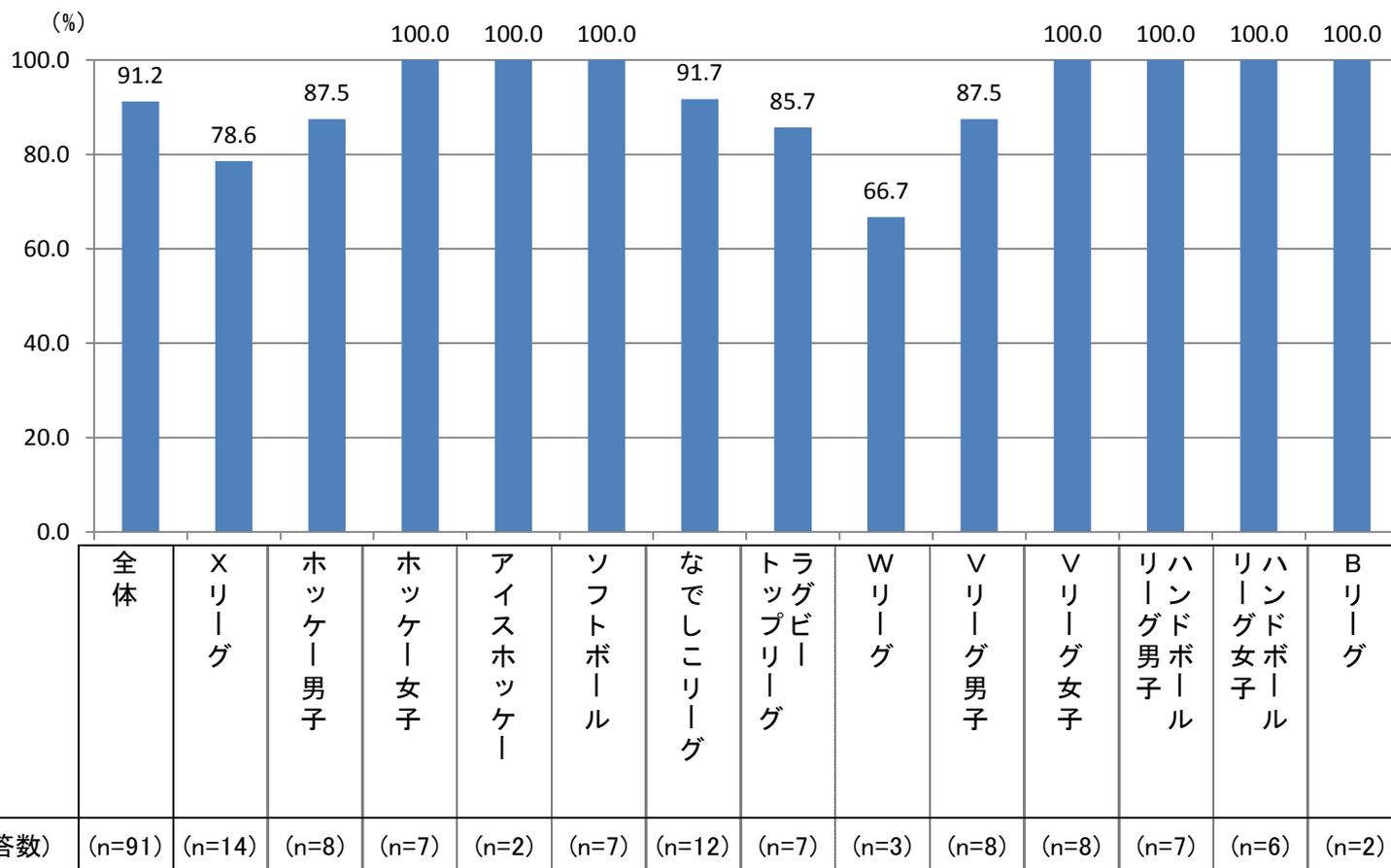
- ・全体では**約9割**の組織に「ホームタウン」あり。
- ・バレーボールVリーグとホッケーは、**女子の方が**「ホームタウンあり」と多く回答。

<問3-2>

- ・「**クラブの活動拠点**」と回答したクラブは**約4割**で最も多かった。
定義として“クラブの試合会場・練習場がある所”との認識が最も多い。
- ・「**地域密着の場**」と回答したクラブは**約2割強**で2番目に多く、
地域との連携に眼を向けているクラブも多い。

問3.貴団体にホームタウン（本拠地）はありますか？

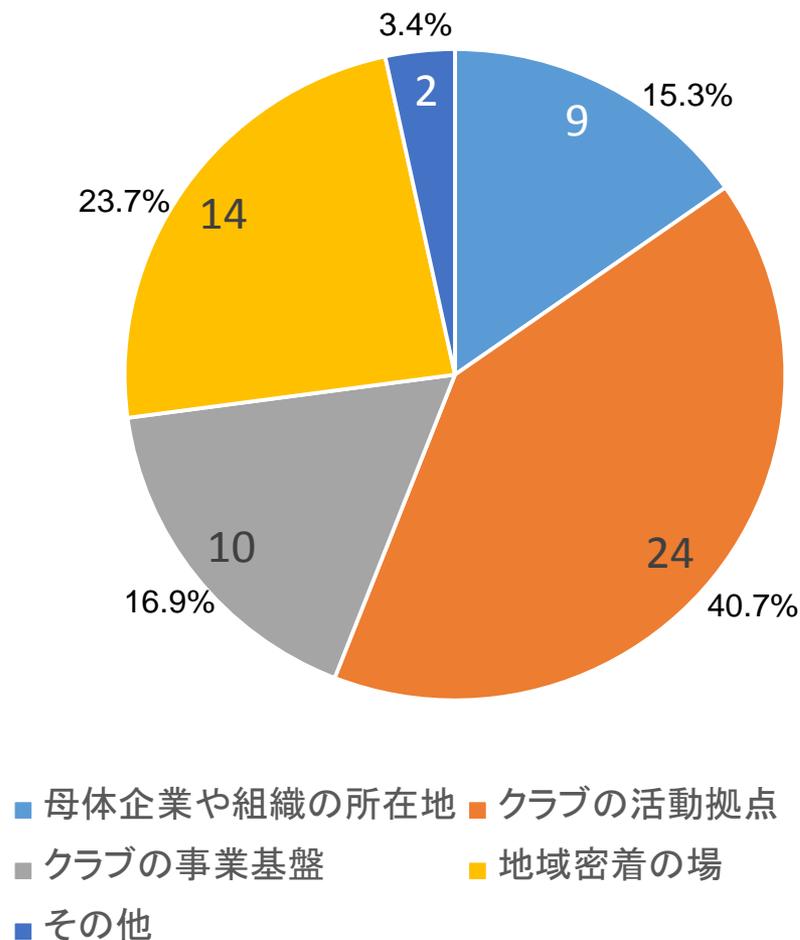
- 全体平均ではクラブの**91.2%**が『チーム本拠地あり』と回答。なお、**リーグごとにバラつき**がある。
- Vリーグ（バレーボール）とホッケーは『チーム本拠地あり』と回答する比率は、**女子の方が男子より高い**。
- Wリーグ（バスケットボール女子）は**66.7%**に留まる。



問3-2.貴団体にとって『ホームタウン』とは、どういう存在でしょう？ ※自由記述

- 『クラブの活動拠点』が最も多く**24クラブ**（40.7%）が回答。
- 『地域密着の場』と回答したのが次に多く**14クラブ**（23.7%）。
- 『クラブの事業基盤（10クラブ）』や『母体企業や組織の所在地（9クラブ）』と回答したのは、**ほぼ同数**。

※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



◆第3章：トップスポーツ組織の地域活動の捉え方や課題に関するまとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

<問5> 地域活動に関する各種取組みの捉え方

<問6> 地域活動に関する課題

【内容サマリー】

<問5>

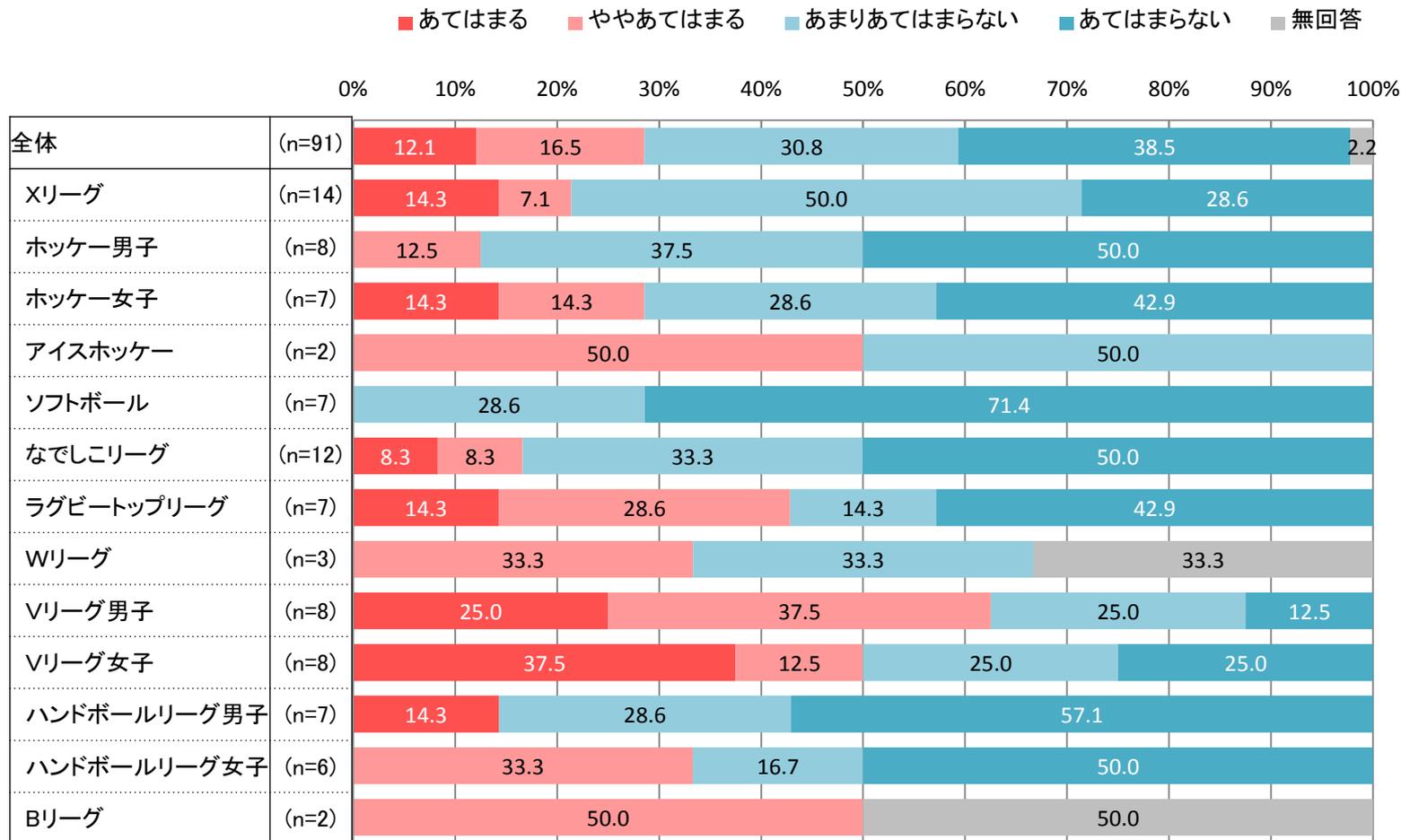
- ・最も力を入れる地域活動は「自組織が取組むスポーツ種目の活用」との回答が最も多く**約6割**。
- ・「地域への人的・物的資源の提供」を地域活動とするのは**9割を超える**が、「地域への経済支援」は**3割以下**にとどまった。
- ・“**地域への支援**”は「選手や指導者（監督・コーチ）による小中学生など子供を対象としたスポーツ教室」が積極的に実施されている。
- ・“**地域からの支援**”は試合開催時のボランティアを中心とした「人的・物的」なものと、地方行政が設定した活動助成金など「経済的」なものが中心。

<問6>

- ・地域活動に関する課題認識は、**プロクラブほど明確度が高い**。
- ・**組織が考える地域課題**とは「地域との連携強化を通じたクラブや競技の認知度向上」と「競技普及」などが主である。

問5-1.『地域への経済的支援』は地域活動でしょうか？

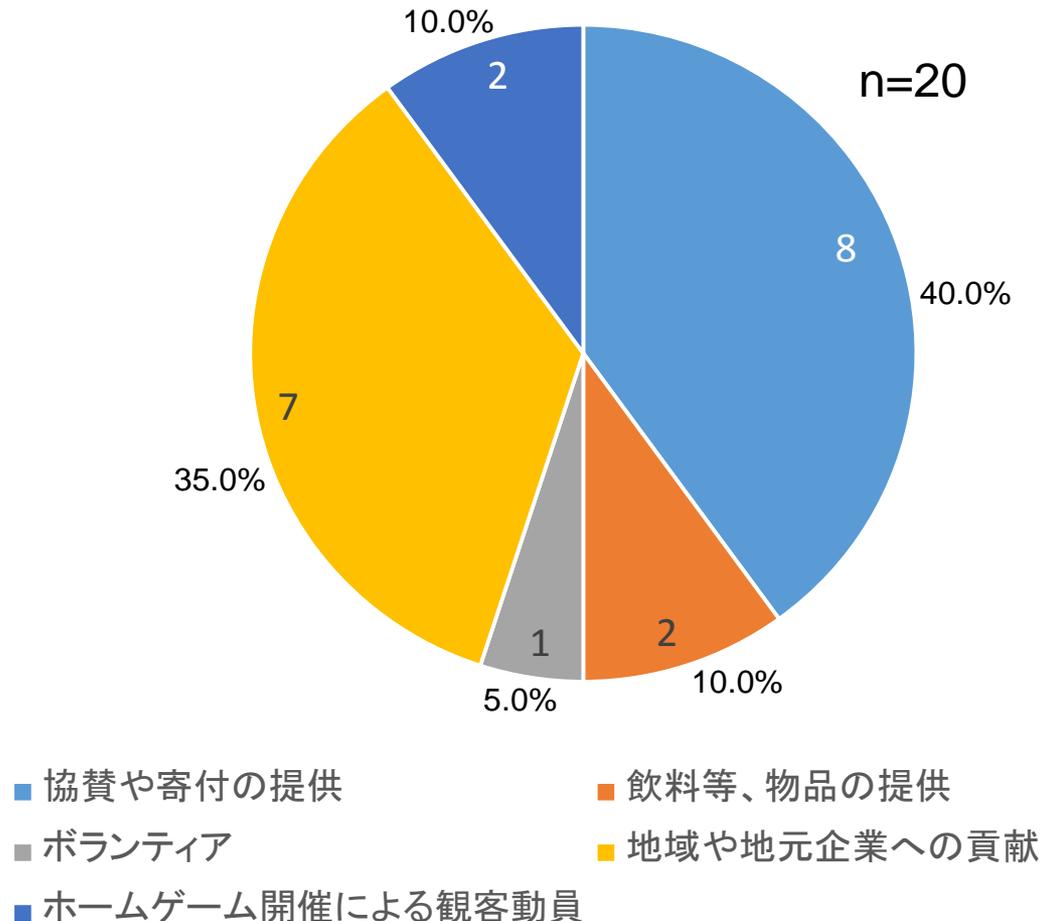
- 全体平均では『あてはまる』と『ややあてはまる』を選択したクラブの合算は**28.6%**であった。
- アイスホッケー、ラグビートップリーグ、Vリーグ（男女）、ハンド女子は**全体と異なる傾向**を示した。
- ソフトボールは回答した**全クラブ**が『あてはまらない・あまりあてはまらない』を選択した。



問5-1.『地域への経済的支援』として取り組むものは？ ※自由記述

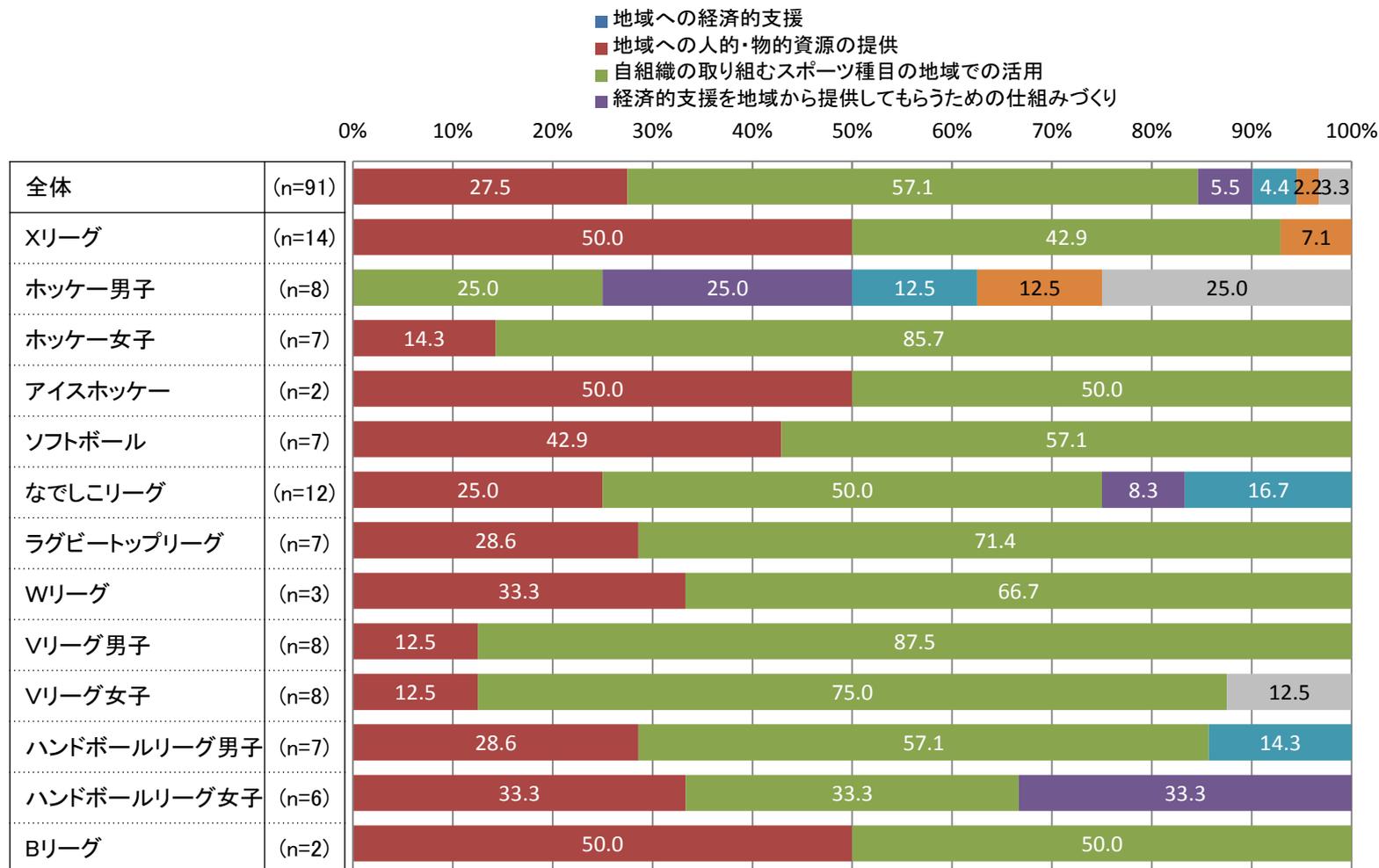
- 『協賛や寄付の提供』が最も多く**8クラブ (40.0%)** が回答。
- 『地域や地元企業への貢献』も**7クラブ (35.0%)** から回答。
- 『飲料等、物品の提供』と『ホームゲーム開催による観客動員』と回答したのは、各**2クラブ (10.0%)**。

※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



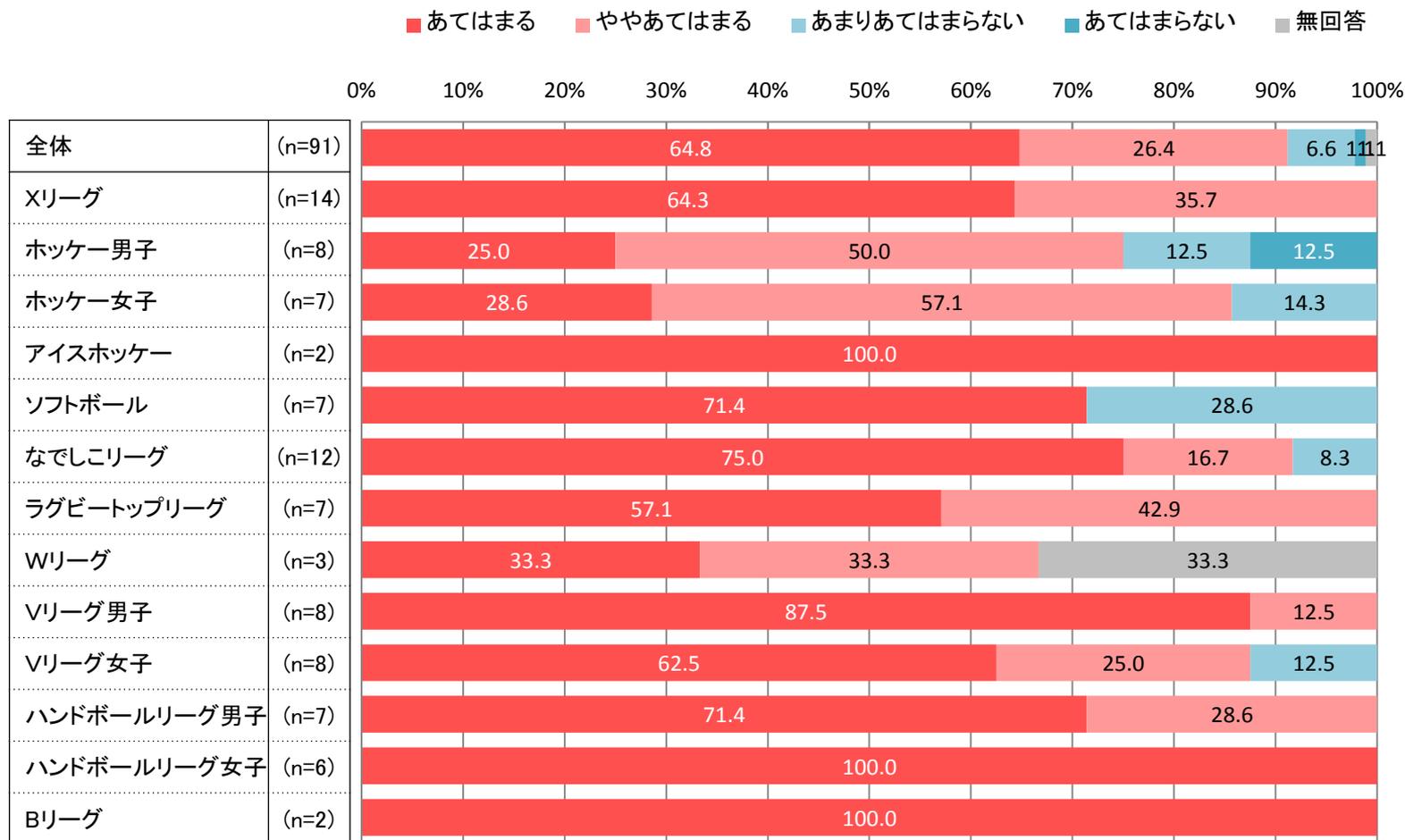
問5-1.地域活動として『特に力を入れている・重要なもの』は？

- 全体平均では『自組織の取り組むスポーツ種目の地域での活用』が最も多く、**57.1%**。
- アイスホッケーとBリーグは、**全く同じ傾向**を示している。
- なでしこリーグ、ハンドボール男子、ハンドボール女子は**近似傾向**を示している。



問5-2.『地域への人的・物的資源の提供』は地域活動でしょうか？

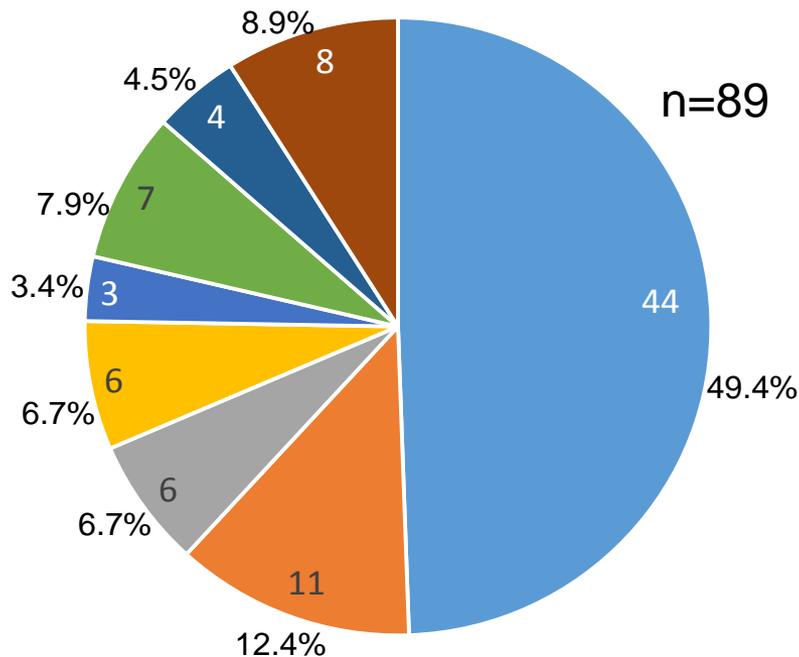
- 全体平均では『あてはまる・ややあてはまる』と回答したのは**91.2%**。
- ホッケー男子とソフトボール。それぞれ**約3割**が『あてはまらない・あまりあてはまらない』と回答した。
- アイスホッケーとBリーグでは回答した**全てのクラブ**が『あてはまる』と回答した。



問5-2.『地域への人的・物的資源の提供』として取り組むものは？ ※自由記述

- 『地域イベント（お祭り、スポーツ、福祉）への参加』との回答が最も多く**44クラブ（49.4%）**。
- 『保有施設の貸し出し（イベント、試合など）』が**11クラブ（12.4%）**『ボランティア活動』が**8クラブ（8.9%）**。
- 『1日警察署長、税務署長、消防署長』に取り組んでいるのは**7クラブ（7.9%）**。

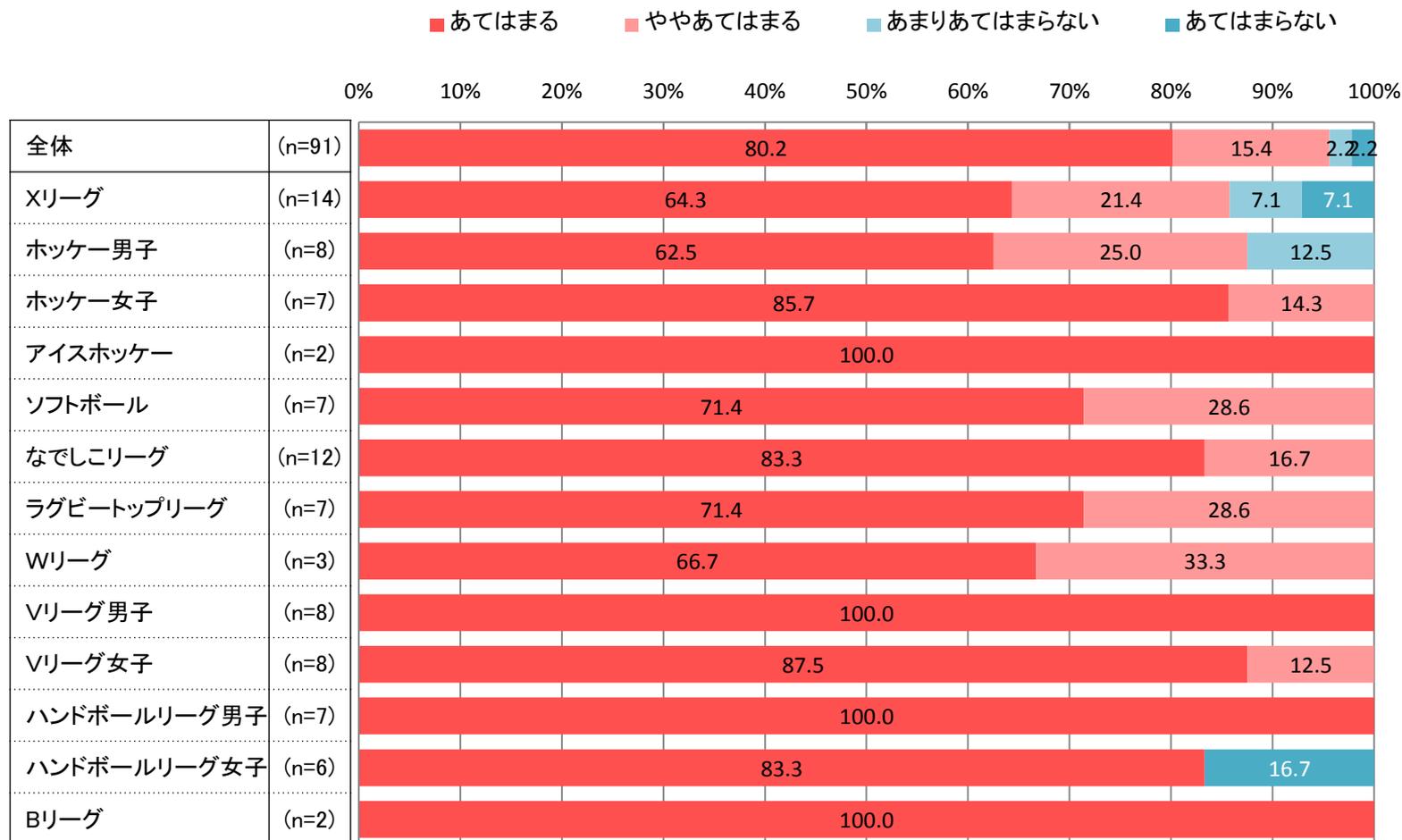
※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



- 地域イベント（お祭り、スポーツ、福祉）への参加
- 保有施設の貸し出し（イベント、試合など）
- 地域大会へのスタッフ（役員、審判など）派遣
- 子ども向けスクールの開催
- グッズや観戦チケットなどの提供
- 1日警察署長や税務署長など
- 大会の開催
- ボランティア活動

問5-3.『自組織の取組むスポーツ種目の地域での活用』は地域活動でしょうか？

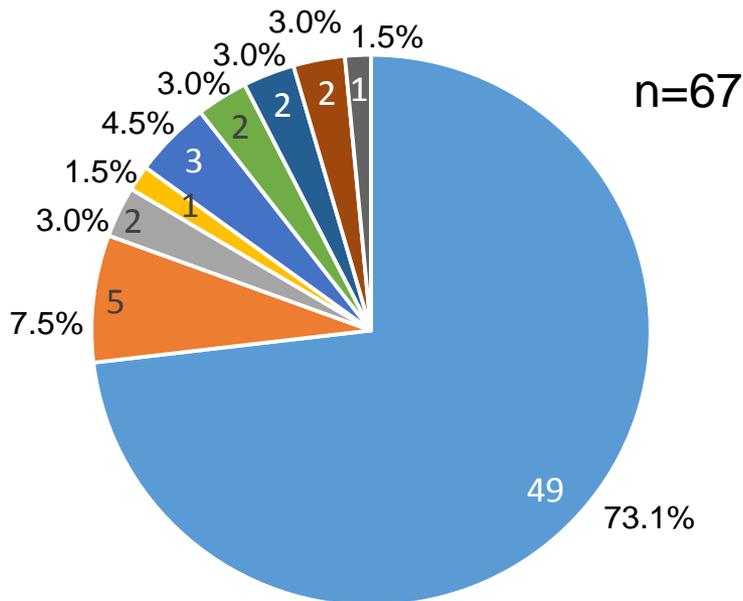
- 全体平均では**95.6%**のクラブが『あてはまる・ややあてはまる』と回答。
- アイスホッケー、Vリーグ男子、ハンドボール男子、Bリーグでは**回答した全てのクラブ**が『あてはまる』と回答。
- Xリーグ、ホッケー男子、ハンドボール女子には『あてはまらない』『あまりあてはまらない』と回答したクラブがあった。



問5-3.『自組織の取り組むスポーツ種目の地域での活用』として取り組むものは？ ※自由記述

- 『子どもや大人向けスクールの開催』がもっとも多く、**49クラブ (73.1%)** から回答。
- 『ジュニアチームの育成』と回答したのは**5クラブ (7.5%)**。次いで『指導者講習会』が**3クラブ (4.5%)**。

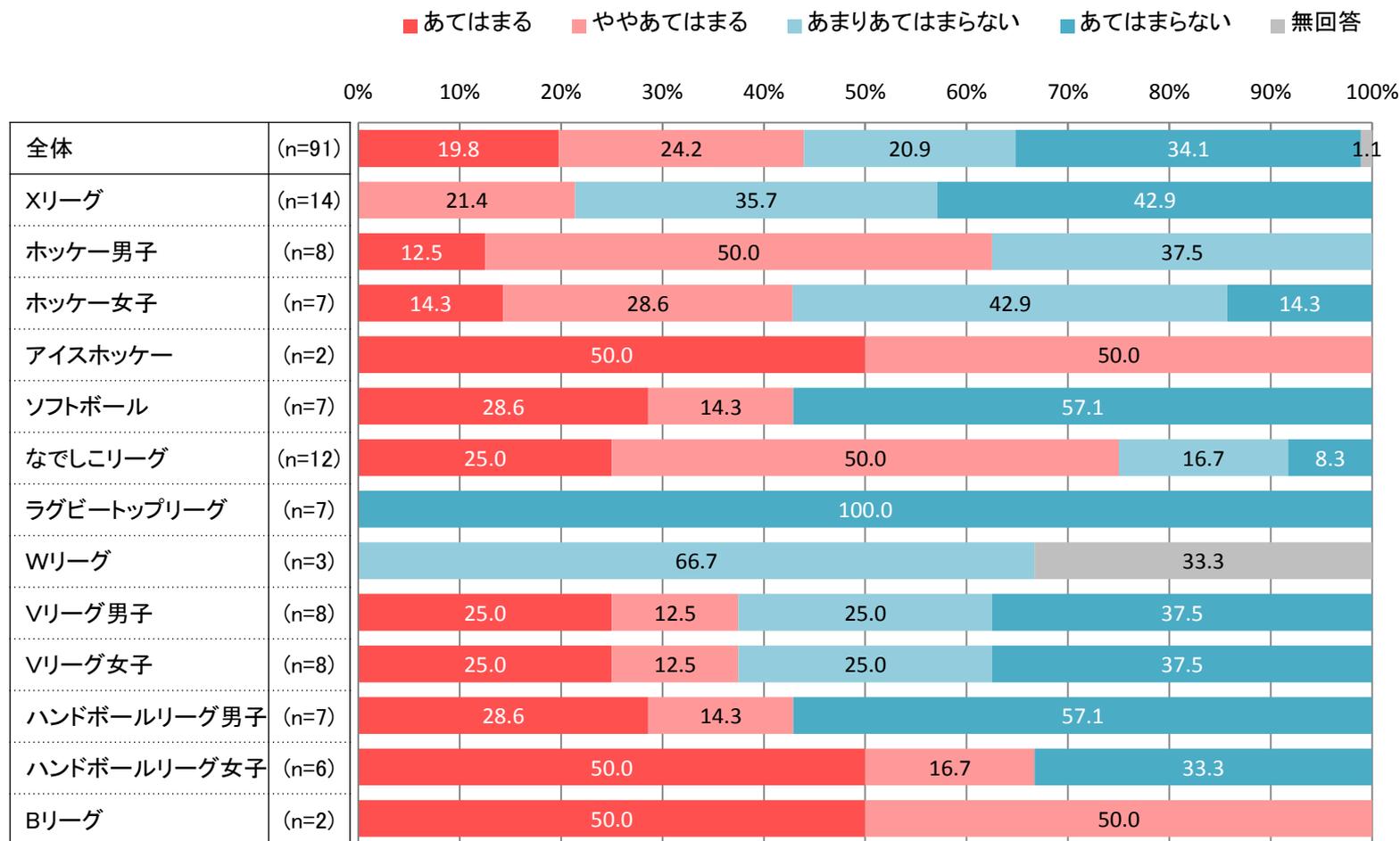
※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



- 子どもや大人向けスクールの開催
- ジュニアチームの育成
- 冠大会の開催
- 要請に応じて対応
- 指導者講習会
- 行政へのサポート
- 地域スポーツクラブの指導
- 選手や指導者の派遣
- チームによるボランティア

問5-4.『経済的支援を地域から提供してもらうための仕組みづくり』は地域活動でしょうか？

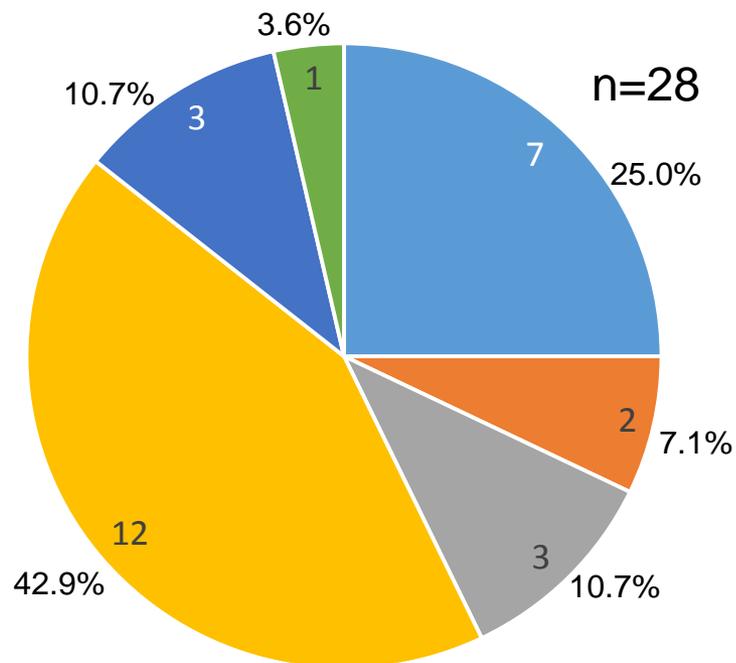
- 全体平均では『あてはまらない』が**34.1%**と最も多く、残りは、ほぼ同率。
- 『アイスホッケー』と『ラグビートップリーグ & Wリーグ』では**回答傾向が真逆**である。
- アイスホッケーとBリーグは『あてはまる & ややあてはまる』との回答に集中した。



問5-4.『経済的支援を地域から提供してもらう仕組み作り』として取り組むものは？ ※自由記述

- 『行政の支援策活用（助成金など）』が最も多く、**12クラブ（42.9%）**。
- 『個人や企業サポーター、ファンクラブ』と回答したのは**7クラブ（25.0%）**。
- 『スポンサーの開拓や営業』『地域との連携・協定』と回答したのは、それぞれ**3クラブ（10.7%）**。

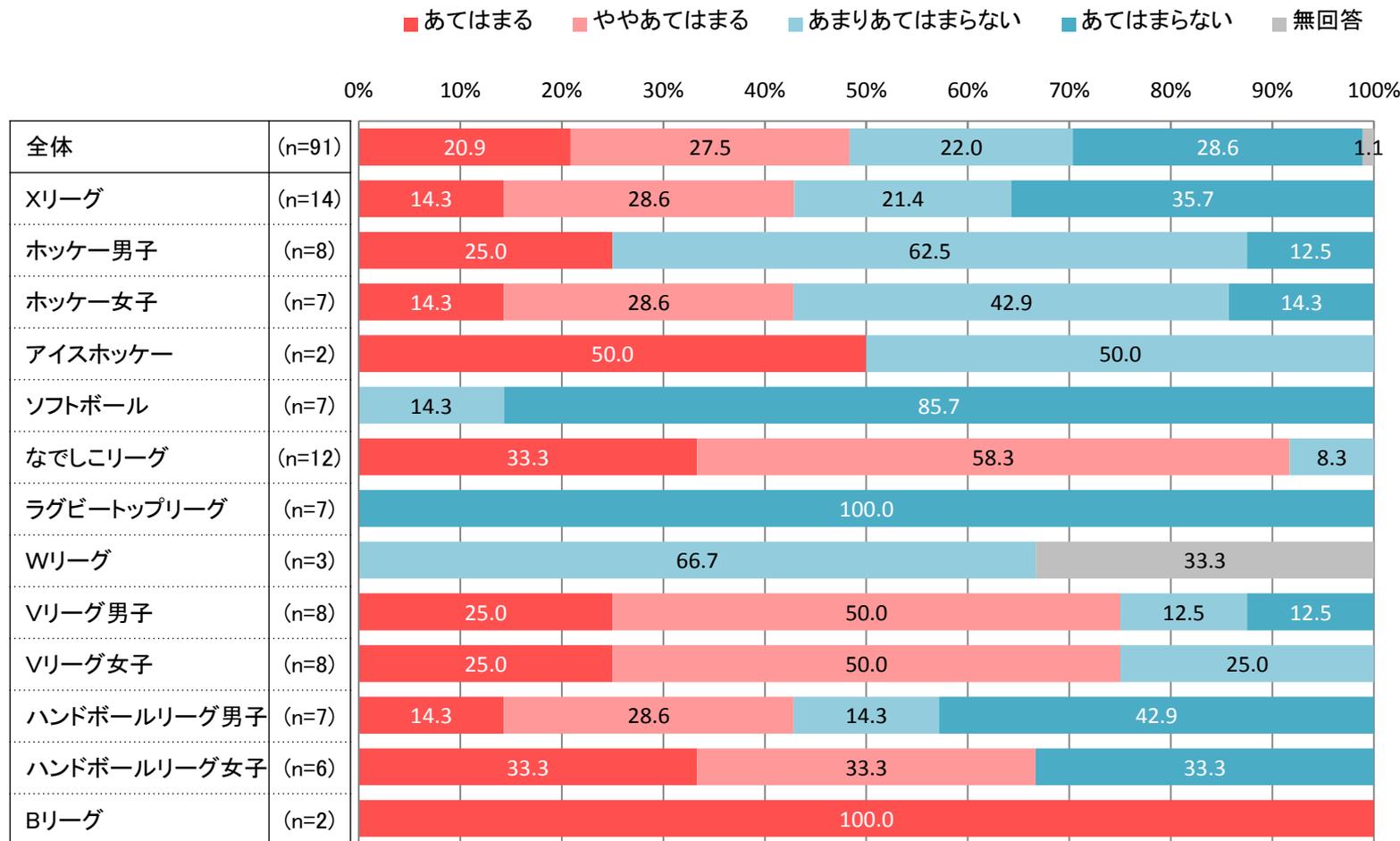
※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



- 個人や企業サポーター、ファンクラブ
- その他
- スポンサー開拓や営業
- 行政の支援策活用
- 地域との連携・協定
- 選手の雇用受入

問5-5.『人的・物的支援を地域から提供してもらうための仕組みづくり』は地域活動でしょうか？

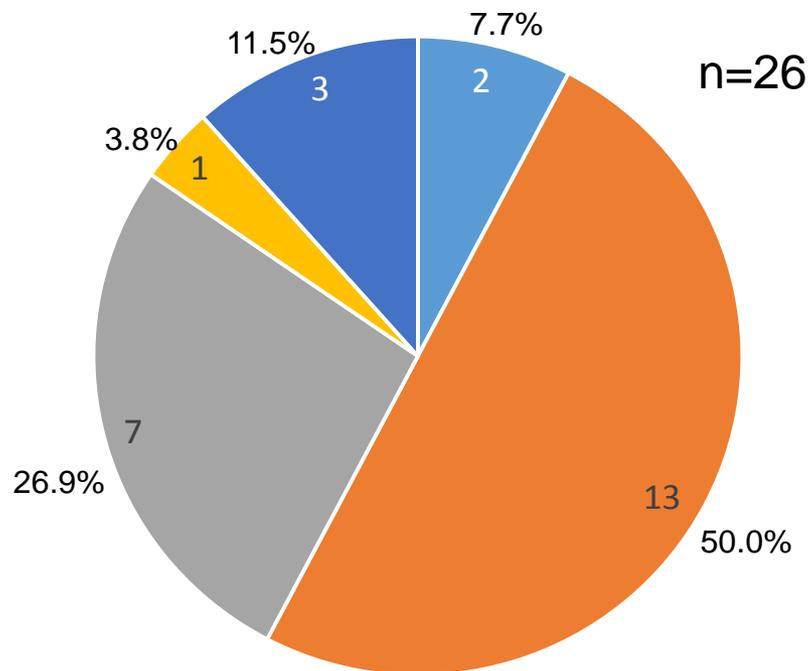
- 全体平均では『ややあてはまる』と『あてはまらない』が**同率**。同様に『あてはまる』と『あまりあてはまらない』も**同率**。
- ソフトボール、ホッケー男子、ラグビー、Wリーグは**回答した全クラブ**が『あてはまらない・あまりあてはまらない』と回答。
- Bリーグ、なでしこリーグ、Vリーグ（男女）、ハンド女子では『あてはまる・ややあてはまる』が**過半数**。



問5-5.『人的・物的支援を地域から提供してもらう仕組み作り』として取り組むものは？ ※自由記述

- 『大会時の支援や補助受入』が最も多く、**13クラブ (50.0%)**。
- 『地域団体や組織との連携』と回答したのは**7クラブ (26.9%)**。

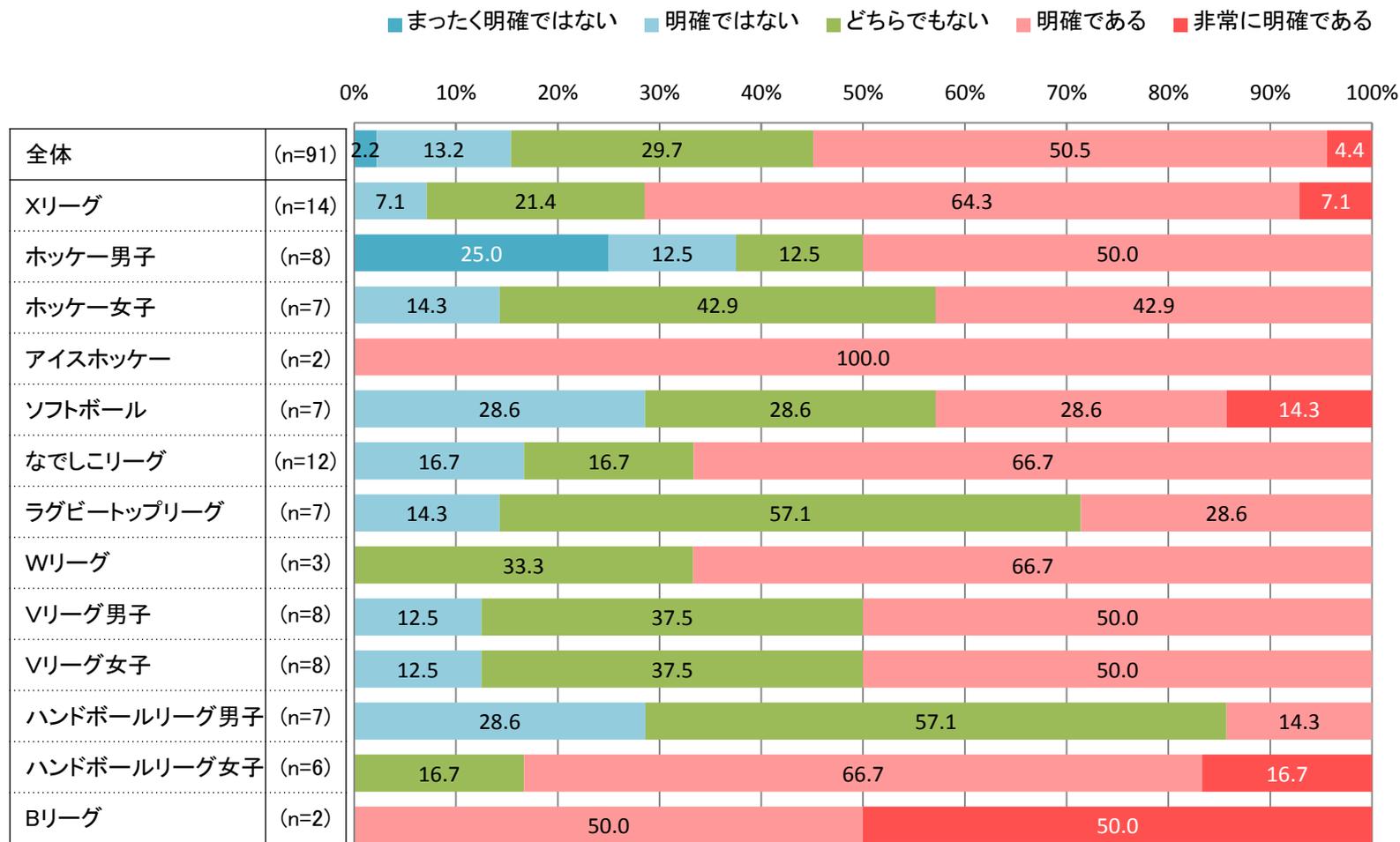
※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



- サポーターズ組織の活用
- 大会時の支援や補助受入
- 地域団体や組織との連携
- グッズ提供や配布
- その他

問6. 今後、地域活動をしていく上で、課題は明確ですか？

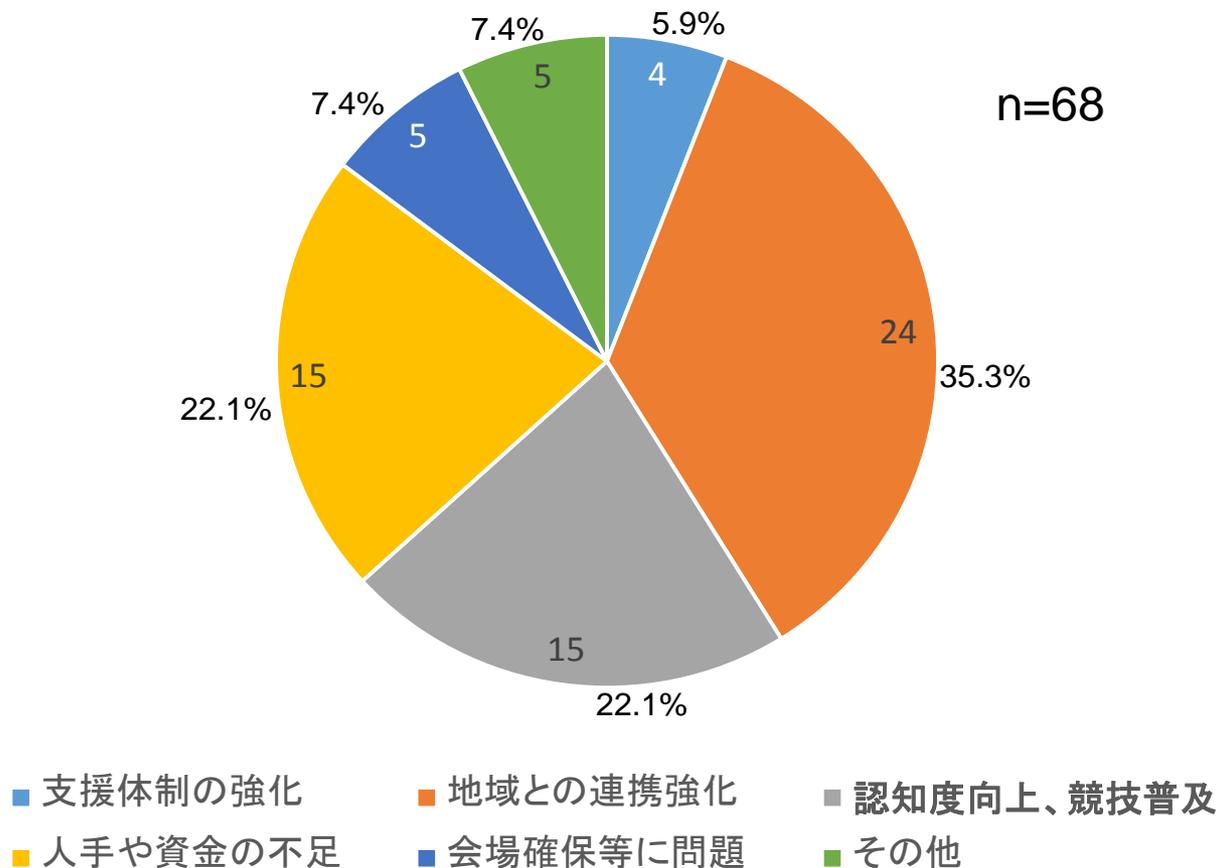
- 全体では『明確である・非常に明確である』が**合算で54.9%**。
- ラグビートップリーグ、ハンド男子を除く各リーグでは『非常に・明確である』を選択したクラブが**半数近く**になった。
- ホッケー女子、ラグビートップリーグ、ハンド男子では『どちらでもない』が最も多い。



問6-1.『地域活動を行う上での課題』とは？ ※自由記述

- 『地域との連携強化』が最も多く、**24クラブ (35.3%)** から回答。
- 『認知度向上、競技普及』や『人手や資金の不足』と回答したのは、それぞれ**15クラブ (22.1%)**。
- 『会場確保』『支援体制強化』『その他』も、ほぼ同数。

※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



◆第4章：トップスポーツ組織の地域における具体的活動状況のまとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

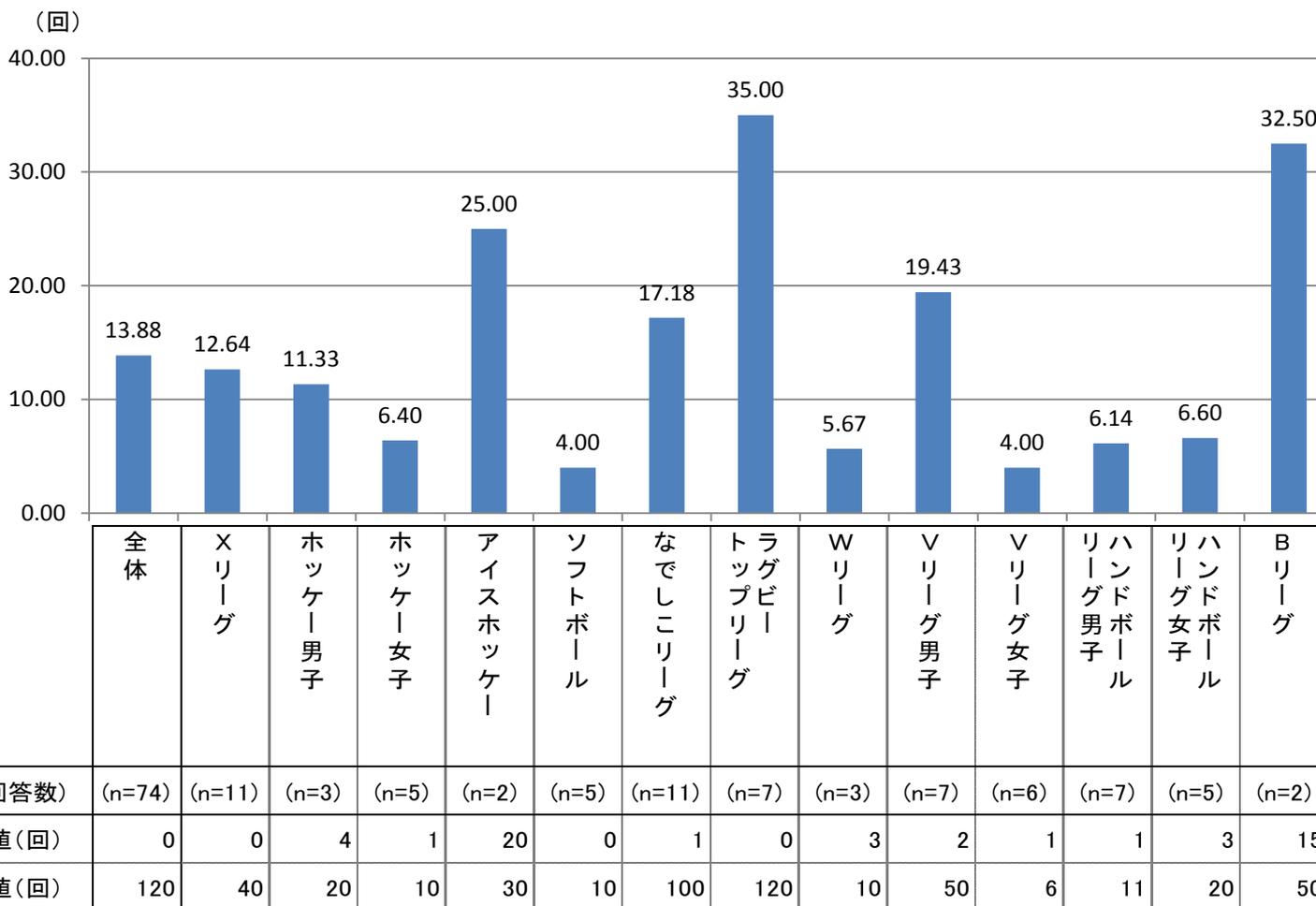
- <問7>
- ・各種活動の実施状況について（回数、クラブ側参加者種別など）
※学校訪問・表敬訪問・社会啓発活動・祭りやイベント参加、安全運転啓蒙キャンペーン・スクール運営・商店街訪問・地域協会への訪問・講演活動・清掃ボランティア・指導者講習会など。
 - ・ボランティアスタッフについて（有無、確保方法、活動内容や実績など）
 - ・後援会やファンクラブについて（有無、継続的支援システムなど）

【内容サマリー】

- <問7>
- ・「**クラブが運営するスクール（有料・無料）**」の実績数が他の諸活動より多い。
 - ・「**小中学校への訪問**」実績は他の表敬訪問活動回数よりも多い。
 - ・地域活動への参加者は多くのケースで「選手」「指導者（監督・コーチ）」が多い。
 - ・回答した組織の約5割が内部に「**ボランティア組織事務局**」がある。
 - ・ゲーム開催時のボランティア確保は「チームの母体企業や団体から」が最も多い。
 - ・回答した組織の8割近くが後援会やファンクラブを保有している。

問7-1.『学校訪問（小・中学校への訪問活動）』の実施状況は？

- 全体平均では**13.88回**。
- ラグビー、Bリーグ、アイスホッケーが高い数値を示した。また、Vリーグ男子、なでしこリーグが全体平均を上回る。
- リーグごとにバラつき**が大きい。（最小平均値：4回。最大平均値：35回）



問7-1.参加者&比率（小・中学校への訪問活動）

- 全体平均では『選手』が圧倒的に高く、次いで『監督・コーチ』『社員』『組織トップ』『マスコット』の順番が多い。
- 『マスコットキャラクター参加率』はBリーグとアイスホッケーは**100.0%**だが、その他のリーグでは全体的に低い傾向。
- ホッケー男子では『選手』と『監督・コーチ』だけが参加。

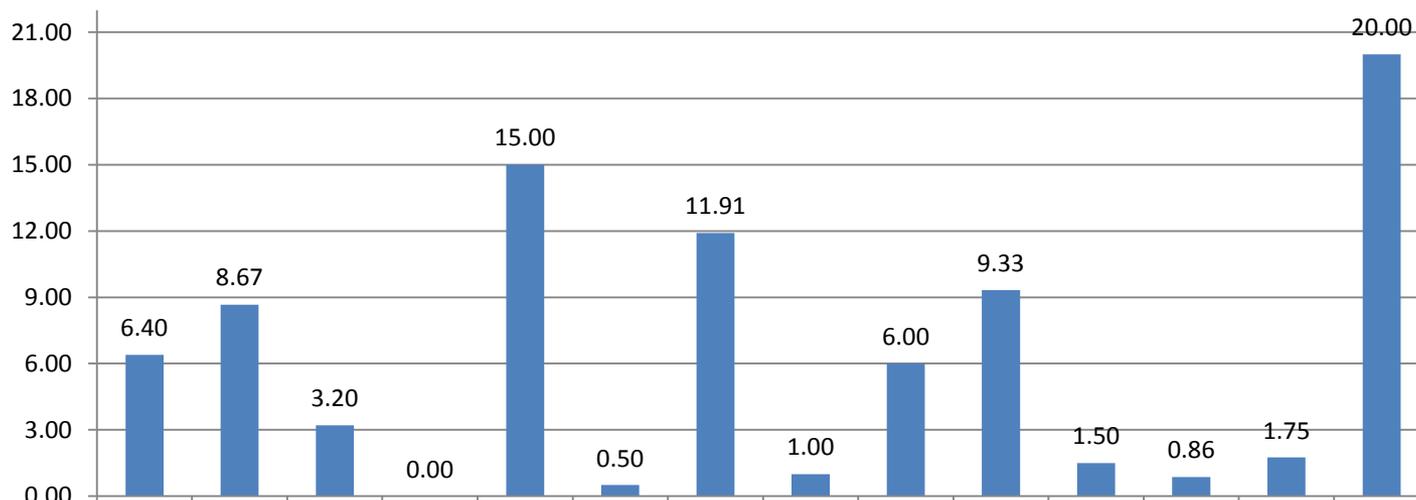
(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=72)	95.8	65.3	19.4	41.7	15.3
'Xリーグ	(n=10)	100.0	60.0	20.0	30.0	10.0
'ホッケー男子	(n=3)	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=5)	80.0	40.0	0.0	40.0	0.0
'アイスホッケー	(n=2)	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0
'ソフトボール	(n=4)	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0
'なでしこリーグ	(n=11)	81.8	72.7	9.1	54.5	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=6)	100.0	66.7	33.3	50.0	33.3
'Wリーグ	(n=3)	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0
'Vリーグ男子	(n=7)	100.0	71.4	14.3	42.9	14.3
'Vリーグ女子	(n=6)	100.0	66.7	0.0	16.7	0.0
'ハンドボールリーグ男子	(n=7)	100.0	57.1	28.6	57.1	14.3
'ハンドボールリーグ女子	(n=6)	100.0	100.0	66.7	16.7	33.3
'Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0

問7-2.『表敬訪問（スポンサーへの訪問）』の実施状況は？

- 全体平均では**6.4回**。各リーグ間の差が大きい。
- Bリーグ、アイスホッケー、なでしこリーグ、Vリーグ男子、Xリーグが全体平均を上回った。
- ホッケー女子、ソフトボール、ハンドボール男子では平均実施回数が**1回未満**であった。

(回)



	全体	Xリーグ	ホッケー男子	ホッケー女子	アイスホッケー	ソフトボール	なでしこリーグ	ラグビーリーグ	Wリーグ	Vリーグ男子	Vリーグ女子	リーグ男子	リーグ女子	Bリーグ
n数(回答数)	(n=55)	(n=9)	(n=5)	(n=0)	(n=2)	(n=4)	(n=11)	(n=5)	(n=1)	(n=3)	(n=2)	(n=7)	(n=4)	(n=2)
最小値(回)	0	1	1	0	10	0	1	0	6	2	1	0	0	10
最大値(回)	100	50	6	0	20	2	100	3	6	16	2	3	3	30

問7-2.参加者&比率（スポンサーへの訪問）

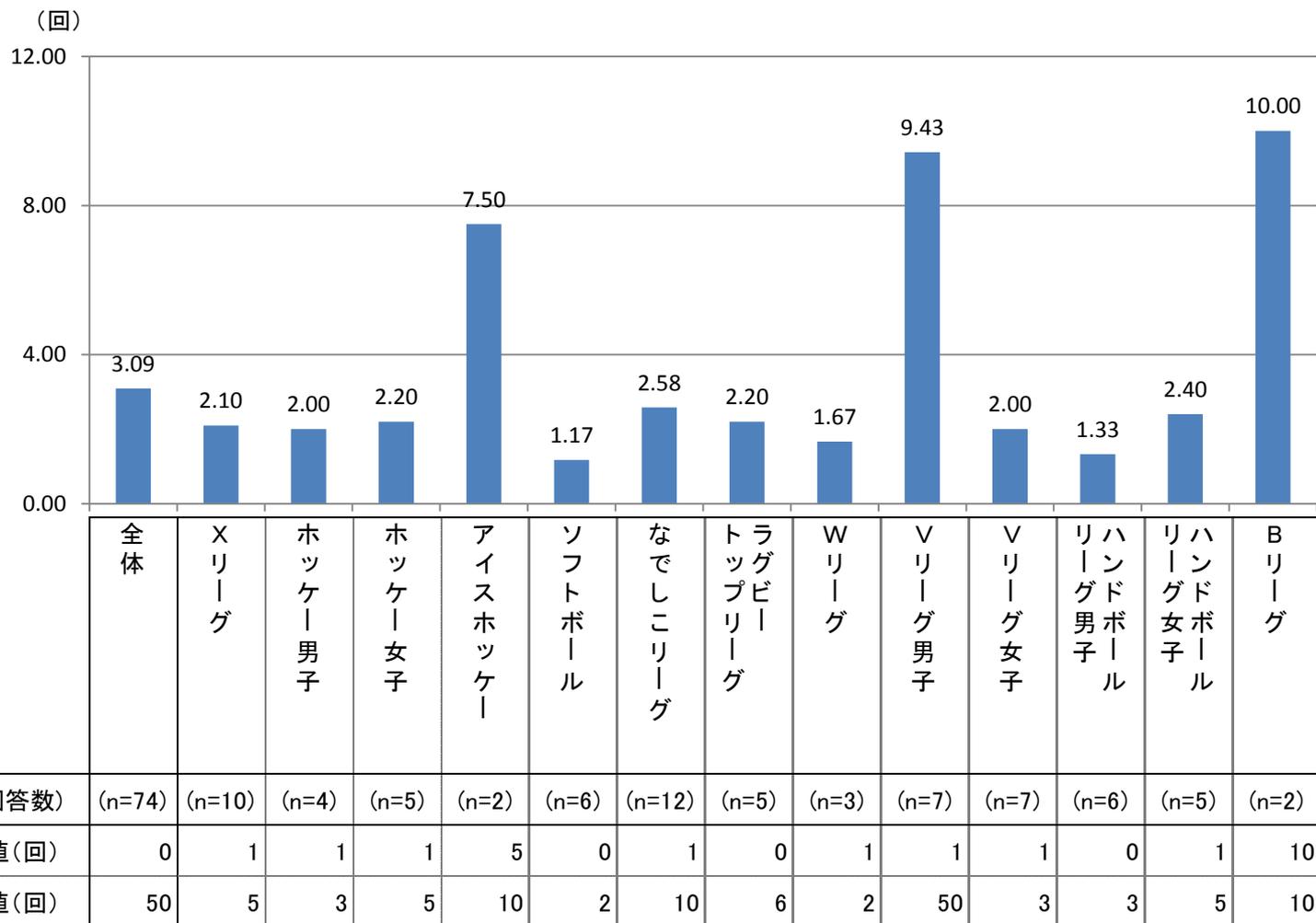
- 全体平均では『監督・コーチ』『組織トップ』『選手』『社員』『マスコットキャラクター』の順。
- スポンサー訪問時の『マスコットキャラクター』参加は、アイスホッケーとBリーグのみが実施。
- ラグビー、Wリーグ、Vリーグ（男女）では**回答した全ての組織**で『選手』が参加。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=46)	63.0	89.1	80.4	54.3	6.5
×リーグ	(n=9)	33.3	88.9	77.8	55.6	0.0
ホッケー男子	(n=5)	60.0	100.0	60.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ソフトボール	(n=1)	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=12)	66.7	91.7	75.0	58.3	0.0
ラグビートップリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0
Wリーグ	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
Vリーグ男子	(n=3)	100.0	100.0	66.7	33.3	0.0
Vリーグ女子	(n=2)	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=3)	33.3	66.7	66.7	100.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=4)	75.0	50.0	100.0	50.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0

問7-3.『表敬訪問（県庁・市役所・区役所など）』の実施状況は？

- 全体平均では**3.09回**。
- Bリーグ、Vリーグ男子、アイスホッケーの実施回数は、全体平均を大きく上回る。
- Bリーグ、Vリーグ男子、アイスホッケー以外の各リーグは**平均2回**ほど。



問7-3.参加者&比率（都道府県庁、市役所、区役所への訪問）

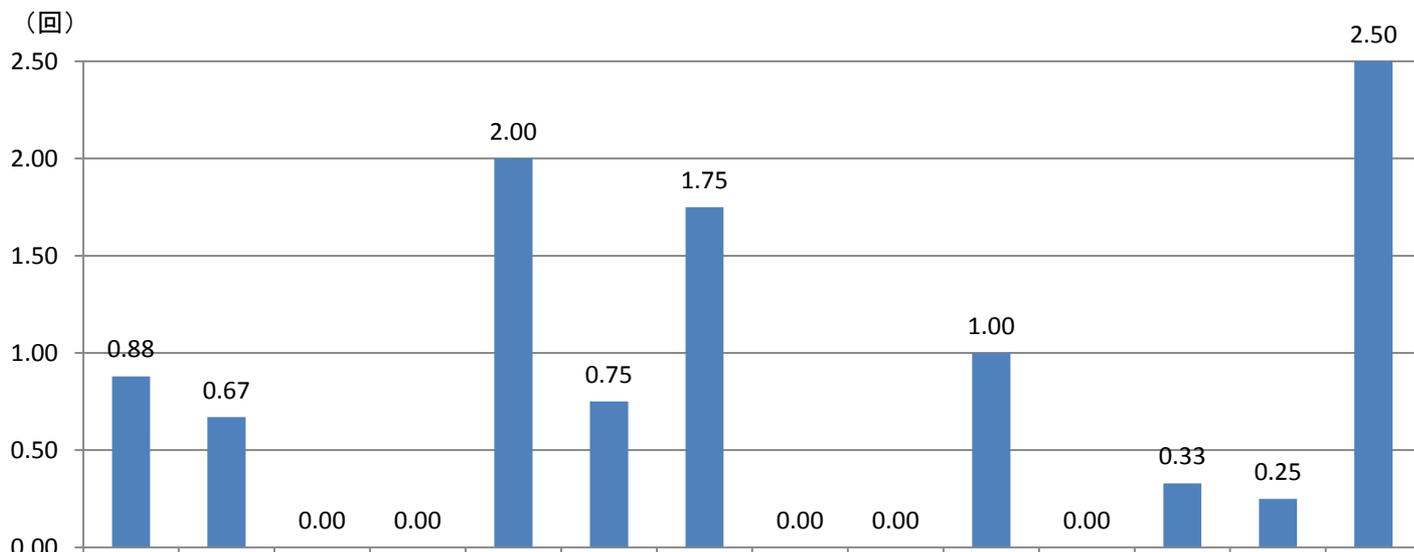
- 全体平均では『監督・コーチ』『選手』『組織トップ』『社員』『マスコットキャラクター』の順。
- Xリーグ、ホッケー男子、なでしこリーグ、ハンドボール女子では『選手』の参加率が平均を下回る。
- 『マスコットキャラクターの参加』はBリーグとWリーグを除き、殆どのリーグでは実施していない。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=72)	75.0	88.9	66.7	52.8	4.2
Xリーグ	(n=10)	40.0	80.0	70.0	40.0	0.0
ホッケー男子	(n=4)	25.0	100.0	50.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=5)	100.0	80.0	40.0	40.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
ソフトボール	(n=5)	100.0	100.0	60.0	20.0	0.0
なでしこリーグ	(n=12)	66.7	83.3	66.7	58.3	0.0
ラグビートップリーグ	(n=4)	100.0	100.0	75.0	100.0	0.0
Wリーグ	(n=3)	100.0	100.0	33.3	100.0	33.3
Vリーグ男子	(n=7)	85.7	85.7	85.7	71.4	0.0
Vリーグ女子	(n=7)	100.0	85.7	57.1	42.9	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=5)	100.0	100.0	60.0	60.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	33.3	83.3	83.3	33.3	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-4.『表敬訪問（地元政治家・議連会合への出席）』の実施状況は？

- 全体平均では**1回未満（0.88回）**。
- 5つのリーグでは実績ゼロと回答。（ホッケー男女、ラグビートップリーグ、Wリーグ、Vリーグ女子）
- Bリーグ、アイスホッケー、なでしこリーグの実施回数は平均値を上回っている。



	全体	Xリーグ	ホッケー男子	ホッケー女子	アイスホッケー	ソフトボール	なでしこリーグ	ラグビートップリーグ	Wリーグ	Vリーグ男子	Vリーグ女子	リーグドボル男子	リーグドボル女子	Bリーグ
n数(回答数)	(n=34)	(n=3)	(n=0)	(n=0)	(n=1)	(n=4)	(n=8)	(n=5)	(n=0)	(n=1)	(n=0)	(n=6)	(n=4)	(n=2)
最小値(回)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	2
最大値(回)	6	1	0	0	2	3	6	0	0	1	0	1	1	3

問7-4.参加者&比率（地元政治家／議連会合への出席）

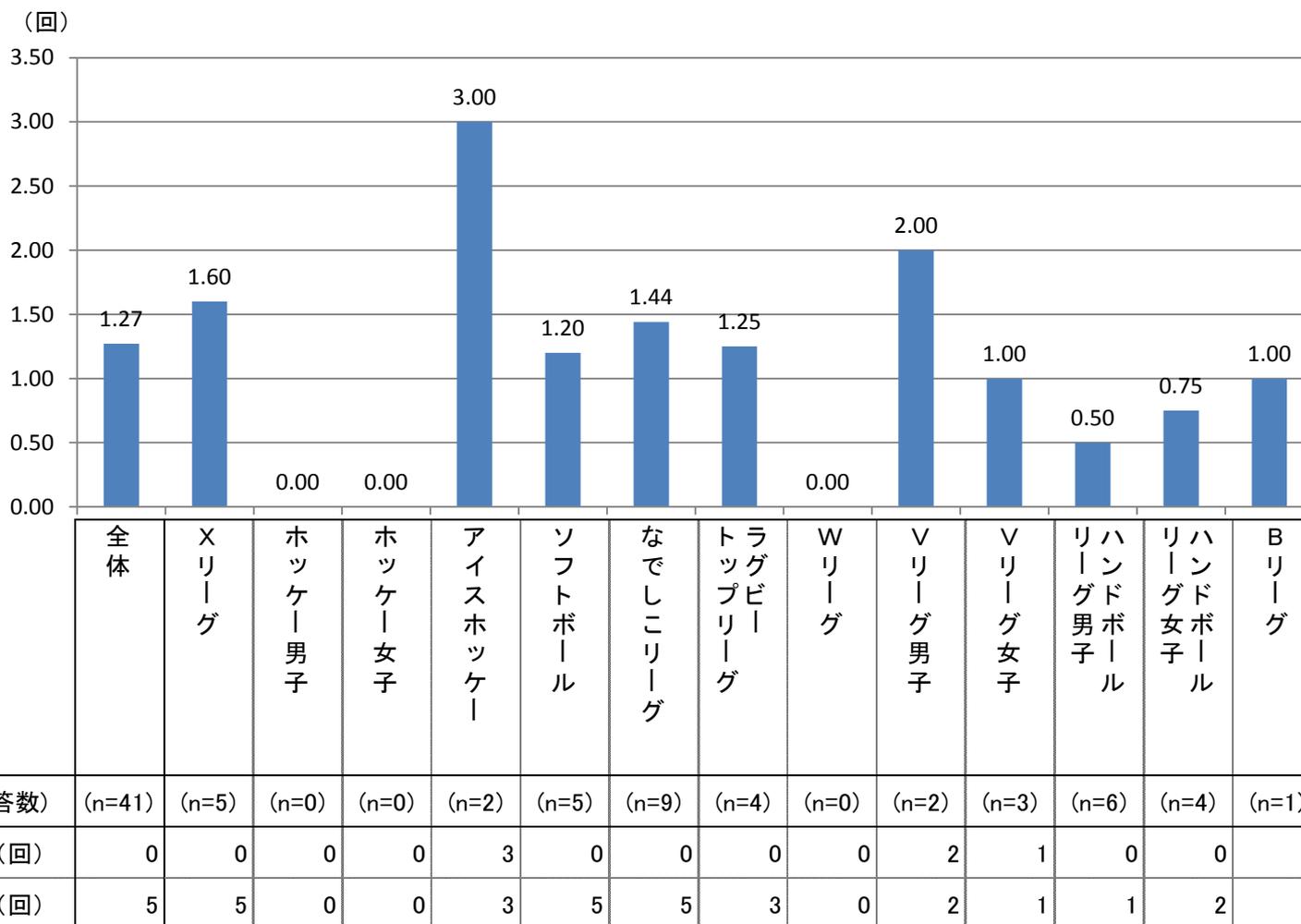
- 全体平均では『組織トップ』『社員』『監督・コーチ』の順で参加が多く、『選手』の参加は**2割**に留まる。
- ホッケー男女、ラグビートップリーグ、Wリーグ、Vリーグ女子では実施していない。
- 『選手』の参加はソフトボールと、なでしこリーグで実施されている。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=16)	18.8	37.5	81.3	62.5	6.3
'Xリーグ	(n=2)	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0
'ホッケー男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'アイスホッケー	(n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0
'ソフトボール	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'なでしこリーグ	(n=5)	40.0	60.0	80.0	20.0	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'Vリーグ男子	(n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0
'Vリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'ハンドボールリーグ男子	(n=2)	0.0	50.0	50.0	100.0	0.0
'ハンドボールリーグ女子	(n=2)	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0
'Bリーグ	(n=2)	0.0	0.0	100.0	100.0	50.0

問7-5.『いじめ防止等社会啓発活動、キャンペーンへの協力、投票・納税の呼びかけ』の実施状況は？

- 全体平均では**1.27回**。
- **アイスホッケー、Vリーグ男子、Xリーグ、なでしこリーグ**が全体平均を上回っている。
- **ホッケー男女、Wリーグ**では、本活動は実施していない。



問7-5.参加者&比率（いじめ防止等社会啓発活動、キャンペーンへの協力、投票・納税の呼びかけ）

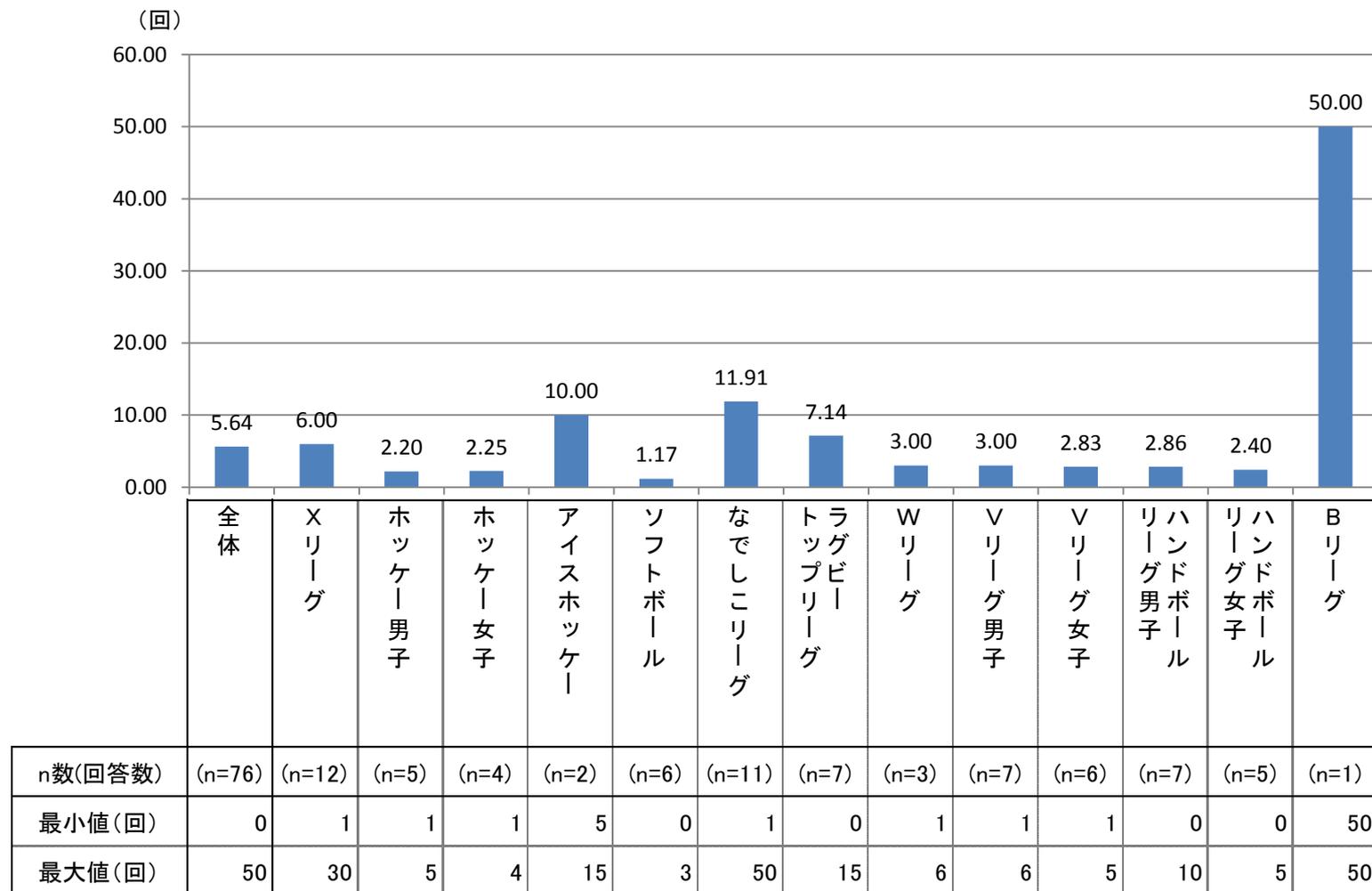
- 全体平均では『選手』『監督・コーチ』『社員』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順で参加。
- ホッケー男女、Wリーグでは、これらの活動を行っていない。
- 『マスコットキャラクター』はBリーグ、アイスホッケー、ソフトボール、ハンドボール男子、なでしこリーグで活用されている。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=29)	96.6	58.6	41.4	58.6	20.7
Xリーグ	(n=3)	100.0	33.3	66.7	33.3	0.0
ホッケー男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0
ソフトボール	(n=2)	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0
なでしこリーグ	(n=7)	100.0	71.4	14.3	57.1	14.3
ラグビートップリーグ	(n=3)	100.0	33.3	33.3	66.7	0.0
Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=2)	100.0	50.0	0.0	100.0	0.0
Vリーグ女子	(n=3)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=3)	66.7	66.7	66.7	100.0	33.3
ハンドボールリーグ女子	(n=2)	100.0	50.0	100.0	50.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-6.『祭り・イベントへの出展・参加』の実施状況は？

- 全体平均では**5.64回**。
- Bリーグ、なでしこリーグ、アイスホッケーが高い値を示した。ラグビートップリーグやXリーグも平均値を上回る。
- その他のリーグは**平均2から3回程度**の実施状況である。



問7-6.参加者&比率（祭り・イベントへの出展・参加）

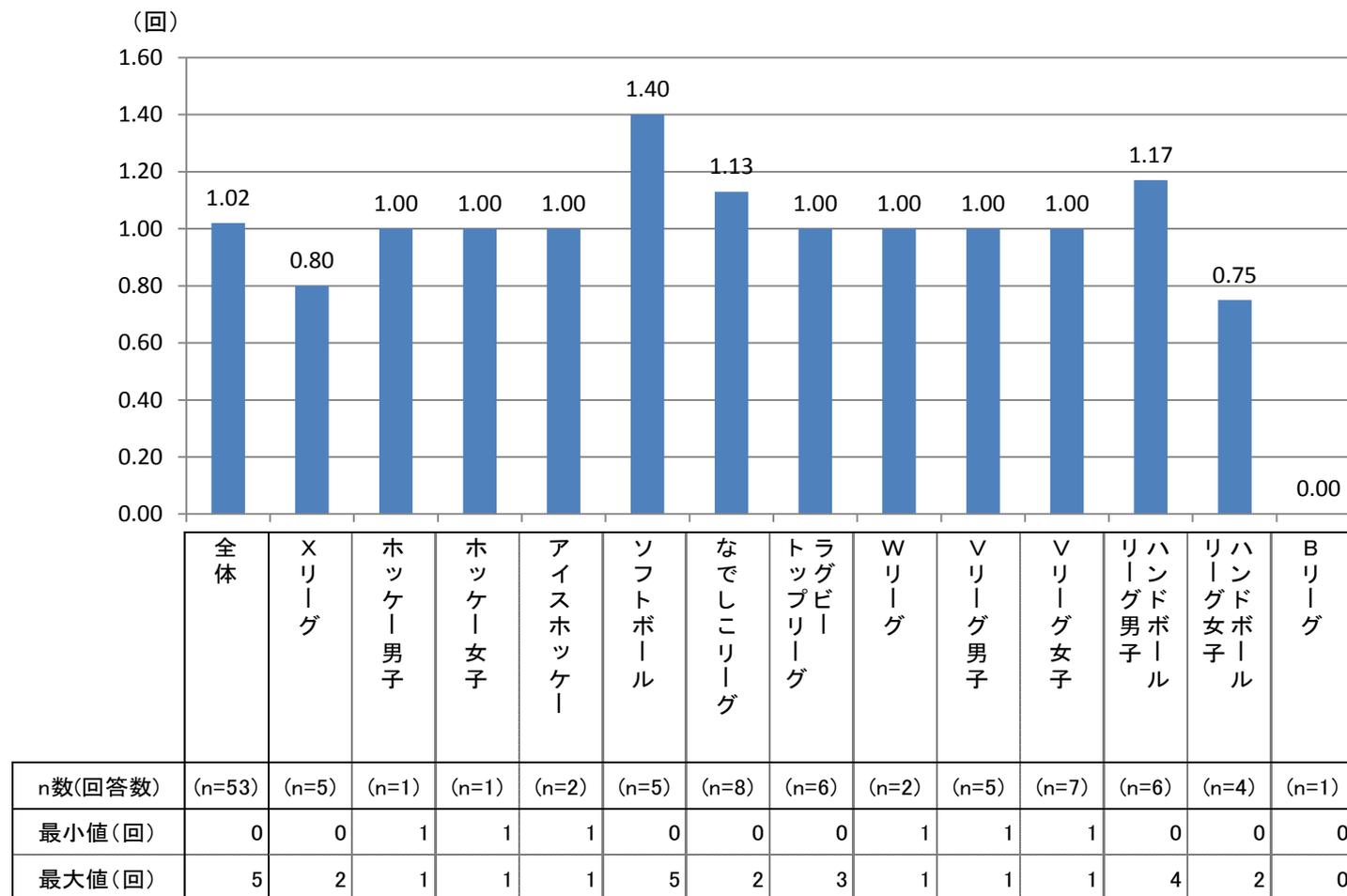
- 全体平均では『選手』が突出して高く、次に『監督・コーチ』『社員』『組織トップ』『キャラクター』の順で参加。
- **全てのリーグが何らかの形で、この活動に参加**している。特にBリーグは全ての調査対象が参加。
- 『マスコットキャラクター』の参加はBリーグ、アイスホッケー、ラグビートップリーグで積極的に実施されている。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=73)	97.3	71.2	35.6	53.4	19.2
'Xリーグ	(n=12)	91.7	41.7	33.3	41.7	16.7
'ホッケー男子	(n=5)	100.0	60.0	0.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=4)	100.0	25.0	0.0	25.0	0.0
'アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0
'ソフトボール	(n=4)	100.0	100.0	25.0	50.0	0.0
'なでしこリーグ	(n=11)	100.0	81.8	54.5	81.8	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=6)	100.0	66.7	33.3	83.3	66.7
'Wリーグ	(n=3)	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0
'Vリーグ男子	(n=7)	100.0	85.7	28.6	42.9	14.3
'Vリーグ女子	(n=6)	83.3	83.3	33.3	33.3	33.3
'ハンドボールリーグ男子	(n=6)	100.0	83.3	50.0	66.7	16.7
'ハンドボールリーグ女子	(n=5)	100.0	100.0	60.0	40.0	0.0
'Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-7.『交通安全キャンペーン協力、一日警察署長』の実施状況は？

- 全体平均では**1.02回**。
- 各リーグとも大きな差はない。Bリーグは実施実績が無かった。
- ソフトボールは最大値5回実施しているクラブがあった。



問7-7.参加者&比率（交通安全キャンペーン協力、一日警察署長）

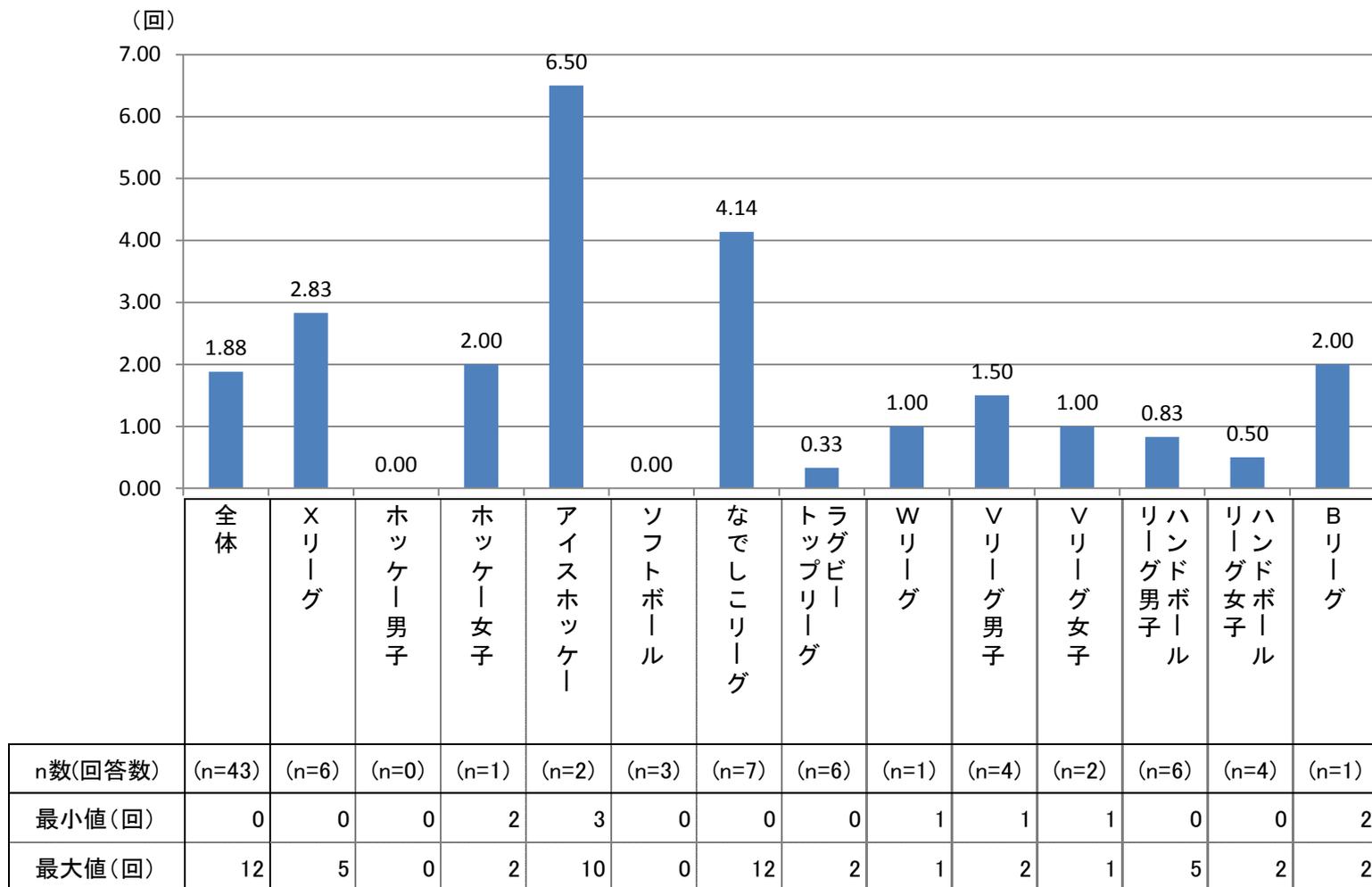
- 全体平均では『選手』が突出して高く、次に『監督・コーチ』『社員』『組織トップ』『キャラクター』の順で参加。
- **全てのリーグが何らかの形で、この活動に参加している。特にBリーグは全ての調査対象が参加している。**
- 『マスコットキャラクター』が参加するのは**6リーグ**（Bリーグ、Xリーグ、アイスホッケー、ラグビー、Vリーグ男女）

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=39)	97.4	43.6	20.5	38.5	15.4
Xリーグ	(n=3)	100.0	66.7	0.0	33.3	33.3
ホッケー男子	(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0
ソフトボール	(n=3)	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0
なでしこリーグ	(n=7)	100.0	71.4	14.3	42.9	0.0
ラグビートップリーグ	(n=3)	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3
Wリーグ	(n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=5)	100.0	40.0	0.0	60.0	20.0
Vリーグ女子	(n=7)	100.0	14.3	14.3	14.3	14.3
ハンドボールリーグ男子	(n=2)	100.0	50.0	50.0	100.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=2)	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0
Bリーグ	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-8.『商店街への訪問』の実施状況は？

- 全体平均では**1.88回**。リーグごとに実施回数に大きなバラつき。
- アイスホッケーと、なでしこリーグは平均実施回数が多かった。
- ホッケー男子、ソフトボールは実績なし。ラグビー、ハンドボール（男女）は**1回未満の実施率**となっている。



問7-8.参加者&比率（商店街への訪問）

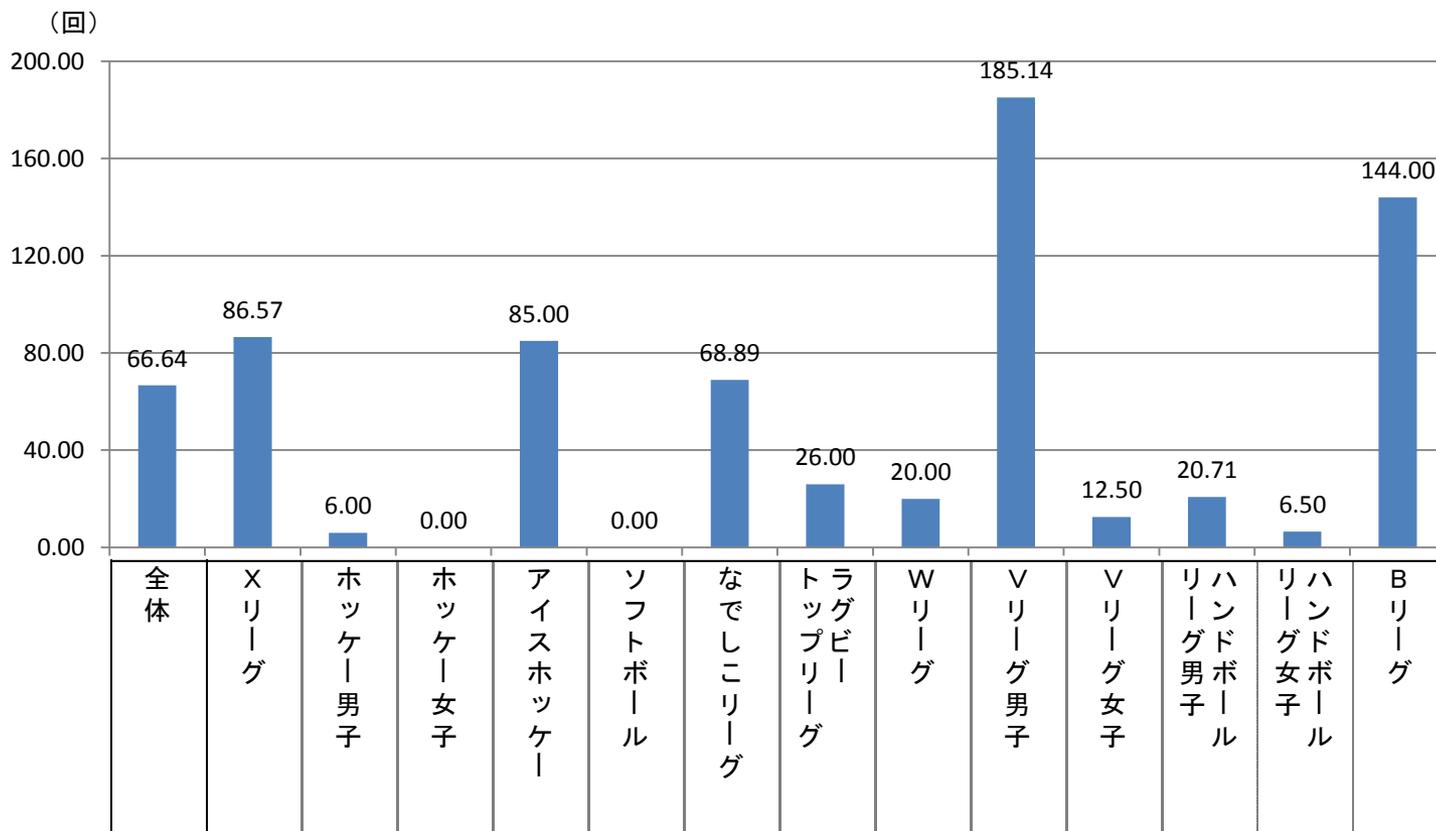
- 全体平均では『選手』と『社員』が特に高く、『監督・コーチ』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順である。
- ホッケー男子とソフトボールを除く、各リーグがこの活動を実施している。
- 『マスコットキャラクター』の参加はBリーグとアイスホッケーが実施している。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=26)	84.6	61.5	57.7	76.9	15.4
'Xリーグ	(n=4)	75.0	25.0	50.0	50.0	0.0
'ホッケー男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=1)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
'アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0
'ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'なでしこリーグ	(n=6)	83.3	66.7	66.7	66.7	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'Wリーグ	(n=1)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
'Vリーグ男子	(n=4)	75.0	50.0	25.0	50.0	0.0
'Vリーグ女子	(n=2)	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0
'ハンドボールリーグ男子	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'ハンドボールリーグ女子	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-9.『クラブ運営の有料スクール等』の実施状況は？

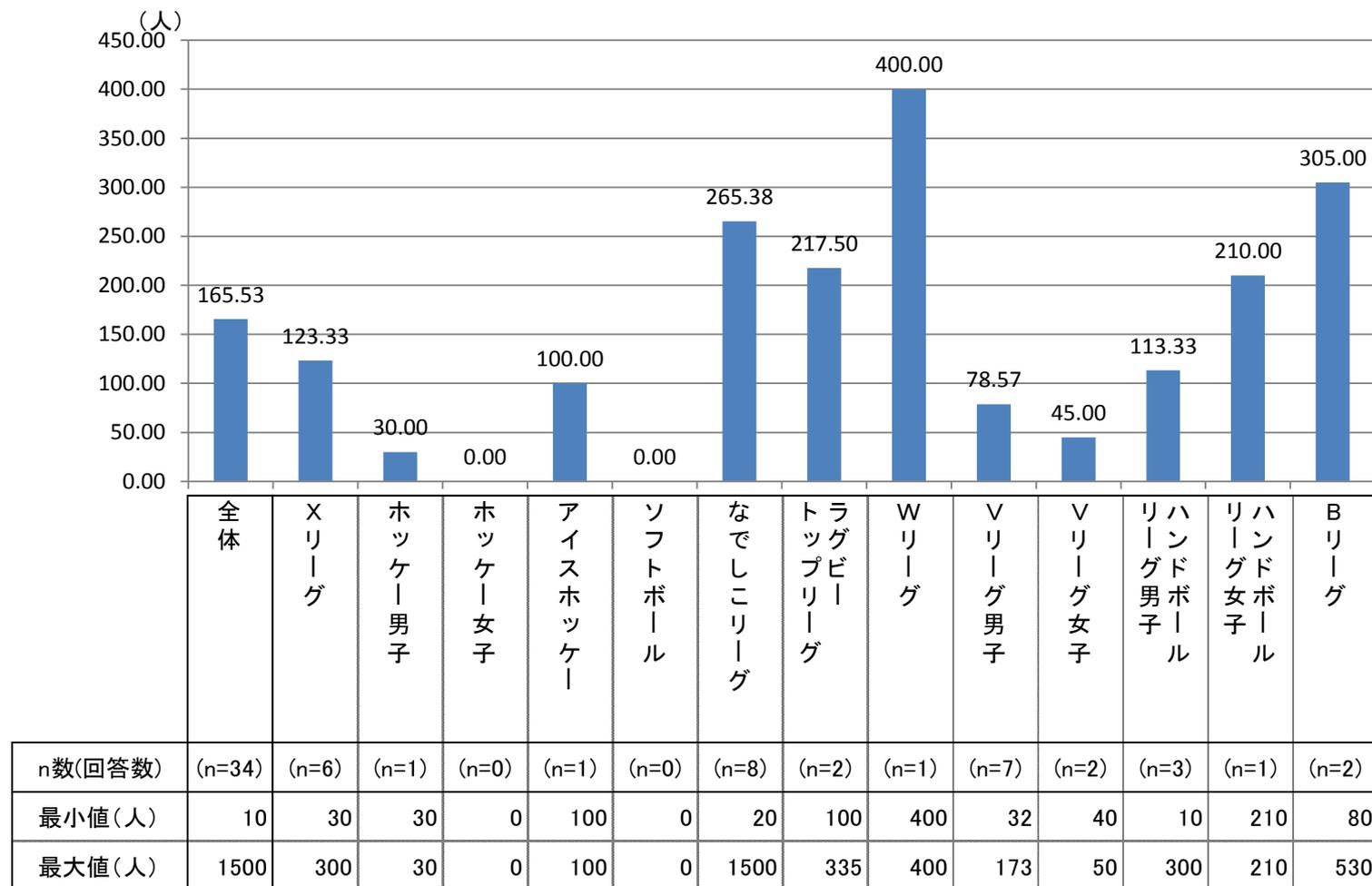
- 全体平均では**66.64回**であるが、各リーグごとの実施回数にバラつきが非常に大きい。
- Vリーグ男子（185.14回）とBリーグ（144.00回）は、全体平均を大きく上回っている。
- ホッケー女子、ソフトボールでは実施実績は無かった。



n数(回答数)	(n=50)	(n=7)	(n=1)	(n=0)	(n=2)	(n=3)	(n=9)	(n=5)	(n=1)	(n=7)	(n=2)	(n=7)	(n=4)	(n=2)
最小値(回)	0	0	6	0	50	0	0	0	20	1	5	0	0	40
最大値(回)	800	225	6	0	120	0	200	100	20	800	20	80	26	248

問7-9.クラブ運営のスクール（有料）の会員数

- 全体平均では会員数**166人**であった。
- リーグ別平均値ではWリーグが400人。
- 最大値では、なでしこリーグから1500人と回答するクラブがあった。



問7-9.参加者&比率（クラブ運営の有料スクール等）

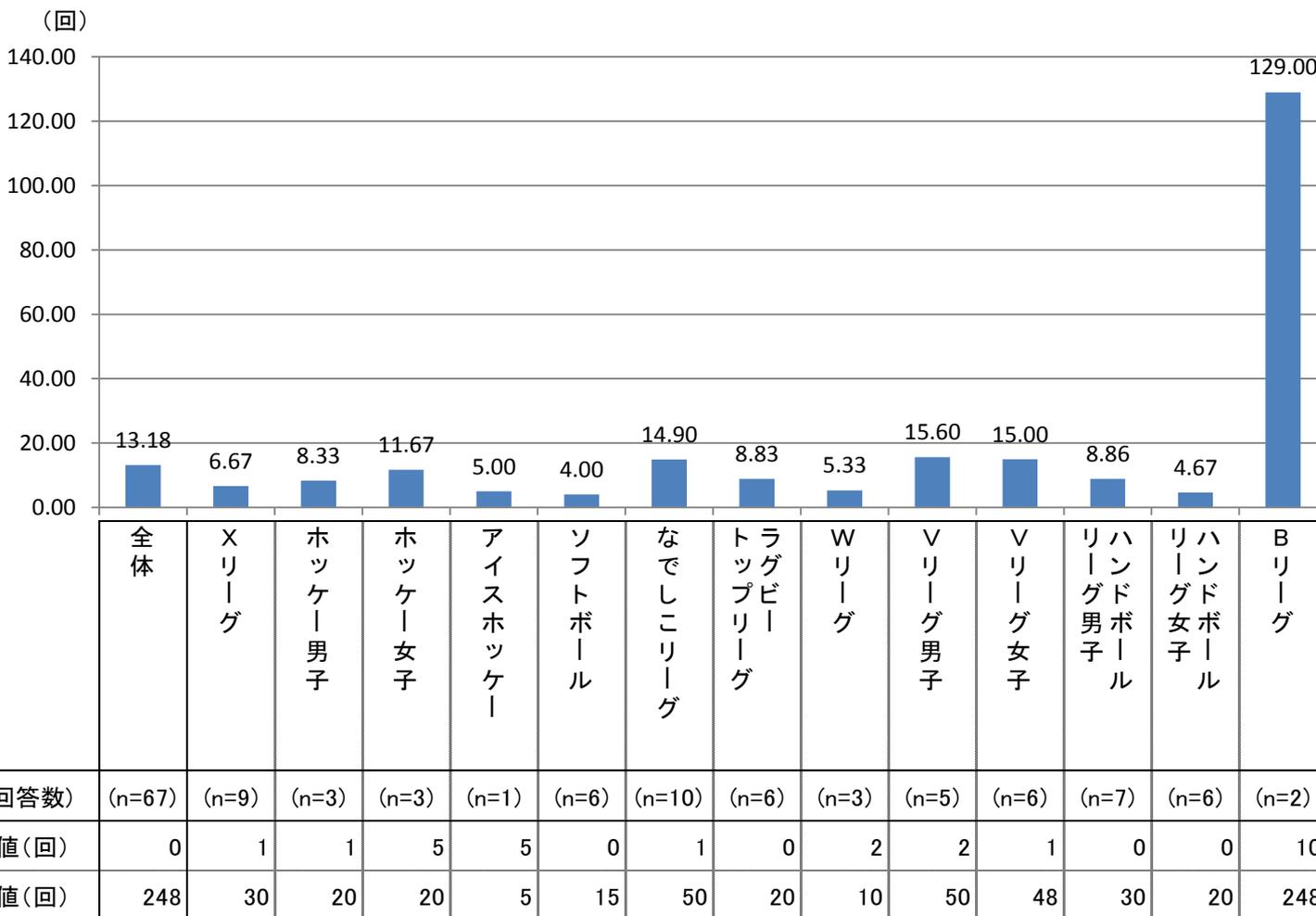
- 全体平均では『選手』と『監督・コーチ』が突出して高く、次に『社員』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- ホッケー女子とソフトボールを除く、各リーグが実施している。
- 『マスコットキャラクター』の参加はBリーグとXリーグが実施している。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=38)	73.7	68.4	31.6	55.3	7.9
Xリーグ	(n=6)	33.3	16.7	33.3	66.7	16.7
ホッケー男子	(n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0
ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=9)	66.7	88.9	33.3	44.4	0.0
ラグビートップリーグ	(n=2)	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0
Wリーグ	(n=1)	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
Vリーグ男子	(n=7)	71.4	71.4	0.0	71.4	0.0
Vリーグ女子	(n=2)	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=4)	75.0	50.0	50.0	75.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=2)	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0

問7-10.『クラブ運営の無料スクール』の実施状況は？

- 全体平均では**13.18回**。
- Bリーグが特に多く、平均値129回となっている。（最大値は248回）
- Vリーグ（男女）、なでしこリーグ、ホッケー女子は全体平均を上回る実施状況。



問7-10.参加者&比率（無料のスクール開催）

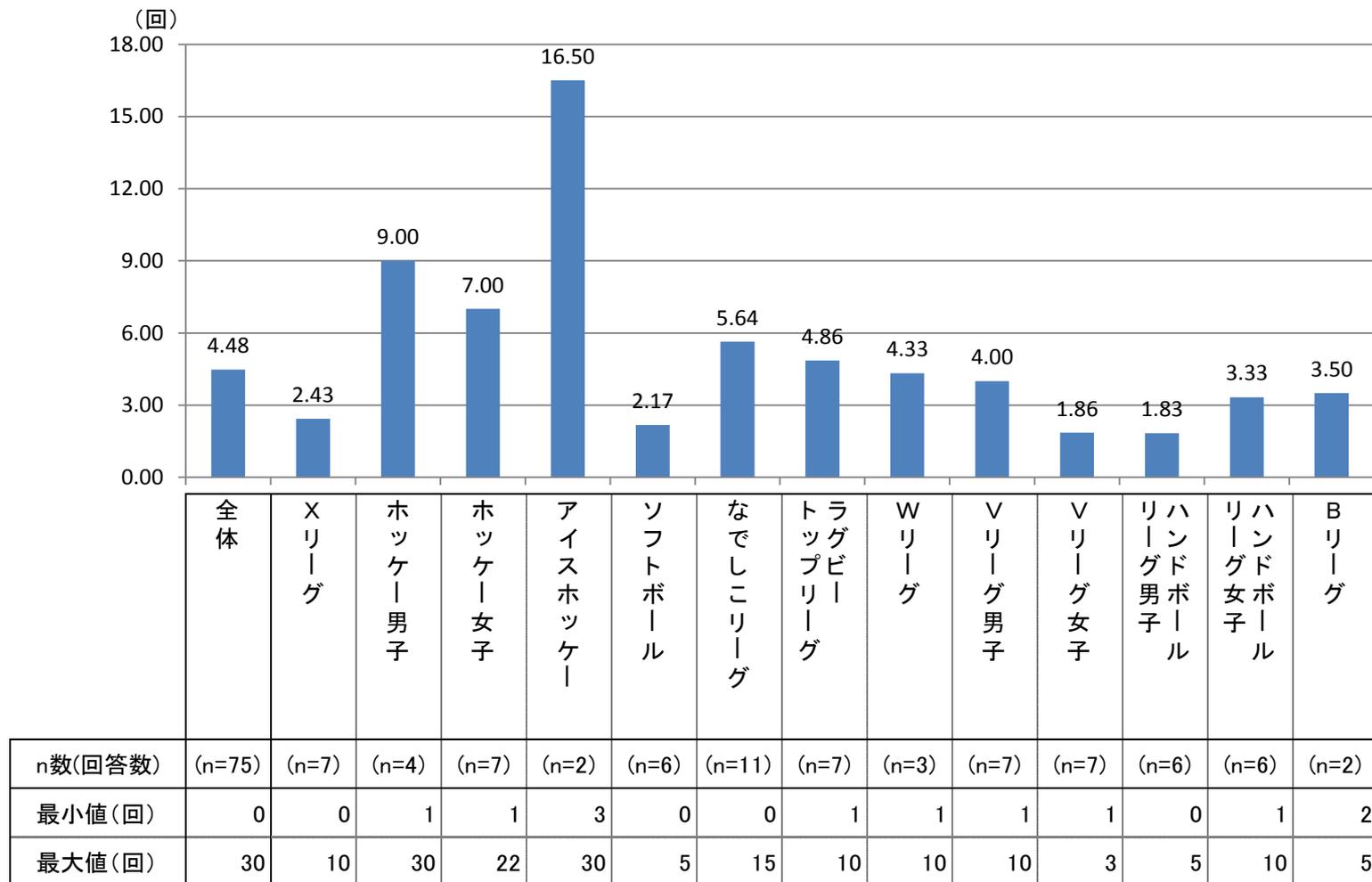
- 全体平均では『選手』『監督・コーチ』が突出して高く、次に『社員』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- 全てのリーグが本活動（無料のスクール開催）を実施している。
- 『マスコットキャラクター』が参加しているのはラグビートップリーグとVリーグ男子のみ。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=61)	90.2	83.6	16.4	44.3	4.9
'Xリーグ	(n=9)	88.9	77.8	22.2	33.3	0.0
'ホッケー男子	(n=3)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=3)	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0
'アイスホッケー	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'ソフトボール	(n=5)	100.0	100.0	20.0	40.0	0.0
'なでしこリーグ	(n=10)	80.0	90.0	30.0	50.0	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=5)	100.0	80.0	20.0	80.0	40.0
'Wリーグ	(n=3)	100.0	100.0	0.0	33.3	0.0
'Vリーグ男子	(n=5)	100.0	100.0	20.0	60.0	20.0
'Vリーグ女子	(n=6)	100.0	100.0	0.0	33.3	0.0
'ハンドボールリーグ男子	(n=5)	80.0	40.0	0.0	60.0	0.0
'ハンドボールリーグ女子	(n=4)	100.0	100.0	25.0	25.0	0.0
'Bリーグ	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

問7-11.『地域協会のイベント参加』の実施状況は？

- 全体平均では**4.48回**。
- アイスホッケーの活動実績が突出して多い。
- アイスホッケー、ホッケー男女、なでしこリーグ、ラグビートップリーグが全体平均を超えている。



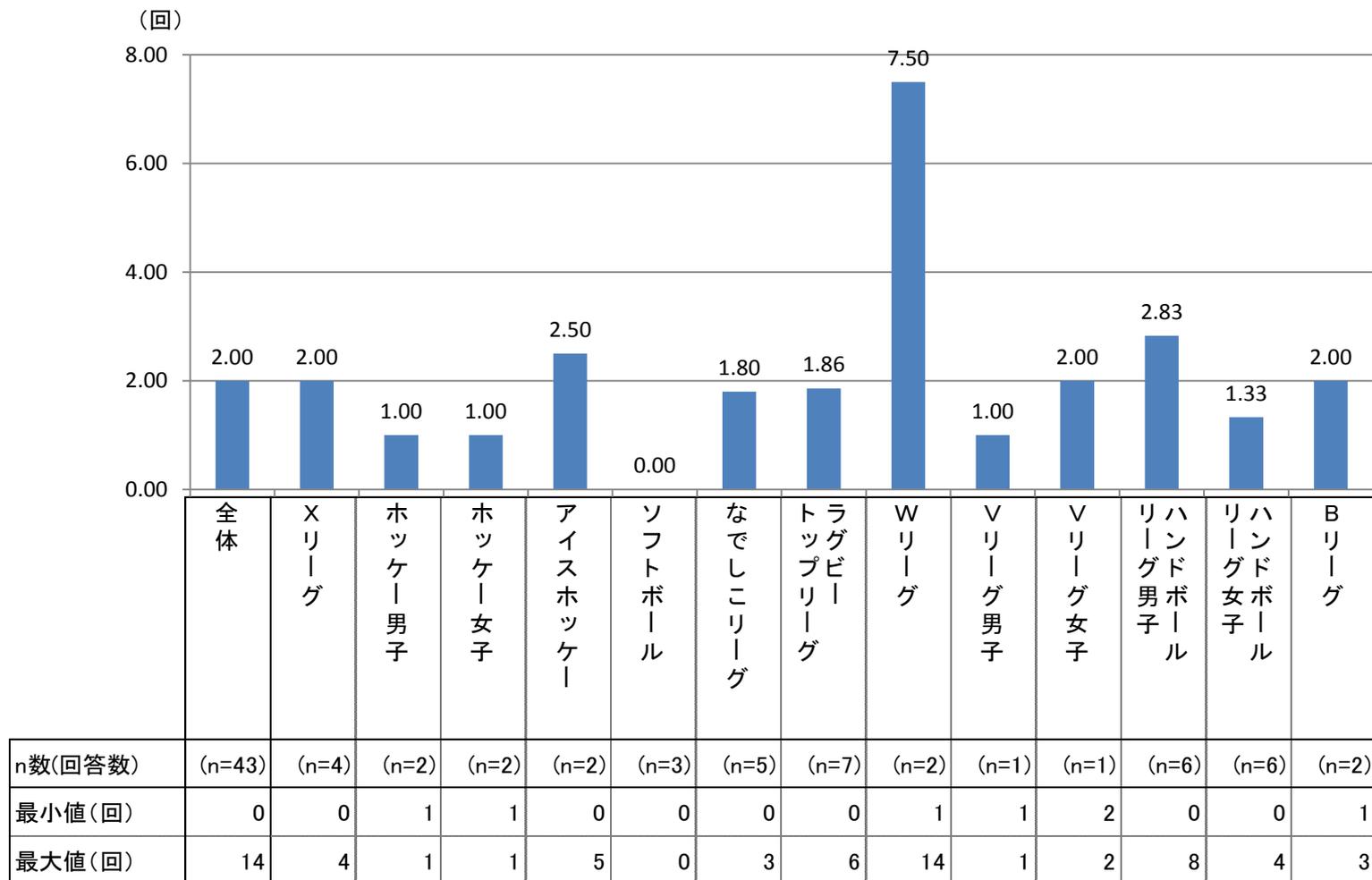
問7-11.参加者&比率（地域協会のイベント参加）

- 全体平均では『選手』と『監督・コーチ』が突出しており、次に『社員』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- 各リーグとも、『地域協会のイベント参加』を実施している。
- Xリーグでは、『組織トップ』の参加比率が『監督・コーチ』や『社員』より多い。

		(%)				
		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=66)	93.9	78.8	27.3	48.5	9.1
Xリーグ	(n=5)	80.0	40.0	60.0	20.0	20.0
ホッケー男子	(n=4)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=7)	100.0	57.1	0.0	28.6	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0
ソフトボール	(n=3)	100.0	100.0	0.0	66.7	0.0
なでしこリーグ	(n=10)	90.0	80.0	40.0	70.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=7)	100.0	85.7	28.6	85.7	28.6
Wリーグ	(n=3)	100.0	100.0	33.3	33.3	0.0
Vリーグ男子	(n=7)	85.7	85.7	14.3	57.1	0.0
Vリーグ女子	(n=7)	100.0	71.4	14.3	14.3	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=3)	100.0	100.0	66.7	100.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	100.0	83.3	33.3	33.3	16.7
Bリーグ	(n=2)	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0

問7-12.『指導者講習会』の実施状況は？

- 全体平均では**2.00回**。ソフトボールでは指導者講習会は実施されていない。
- **Wリーグは平均7.50回と高い数値**を示している。
- その他の各リーグは**平均1から2回程度**実施している。



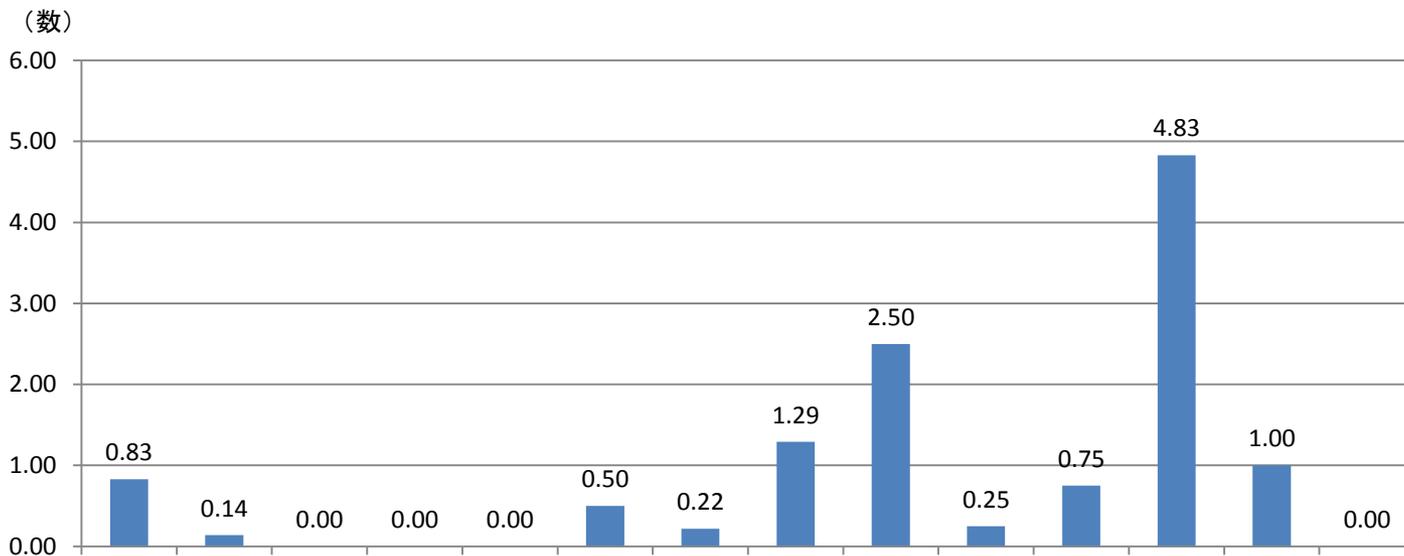
問7-12.参加者&比率（指導者講習会の実施）

- 全体平均では『監督・コーチ』が特に多く、次いで『選手』である。『社員』と『組織トップ』の参加率は同等。
- ソフトボールを除く、各リーグが、この活動を実施している。
- ホッケー男子、Wリーグ、Vリーグ女子、Bリーグでは、『選手』は参加していない。

		(%)				
		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=29)	58.6	89.7	31.0	37.9	0.0
'Xリーグ	(n=3)	100.0	100.0	66.7	33.3	0.0
'ホッケー男子	(n=2)	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=2)	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0
'アイスホッケー	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'なでしこリーグ	(n=4)	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=5)	60.0	60.0	40.0	60.0	0.0
'Wリーグ	(n=2)	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0
'Vリーグ男子	(n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
'Vリーグ女子	(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
'ハンドボールリーグ男子	(n=3)	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0
'ハンドボールリーグ女子	(n=3)	100.0	100.0	33.3	33.3	0.0
'Bリーグ	(n=2)	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0

問7-13.貴団体競技種目以外のクラブ保有数は？

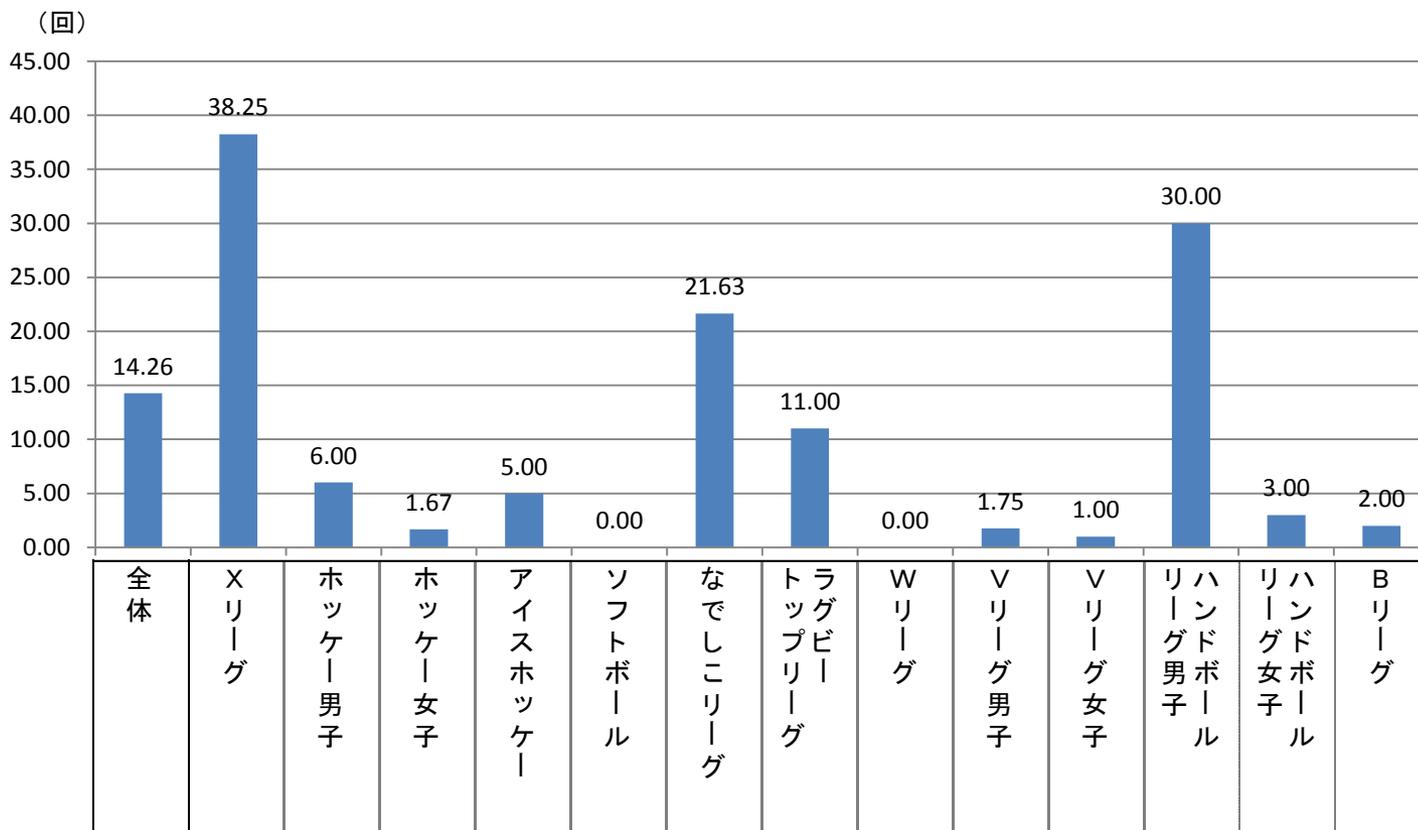
- 全体平均では**0.83回**。また、保有と回答した各リーグ間の差も大きい。
- ホッケー男子、ホッケー女子、アイスホッケーを除く各リーグが保有と回答した。
- ハンドボール男子の**平均値 (4.83)** が突出している。また、ハンドボール女子 (1.00) との差は大きい。



	全体	Xリーグ	ホッケー男子	ホッケー女子	アイスホッケー	ソフトボール	なでしこリーグ	ラグビーリーグ	Wリーグ	Vリーグ男子	Vリーグ女子	リーグドボール男子	リーグドボール女子	Bリーグ
n数(回答数)	(n=75)	(n=14)	(n=5)	(n=3)	(n=1)	(n=6)	(n=9)	(n=7)	(n=2)	(n=8)	(n=8)	(n=6)	(n=4)	(n=2)
最小値(回)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値(回)	10	1	0	0	0	2	2	4	5	2	5	10	2	0

問7-14.『貴団体競技種目以外のスポーツ教室やイベント』の実施状況は？

- 全体平均では**14.26回**。各リーグ間でバラつきが大きい。
- Xリーグ、ハンドボール男子、なでしこリーグでは全体平均を上回る実施状況。
- ソフトボール、Wリーグでは実施回数はゼロであった。



n数(回答数)	(n=31)	(n=4)	(n=1)	(n=3)	(n=1)	(n=0)	(n=8)	(n=5)	(n=0)	(n=4)	(n=1)	(n=1)	(n=1)	(n=2)
最小値(回)	1	1	6	1	5	0	2	2	0	1	1	30	3	1
最大値(回)	150	150	6	2	5	0	100	30	0	3	1	30	3	3

問7-15.参加者&比率（貴団体競技種目以外のスポーツ教室やイベント）

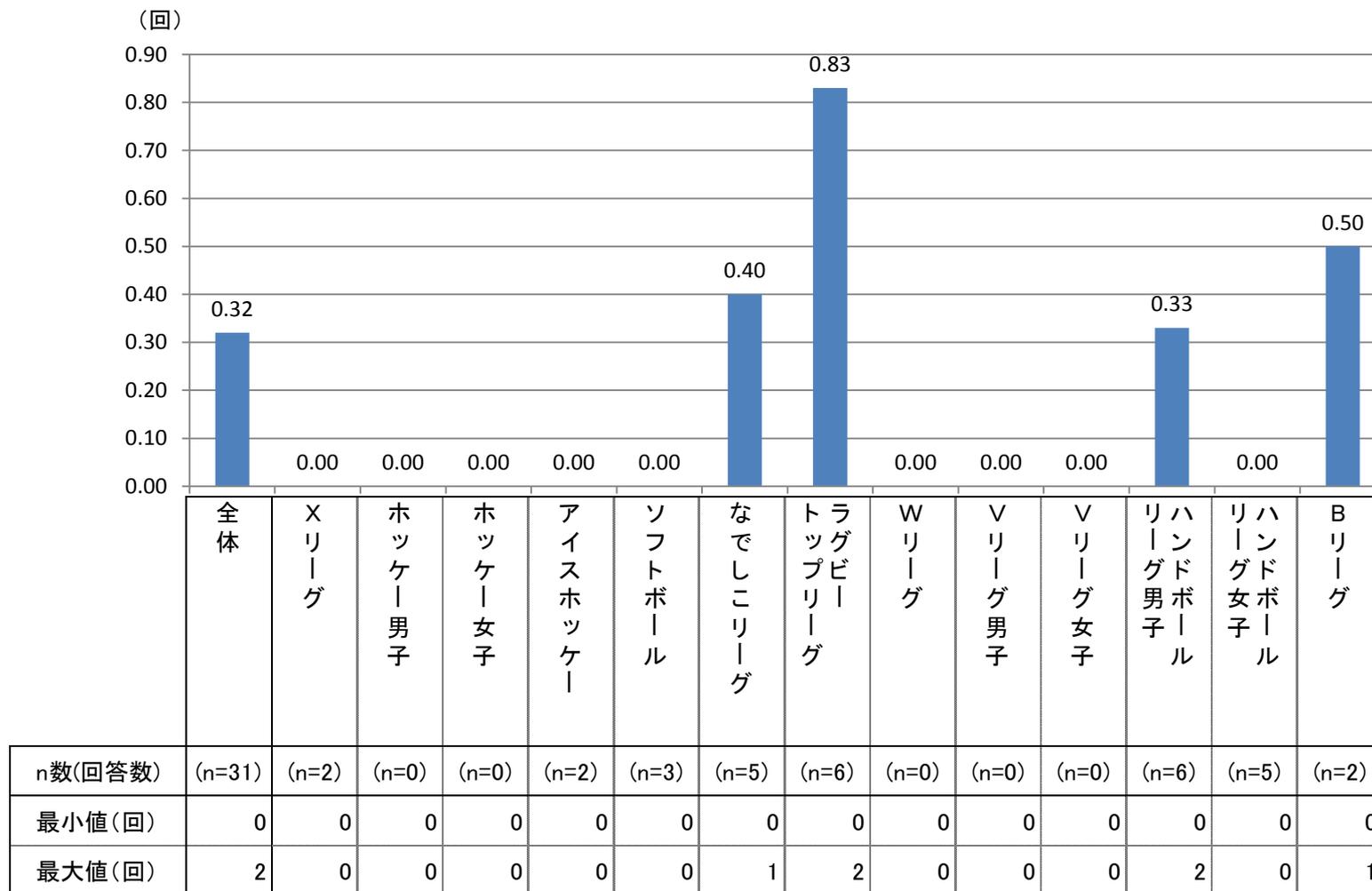
- 全体平均では『選手』『社員』『監督・コーチ』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- ソフトボールとWリーグを除く各リーグが、『貴団体競技種目以外のスポーツ教室やイベント』を実施している。
- ホッケー男子は『**選手のみ**の参加』に対し、ハンドボール女子では『**選手以外**の参加』と対照的。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=31)	77.4	54.8	45.2	58.1	22.6
'Xリーグ	(n=4)	50.0	50.0	50.0	25.0	0.0
'ホッケー男子	(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=3)	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0
'アイスホッケー	(n=1)	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0
'ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'なでしこリーグ	(n=8)	75.0	50.0	50.0	50.0	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=5)	80.0	80.0	40.0	80.0	60.0
'Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'Vリーグ男子	(n=4)	100.0	50.0	25.0	50.0	25.0
'Vリーグ女子	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'ハンドボールリーグ男子	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
'ハンドボールリーグ女子	(n=1)	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
'Bリーグ	(n=2)	50.0	50.0	50.0	100.0	100.0

問7-16.『献血キャンペーンへの協力』の実施状況は？

- 全体平均では**0.32回**の実施状況。
- ラグビートップリーグ、なでしこリーグ、ハンドボール男子、Bリーグが献血キャンペーン協力に取り組んでいる。
- 実施しているリーグの最大値は**年に2回程度**。



問7-16.参加者&比率（献血キャンペーンへの協力）

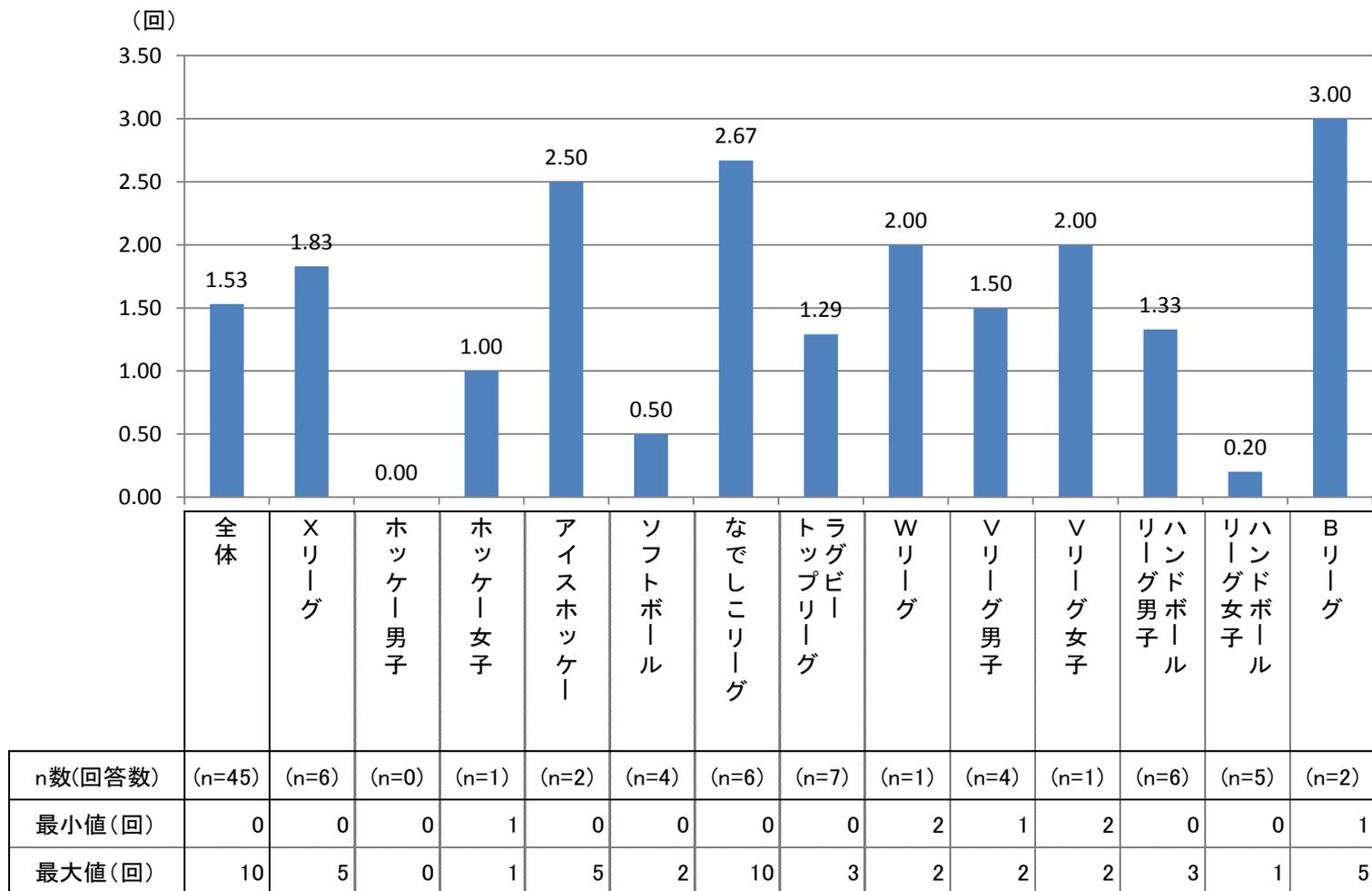
- 全体平均では『選手』と『社員』が特に高く、『監督・コーチ』『組織トップ』『マスコットキャラクター』が**同率**。
- なでしこリーグ、Bリーグ、ラグビートップリーグ、ハンドボール男子の4リーグが、この活動に参加。
- ラグビートップリーグは『選手』『監督・コーチ』『組織トップ』『社員』『マスコットキャラクター』と全てが参加。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=8)	87.5	37.5	37.5	75.0	37.5
×リーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=2)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=4)	100.0	50.0	25.0	50.0	50.0
Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0

問7-17.『福祉施設、病院への訪問、障がい者／高齢者向けの活動など』の実施状況は？

- 全体平均では**1.53回**。特にBリーグ、なでしこリーグ、アイスホッケーが比較的回数が多い。
- Bリーグ、なでしこリーグ、アイスホッケー、Wリーグ、Vリーグ女子、Xリーグ、Vリーグ男子では全体平均回数を上回る。
- ホッケー男子では、これら活動に取り組んでいるクラブは無かった。



問7-17.参加者&比率（福祉施設、病院への訪問、障がい者／高齢者向けの活動など）

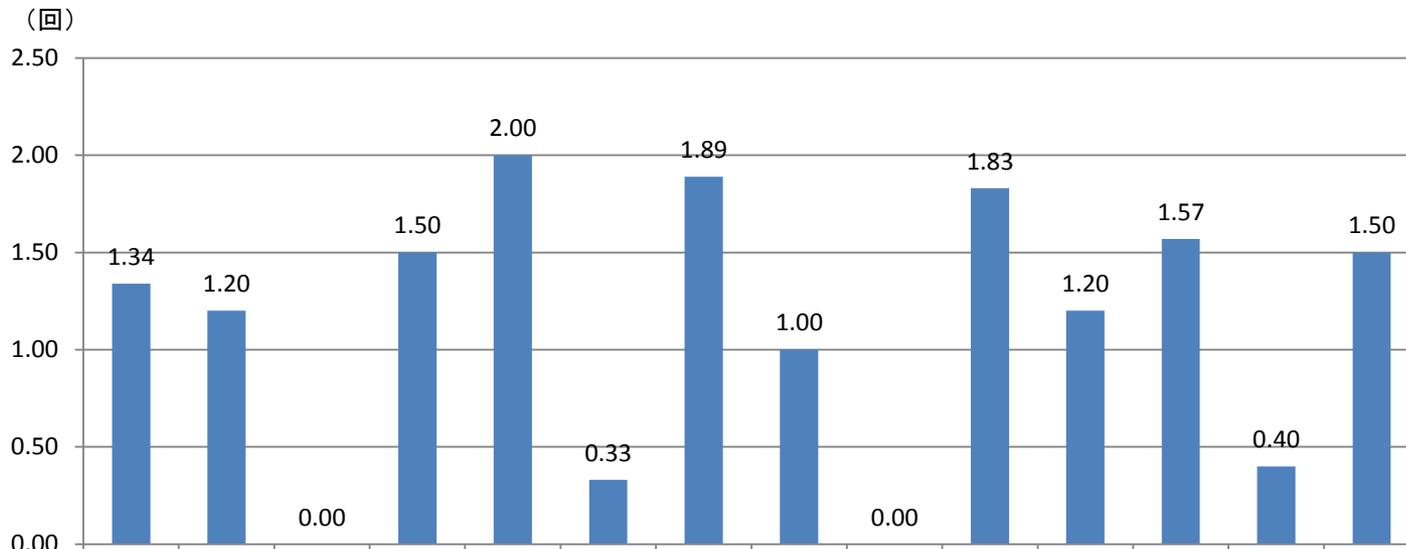
- 全体平均では『選手』『社員』『監督・コーチ』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- ホッケー男子を除く各リーグが、この活動を実施している。
- 『組織トップ』の参加は、Xリーグ、アイスホッケー、Bリーグ、なでしこ、ラグビー、ハンドボール男女の**7リーグ**で実施。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=30)	93.3	56.7	36.7	73.3	20.0
'Xリーグ	(n=5)	100.0	20.0	60.0	80.0	0.0
'ホッケー男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
'ホッケー女子	(n=1)	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
'アイスホッケー	(n=1)	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0
'ソフトボール	(n=1)	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0
'なでしこリーグ	(n=4)	75.0	50.0	50.0	75.0	0.0
'ラグビートップリーグ	(n=6)	100.0	16.7	16.7	66.7	33.3
'Wリーグ	(n=1)	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
'Vリーグ男子	(n=4)	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0
'Vリーグ女子	(n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
'ハンドボールリーグ男子	(n=3)	100.0	100.0	33.3	66.7	0.0
'ハンドボールリーグ女子	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
'Bリーグ	(n=2)	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0

問7-18.『震災復興支援など被災地に関する活動』の実施状況は？

- 全体平均では**1.34回**。
- ホッケー男子、Wリーグを除く各リーグが被災地支援活動に取り組んでいる。
- 最大値で見ると、なでしこリーグとハンドボール男子では**年に5～6回程度**、取り組んでいるクラブがあった。



	全体	Xリーグ	ホッケー男子	ホッケー女子	アイスホッケー	ソフトボール	なでしこリーグ	ラグビーリーグ	Wリーグ	Vリーグ男子	Vリーグ女子	リーグドボール男子	リーグドボール女子	Bリーグ
n数(回答数)	(n=50)	(n=5)	(n=0)	(n=2)	(n=1)	(n=3)	(n=9)	(n=5)	(n=0)	(n=6)	(n=5)	(n=7)	(n=5)	(n=2)
最小値(回)	0	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1
最大値(回)	6	2	0	2	2	1	6	2	0	3	2	5	1	2

問7-18.参加者&比率（震災復興支援など被災地に関する活動）

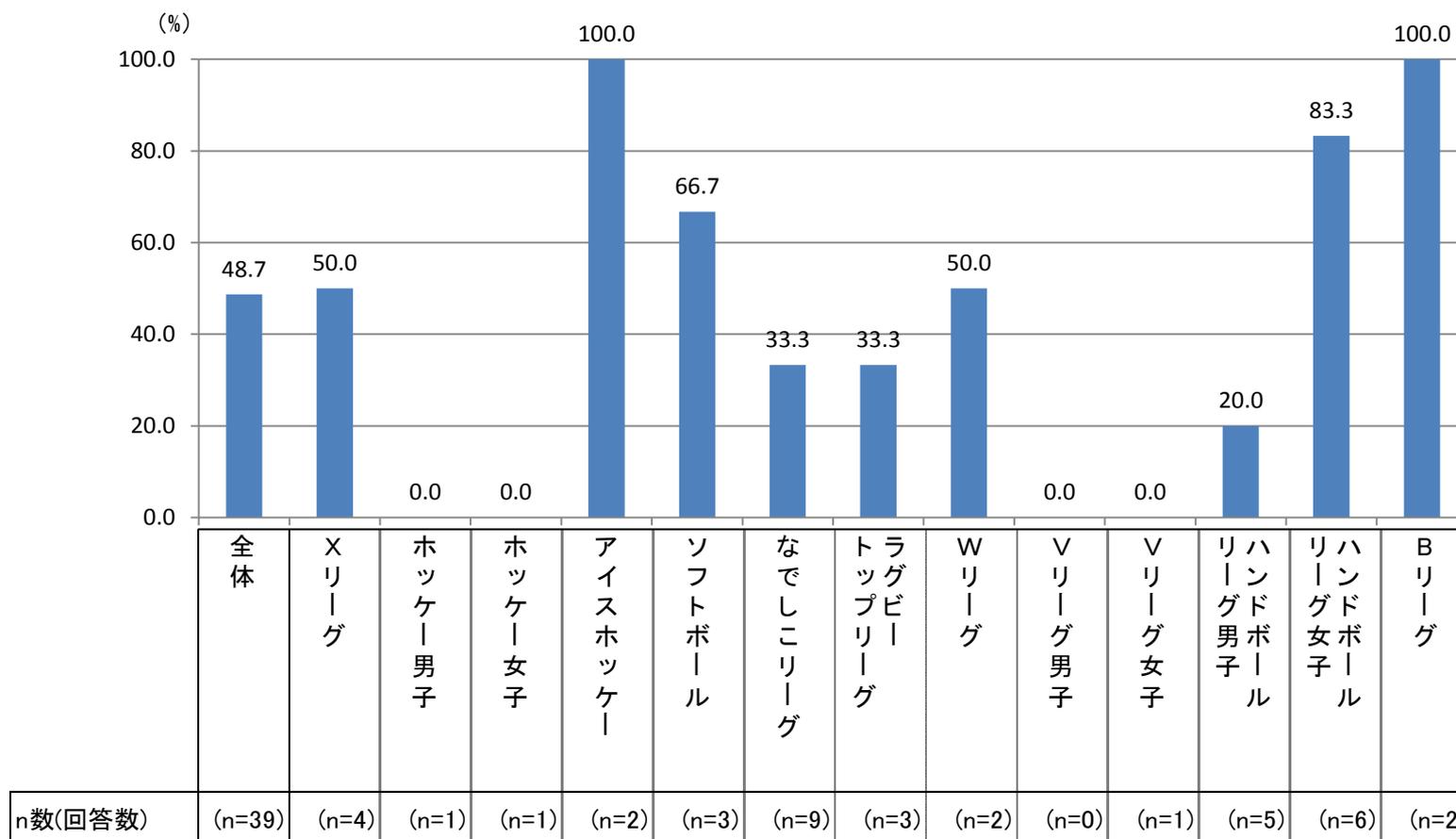
- 全体平均では『選手』『監督・コーチ』『社員』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- ホッケー男子とWリーグ以外の各リーグが、この活動を実施している。
- アイスホッケーとBリーグは、**全ての調査対象者**が本活動に参加している。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=39)	97.4	82.1	43.6	66.7	15.4
Xリーグ	(n=5)	100.0	80.0	40.0	60.0	0.0
ホッケー男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=2)	100.0	50.0	0.0	100.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0
ソフトボール	(n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=7)	100.0	71.4	42.9	85.7	0.0
ラグビートップリーグ	(n=4)	75.0	50.0	25.0	25.0	25.0
Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=6)	100.0	100.0	33.3	66.7	16.7
Vリーグ女子	(n=5)	100.0	80.0	40.0	60.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=3)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=2)	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-19.チーム内にボランティア組織の事務局がありますか？

- 全体平均では**48.7%**が『ボランティア組織の事務局あり』と回答。
- ホッケー（男女）、Vリーグ（男女）を除く各リーグにボランティア組織の事務局がある。
- ハンドボールリーグは男女間で差が大きい。男子（20.0%）に対し女子（83.3%）と差がある。



問7-19.ホームゲーム（大学の場合は競技）運営などにおけるボランティアスタッフ確保の方法は？

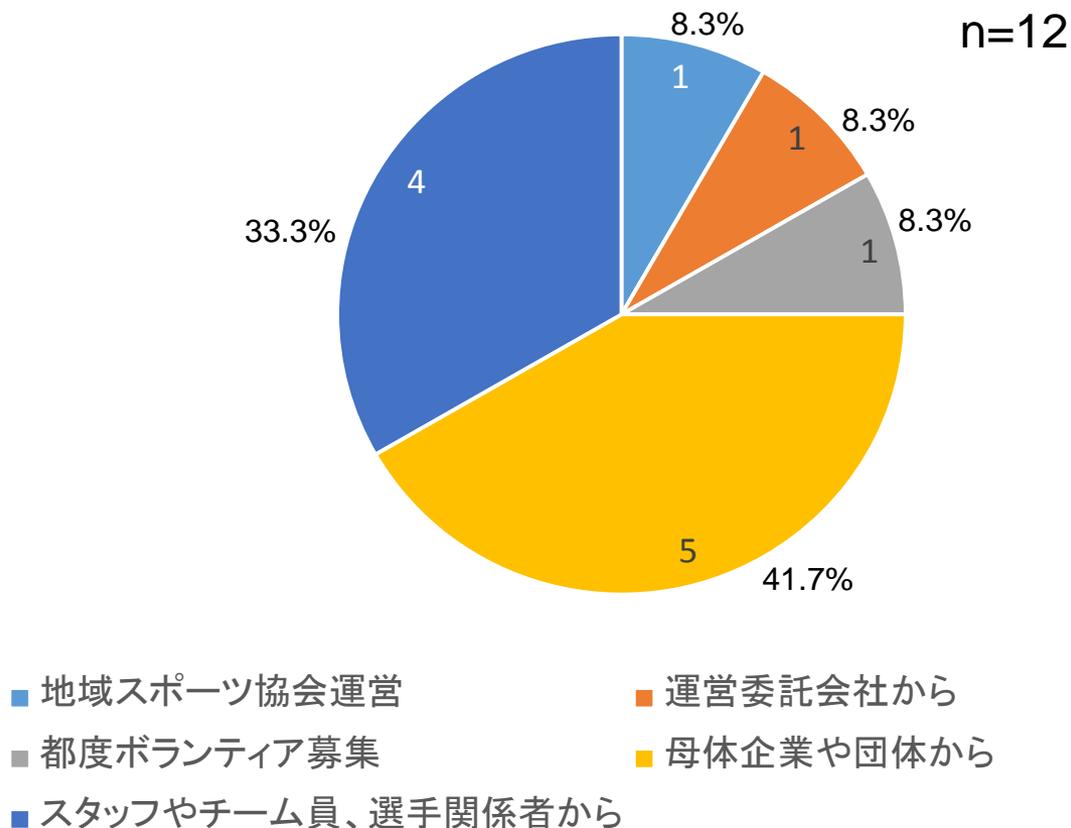
- 全体平均では『チーム組織あり（42.9%）』『競技団体を通じて（37.4%）』の比率が高い。
- Vリーグ男子のみ、チームのボランティア組織を持っていない。
- ホッケー女子、アイスホッケー、Wリーグ、ハンドボール女子、Bリーグは『ボランティアはいない』の回答は無かった。

							(%)	
		チームのボランティア組織がある	試合を主管する競技団体を通じて確保	自治体等のスポーツボランティア団体を通じて確保	その他	運営はすべて有償スタッフで行っており、ボランティアはいない		
全体	(n=91)	42.9	37.4	12.1	23.1	17.6		
Xリーグ	(n=14)	28.6	0.0	21.4	42.9	21.4		
ホッケー男子	(n=8)	12.5	50.0	0.0	25.0	25.0		
ホッケー女子	(n=7)	14.3	85.7	0.0	14.3	0.0		
アイスホッケー	(n=2)	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0		
ソフトボール	(n=7)	42.9	28.6	0.0	14.3	28.6		
なでしこリーグ	(n=12)	75.0	16.7	8.3	25.0	8.3		
ラグビートップリーグ	(n=7)	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6		
Wリーグ	(n=3)	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0		
Vリーグ男子	(n=8)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0		
Vリーグ女子	(n=8)	12.5	62.5	25.0	25.0	12.5		
ハンドボールリーグ男子	(n=7)	71.4	42.9	28.6	14.3	14.3		
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	100.0	66.7	0.0	16.7	0.0		
Bリーグ	(n=2)	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0		

問7-19.『ホームゲーム運営におけるボランティア確保方法』は？ ※自由記述

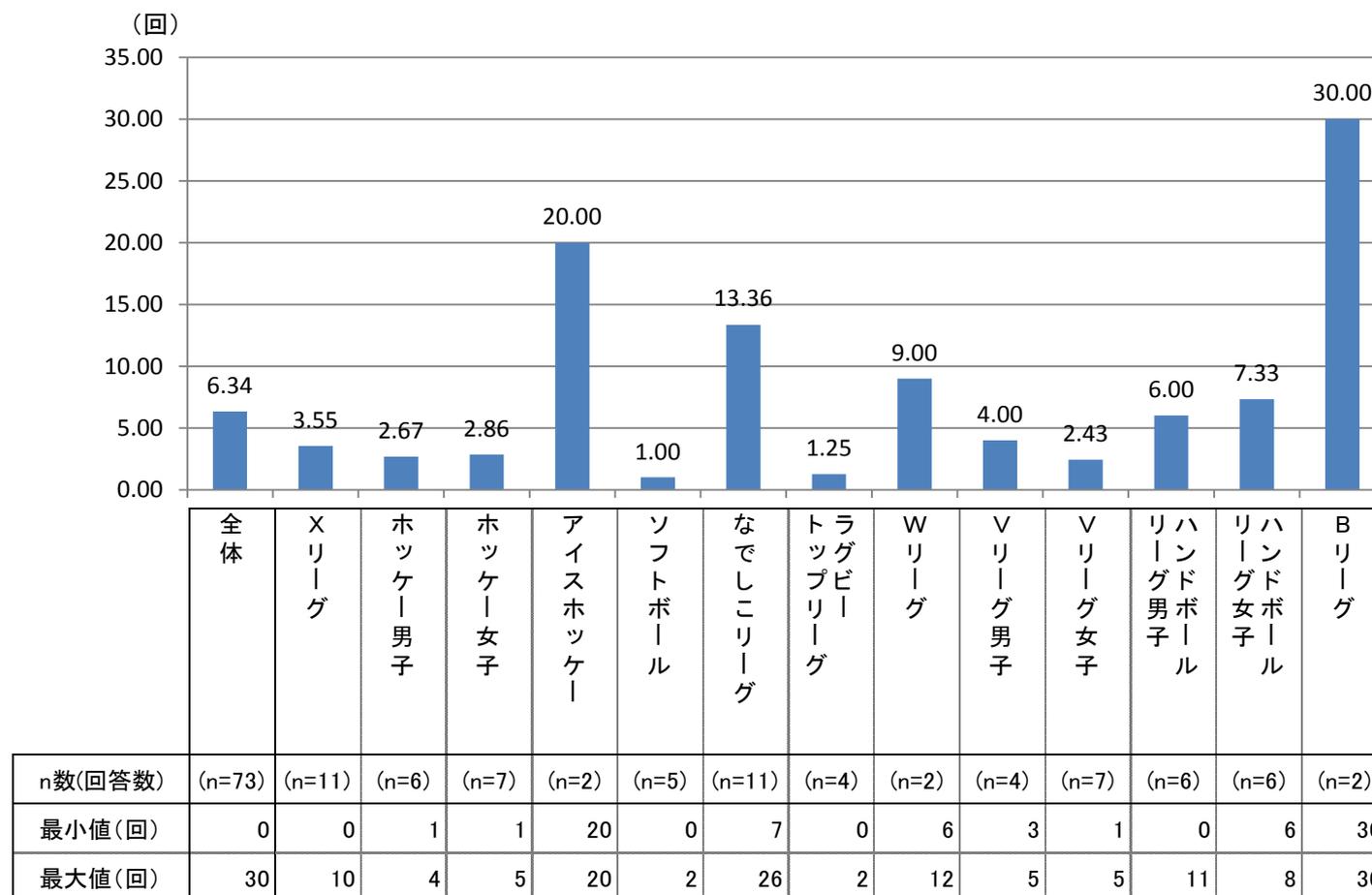
- 『母体企業や団体から』が最も多く、**5クラブ (41.7%)** から回答あり。
- 『スタッフやチーム員、選手関係者から』は**4クラブ (33.3%)** から回答があり。

※自由記述方式の為、内容が近似なものは「集約」、異なる内容は「独立」して集計。



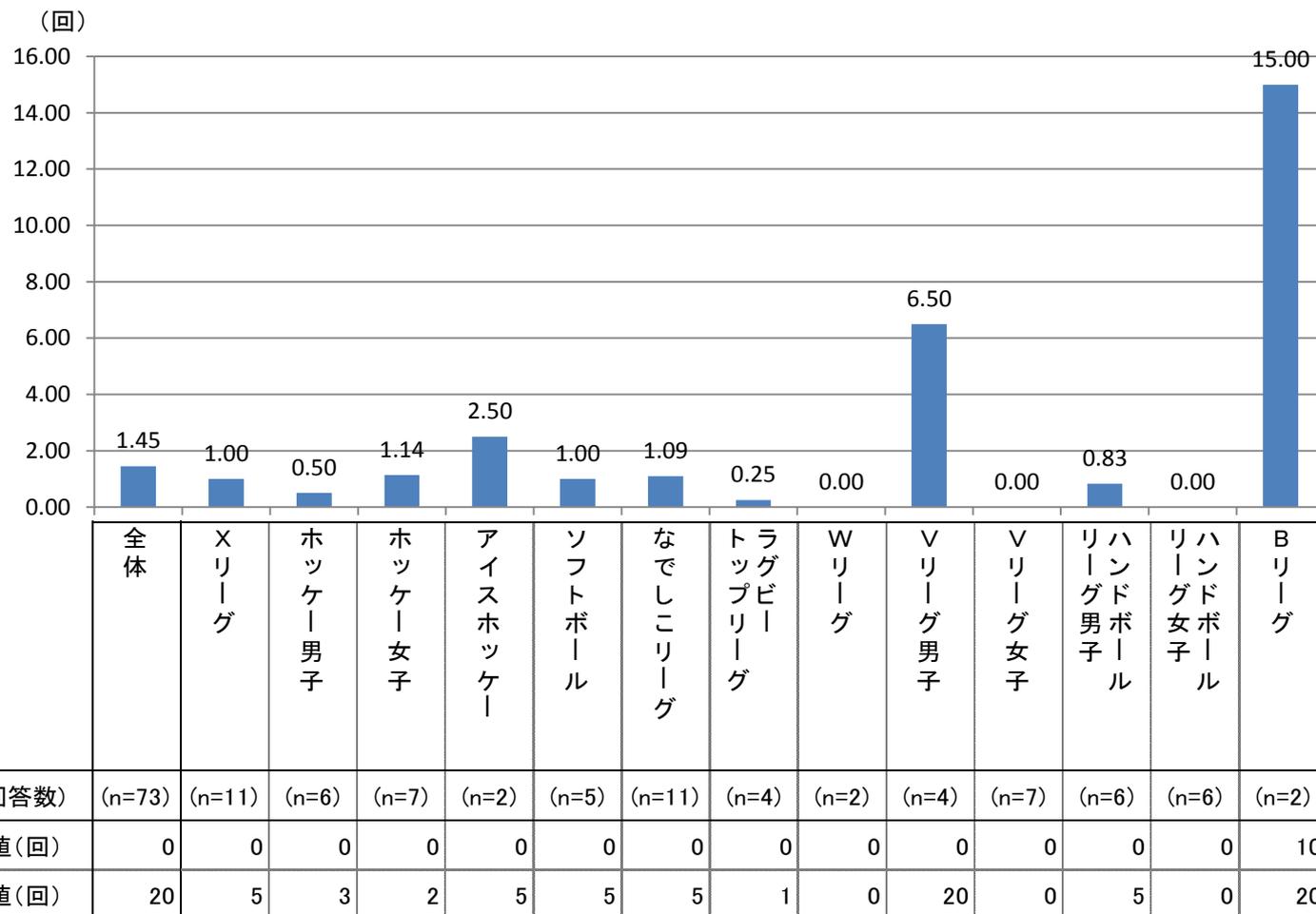
問7-20.『ボランティアがホームゲーム（大学の場合は競技）の運営を支援した回数』は？

- 全体平均では**6.34回**。
- Bリーグ、アイスホッケー、なでしこリーグ、Wリーグ、ハンドボール男女が全体平均を上回る。
- 最大値では、Bリーグ（**30回**）なでしこリーグ（**26回**）、アイスホッケー（**20回**）などとなっている。



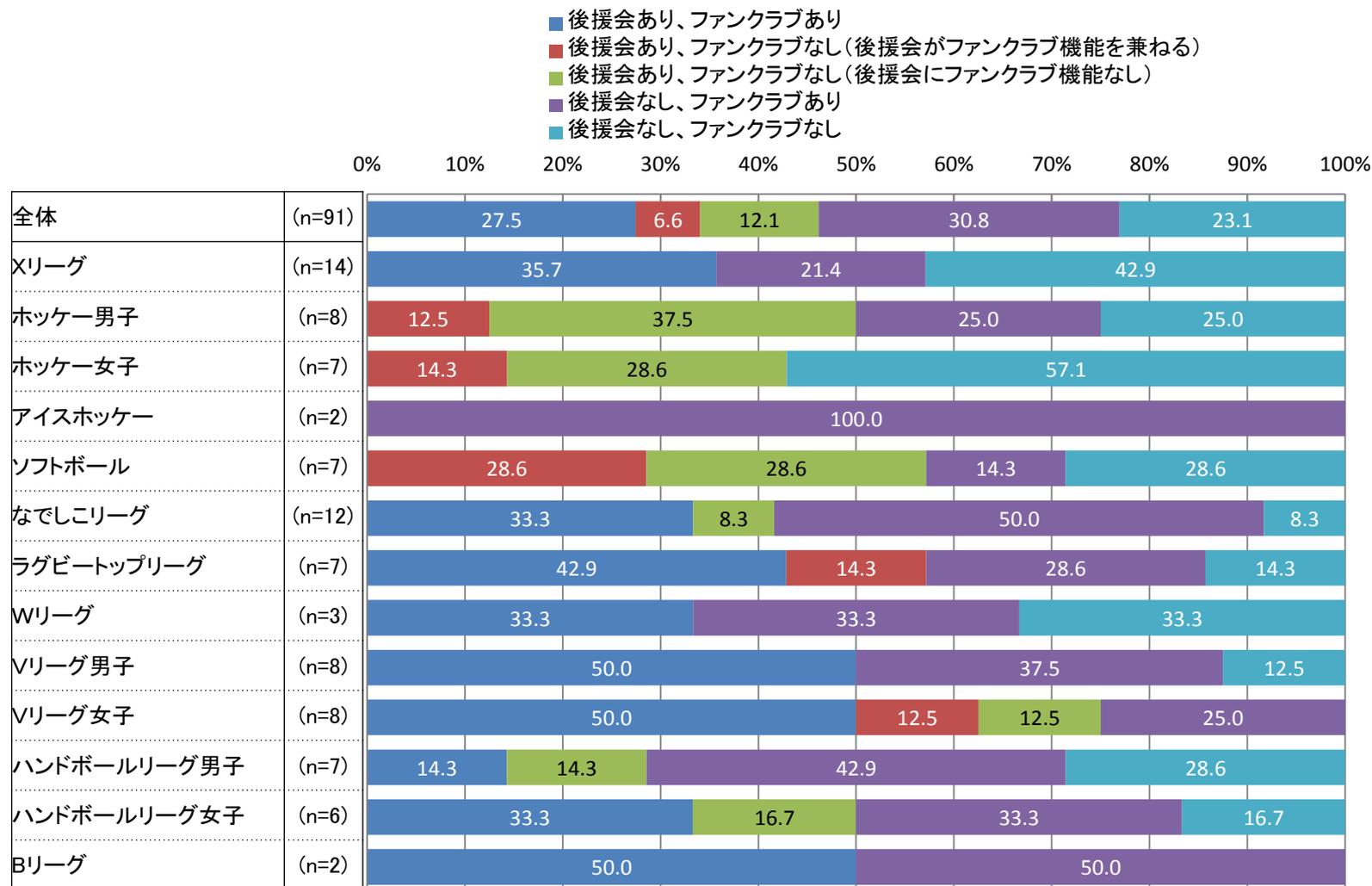
問7-21.『ボランティアがホームゲーム（大学の場合は競技）以外の地域活動を支援した回数』は？

- 全体平均では**1.45回**の実施状況。
- Bリーグが高い数値を示している。（最大20回と回答したクラブあり）
- Wリーグ、Vリーグ女子、ハンドボール女子では実績は無かった。



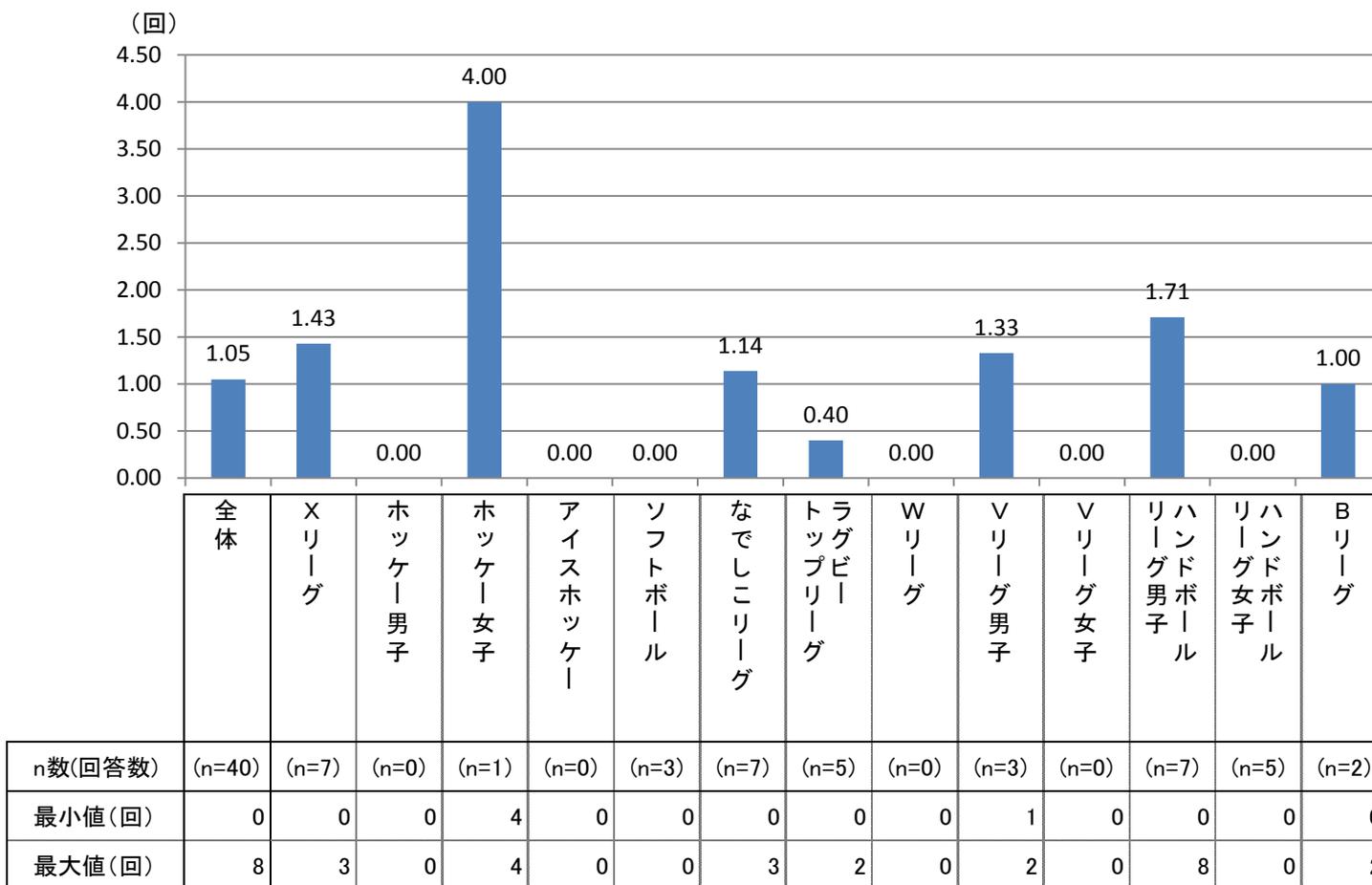
問7-22.後援会・ファンクラブの有無

- 全体平均では**76.9%**に、『後援会もしくはファンクラブがある』ことがわかった。
- Vリーグ（男女）とBリーグは『後援会・ファンクラブともある』と答えた平均値は**50.0%**。
- アイスホッケーは『後援会なし・ファンクラブあり』が**100.0%**の回答となっている。



問7-23.『赤い羽根募金、ユニセフ募金、クラブ独自の公的目的募金』の実施状況は？

- 全体平均では**1.05回**。
- Xリーグ、ホッケー女子、なでしこ、ラグビー、Vリーグ男子、ハンドボール男子、Bリーグの**フリーグ**が実施。
- 平均値ではホッケー女子が突出している（4.00回）。



問7-23.参加者&比率（赤い羽根募金、ユニセフ募金、クラブ独自の公的目的募金の実施）

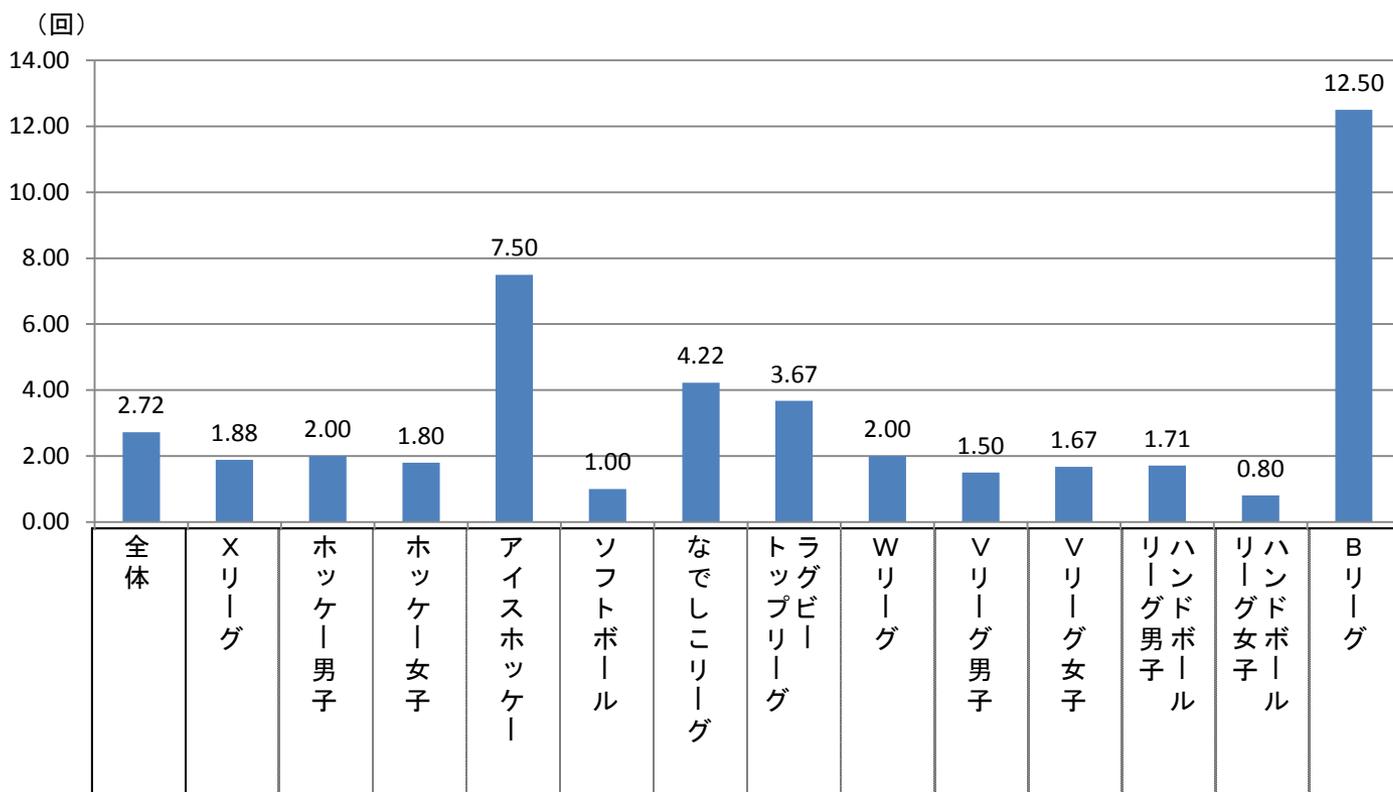
- 全体平均では『選手』『監督・コーチ』『社員』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- Xリーグ、Bリーグ、ホッケー女子、なでしこ、ラグビー、Vリーグ男子、ハンドボール男子の**フリーグ**が実施。
- **ラグビーとBリーグでは、全ての調査対象者が参加**。ホッケーとハンドボールは、男女で活動有無に差。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=19)	94.7	63.2	47.4	52.6	15.8
Xリーグ	(n=5)	100.0	40.0	60.0	40.0	20.0
ホッケー男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=5)	80.0	40.0	20.0	40.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=3)	100.0	66.7	33.3	66.7	0.0
Vリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=3)	100.0	100.0	66.7	66.7	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-24.『学校や企業、団体などでの講演活動』の実施状況は？

- 全体平均では**2.72回**。全てのリーグで本活動が実施されていた。
- Bリーグ、アイスホッケー、なでしこリーグ、ラグビートップリーグは、全体平均を上回っている。
- リーグ平均ではBリーグとアイスホッケーが突出。実施回数ではBリーグとなでしこリーグが最大値20回と最も多い。



n数(回答数)	(n=60)	(n=8)	(n=1)	(n=5)	(n=2)	(n=5)	(n=9)	(n=6)	(n=1)	(n=6)	(n=3)	(n=7)	(n=5)	(n=2)
最小値(回)	0	0	2	1	5	0	0	3	2	1	1	0	0	5
最大値(回)	20	5	2	3	10	3	20	5	2	2	3	5	2	20

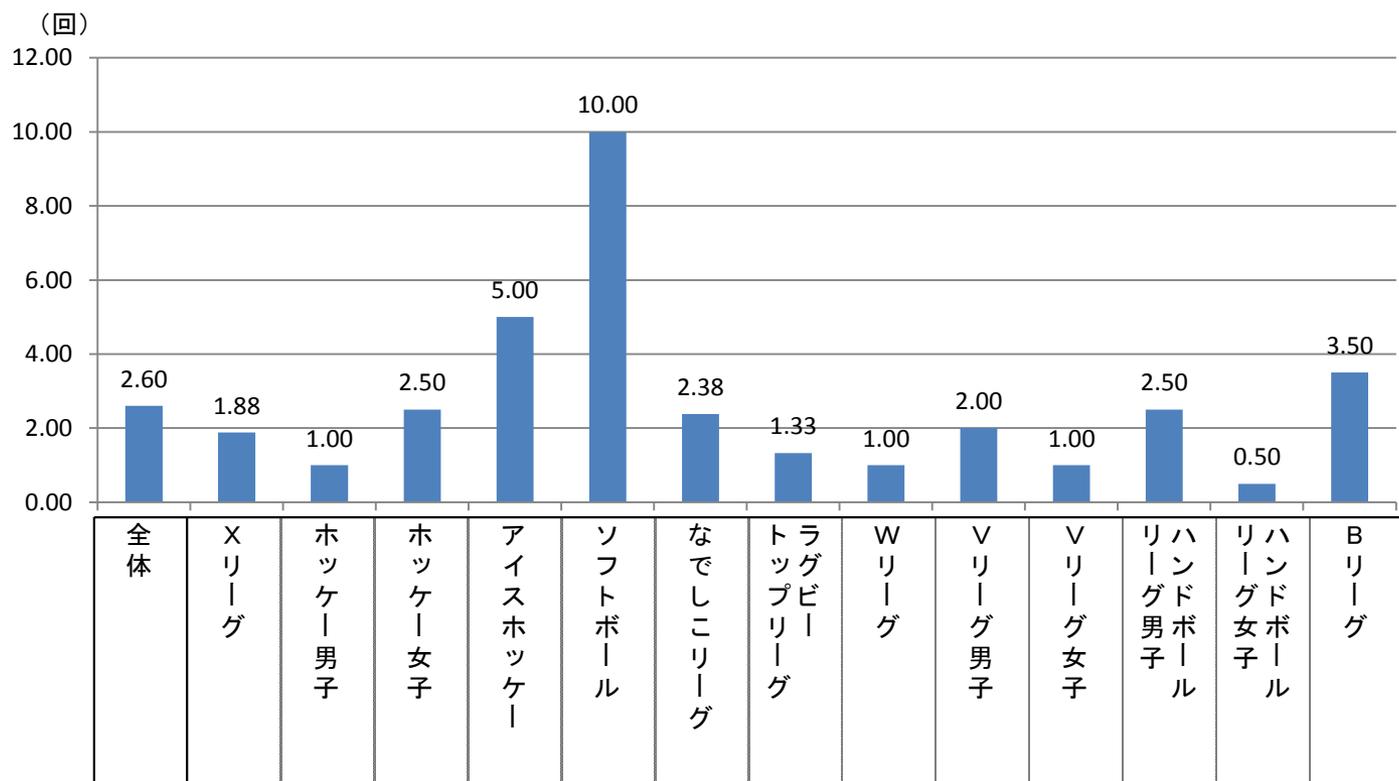
問7-24.参加者&比率（学校や企業、団体などでの講演活動）

- 全体平均では『監督・コーチ』と『選手』が**ほぼ同率**。次いで『組織トップ』と『社員』の順。『マスコット』参加率は低い。
- **全てのリーグが本活動を実施**している。
- ホッケー男子、Wリーグ、ハンドボール女子では『選手』の参加は無い。

		(%)				
		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=50)	68.0	70.0	44.0	42.0	4.0
Xリーグ	(n=7)	28.6	71.4	71.4	28.6	0.0
ホッケー男子	(n=1)	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=5)	80.0	40.0	0.0	40.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0
ソフトボール	(n=2)	100.0	50.0	0.0	100.0	0.0
なでしこリーグ	(n=8)	50.0	87.5	50.0	37.5	0.0
ラグビートップリーグ	(n=6)	100.0	83.3	33.3	50.0	0.0
Wリーグ	(n=1)	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0
Vリーグ男子	(n=6)	100.0	100.0	16.7	50.0	0.0
Vリーグ女子	(n=3)	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=5)	100.0	20.0	40.0	40.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=2)	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0

問7-25.『地域の清掃ボランティア活動への協力』の実施状況は？

- 全体平均では**2.60回**。各リーグとも清掃ボランティアに取り組んでいる。
- ソフトボール、Bリーグ、アイスホッケーが全体平均回数を超えている。
- ソフトボールには年間40回、実施したクラブがある。



n数(回答数)	(n=52)	(n=8)	(n=1)	(n=4)	(n=2)	(n=4)	(n=8)	(n=6)	(n=1)	(n=2)	(n=2)	(n=6)	(n=6)	(n=2)
最小値(回)	0	0	1	1	5	0	0	0	1	2	1	0	0	2
最大値(回)	40	5	1	5	5	40	6	3	1	2	1	8	1	5

問7-25.参加者&比率（地域の清掃ボランティア活動への協力）

- 全体平均では『選手』『監督・コーチ』『社員』『組織トップ』『マスコットキャラクター』の順。
- **全てのリーグが本活動に参加している。**
- ソフトボールは『選手』のみが参加している。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=41)	95.1	65.9	34.1	58.5	12.2
Xリーグ	(n=7)	100.0	57.1	42.9	42.9	14.3
ホッケー男子	(n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=4)	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	50.0	0.0	100.0	50.0
ソフトボール	(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=7)	85.7	71.4	28.6	71.4	0.0
ラグビートップリーグ	(n=5)	80.0	60.0	40.0	80.0	20.0
Wリーグ	(n=1)	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
Vリーグ男子	(n=2)	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0
Vリーグ女子	(n=2)	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=4)	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=3)	100.0	100.0	66.7	33.3	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

問7-26～30.『資金的支援を得るための仕組み作り』として活動しているものは？

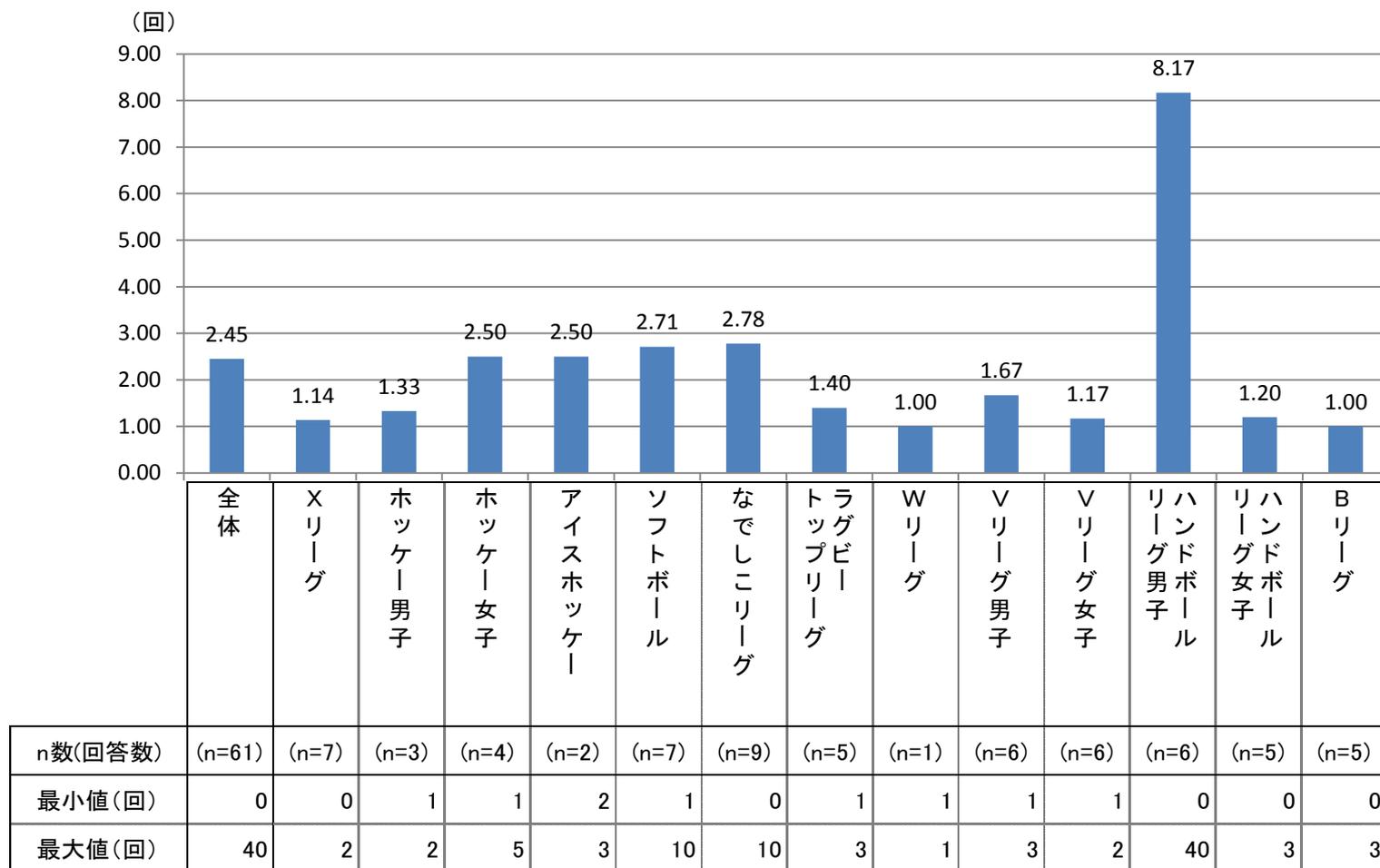
- 全体平均では『地元企業による物品やサービス支援を受け入れる仕組みあり』が最も多く**30.8%**。
- ソフトボールを除く各リーグが『地元企業による物品やサービスによる支援を受け入れる仕組みあり』と回答。
- 『感謝広告の掲載』は、Vリーグとハンドボールリーグでは男女間で実施率に大きな差がある。

(%)

		地元企業による 物品やサービス による支援を受 け入れる仕組み がある	市民株主の仕組 みがある	市民株主総会の 仕組みがある	スポンサー料を 引き下げている	新聞等を通じて 感謝広告を掲載 している
全体	(n=91)	30.8	0.0	0.0	9.9	8.8
Xリーグ	(n=14)	21.4	0.0	0.0	14.3	0.0
ホッケー男子	(n=8)	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=7)	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	0.0	0.0	50.0	100.0
ソフトボール	(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=12)	66.7	0.0	0.0	8.3	8.3
ラグビートップリーグ	(n=7)	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
Wリーグ	(n=3)	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3
Vリーグ男子	(n=8)	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0
Vリーグ女子	(n=8)	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5
ハンドボールリーグ男子	(n=7)	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0

問7-31.参加頻度（必勝祈願、メディア等表彰式への出席）

- 全体平均では**2.45回**。全てのリーグが、この活動には取組んでいる。
- ハンドボール男子、なでしこリーグ、ソフトボール、アイスホッケー、ホッケー女子が全体平均を上回った。
- ハンドボール男子には、40回実施したクラブがある。



問7-31.参加者&比率（必勝祈願、メディア等表彰式への出席）

- 全体平均では『選手』と『監督・コーチ』が**約100%**。次いで『組織トップ』『社員』もほぼ同率。『マスコット』の順。
- 全てのリーグが本活動（必勝祈願、メディア等表彰式への出席）を実施している。
- 『マスコットキャラクター』の参加はアイスホッケー、Bリーグ、ラグビートップリーグで実施している。

(%)

		選手	監督・コーチ	運営団体、 部の組織トップ	運営団体、 部の社員	マスコット キャラクター
全体	(n=54)	96.3	96.3	68.5	61.1	7.4
Xリーグ	(n=5)	80.0	80.0	80.0	40.0	0.0
ホッケー男子	(n=3)	66.7	100.0	66.7	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=4)	100.0	75.0	0.0	50.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0
ソフトボール	(n=7)	100.0	100.0	71.4	42.9	0.0
なでしこリーグ	(n=8)	100.0	100.0	75.0	87.5	0.0
ラグビートップリーグ	(n=5)	100.0	100.0	80.0	80.0	20.0
Wリーグ	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
Vリーグ男子	(n=6)	100.0	100.0	50.0	66.7	0.0
Vリーグ女子	(n=6)	100.0	100.0	66.7	50.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=3)	100.0	100.0	66.7	66.7	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=2)	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

◆第5章：トップスポーツ組織が重要視するステークホルダーまとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

- <問8>
- ・重要視するステークホルダー上位について（企業系・独立/プロ系 1位、2位、3位）
 - ・重要視するステークホルダー上位について（大学系 1位、2位、3位）

【内容サマリー】

<問7>

- ・トップスポーツ組織が特に重視するステークホルダーは、**組織の事業基盤安定化**を踏まえた回答が多かった。
- ・組織の**運営形態（企業系・独立/プロ系・大学系）に関わらず**、「ファンクラブ」や「観客」などが上位となるが、企業系クラブでは「母体企業関係者」が、大学系では「大学関係者」が上位となるなど特徴が見られる。

問8.重要視するステークホルダーの上位3つは？（企業系・独立/プロ系 第1位）

- 第1位の上位は『観客』と『母体企業関係者（従業員、関連会社社員）』で、**それぞれ20%**を超えている。
- Bリーグでは『ファンクラブ（サポーター組織）会員』と『ホームタウン地域住民』に集中している。
- ホッケー女子とラグビートップリーグでは『母体企業関係者』に集中しており、数値も高い。

		観客	ファンクラブ(サポーター組織)会員	ホームタウン地域住民	周辺地域住民(ホームタウン以外に在	貴団体関係者(従業員など)	スポンサー企業関係者(従業員、関連)	株主	母体企業関係者(従業員、関連会社)	母体企業の事業顧客	地域行政	その他	特になし
全体	(n=82)	20.7	13.4	13.4	0.0	12.2	13.4	0.0	19.5	1.2	3.7	1.2	1.2
Xリーグ	(n=14)	21.4	7.1	14.3	0.0	7.1	35.7	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
ホッケー男子	(n=5)	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=7)	14.3	0.0	14.3	0.0	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=10)	0.0	20.0	20.0	0.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=7)	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0
Wリーグ	(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=8)	50.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ女子	(n=8)	12.5	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5
ハンドボールリーグ男子	(n=7)	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問8.重要視するステークホルダーの上位3つは？（企業系・独立/プロ系 第2位）

- 第2位の上位は『スポンサー企業関係者』と『ファンクラブ会員』が同率で**23.2%**。
- アイスホッケーは回答した2クラブとも、『スポンサー企業関係者』となっている。
- ホッケー女子の『団体関係者』と『母体企業関係者』に対し、Bリーグは『観客』と『ファンクラブ会員』と**対照的**。

(%)

		観客	ファンクラブ(サポーター組織)会員	ホームタウン地域住民	周辺地域住民(ホームタウン以外に在住)	貴団体関係者(従業員など)	スポンサー企業関係者(従業員、関連会社社員)	株主	母体企業関係者(従業員、関連会社社員)	母体企業の事業顧客	地域行政	その他	特になし
全体	(n=82)	9.8	23.2	15.9	1.2	7.3	23.2	1.2	7.3	0.0	8.5	1.2	1.2
Xリーグ	(n=14)	7.1	28.6	7.1	7.1	14.3	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0
ホッケー男子	(n=5)	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=7)	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=10)	20.0	20.0	10.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=7)	0.0	57.1	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Wリーグ	(n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=8)	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0
Vリーグ女子	(n=8)	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5
ハンドボールリーグ男子	(n=7)	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問8.重要視するステークホルダーの上位3つは？（企業系・独立/プロ系 第3位）

- 第3位の上位は『観客』『ホームタウン地域住民』『ファンクラブ会員』である。
- ホッケー（男女）、ハンドボール女子、Wリーグは『地域行政』の比率が高い。
- 3位に『周辺地域住民』を挙げたのはホッケー（男女）、ハンドボール（男女）、ソフトボールの**5リーグ**。

		観客	ファンクラブ(サポーター組織)会員	ホームタウン地域住民	周辺地域住民(ホームタウン以外に在住)	貴団体関係者(従業員など)	スポンサー企業関係者(従業員、関連会社社員)	株主	母体企業関係者(従業員、関連会社社員)	母体企業の事業顧客	地域行政	その他	特になし
全体	(n=82)	20.7	14.6	18.3	7.3	6.1	9.8	0.0	8.5	1.2	12.2	0.0	1.2
Xリーグ	(n=14)	14.3	21.4	14.3	0.0	7.1	21.4	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー男子	(n=5)	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0
ホッケー女子	(n=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=7)	0.0	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=10)	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=7)	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Wリーグ	(n=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=8)	0.0	12.5	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0
Vリーグ女子	(n=8)	50.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5
ハンドボールリーグ男子	(n=7)	42.9	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問8.重要視するステークホルダーを上位3つは？（大学系 第1位）

- 全体平均では、ステークホルダー第1位の上位は『大学周辺の地域住民』『観客』『貴大学学生』である。
- ホッケー男子では、『大学もしくは練習場周辺の地域住民』と回答したクラブが**66.7%**。
- なでしこリーグでは、『観客』『貴大学学生』がそれぞれ同率であった。

		観客	ファンクラブ(サポーター組織)会員	大学もしくは練習場周辺の地域住民	ホームタウン地域住民	貴大学学生	貴大学教職員	OBOG会	後援会	学生の保護者	中央競技団体	学連	スポンサー企業	地域行政	その他	特になし	(%)
全体	(n=9)	22.2	0.0	33.3	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
Xリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー男子	(n=3)	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
ホッケー女子	(n=4)	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問8.重要視するステークホルダーを上位3つは？（大学系 第2位）

- 全体平均では、ステークホルダー第2位の上位は『OBOG会』『学生の保護者』などである。
- ホッケー女子では、『OBOG会』『学生の保護者』が同率であった。
- なでしこリーグでは、『ホームタウン地域住民』『スポンサー企業』を重視している。

		(%)														
	観客	ファンクラブ(サポーター組織)会員	大学もしくは練習場周辺の地域住民	ホームタウン地域住民	貴大学学生	貴大学教職員	OBOG会	後援会	学生の保護者	中央競技団体	学連	スポンサー企業	地域行政	その他	特になし	
全体	(n=9)	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1
Xリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー男子	(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
ホッケー女子	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問8.重要視するステークホルダーを上位3つは？（大学系 第3位）

- 全体平均でのステークホルダー第3位の上位は『OBOG会』『大学もしくは練習場周辺の地域住民』である。
- ホッケー男子では『OBOG会』を重視している。
- なでしこリーグでは、『ファンクラブ会員』『大学もしくは練習場周辺の地域住民』と回答。

		(%)														
	観客	ファンクラブ(サポーター組織)会員	大学もしくは練習場周辺の地域住民	ホームタウン地域住民	貴大学学生	貴大学教職員	OBOG会	後援会	学生の保護者	中央競技団体	学連	スポンサー企業	地域行政	その他	特になし	
全体	(n=9)	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
Xリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ホッケー男子	(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
ホッケー女子	(n=4)	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アイスホッケー	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なでしこリーグ	(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ラグビートップリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Wリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Vリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ男子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンドボールリーグ女子	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Bリーグ	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

◆第6章：トップスポーツ組織のマスコットキャラクター・商標・グッズに関するまとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

- <問4> マスコットキャラクター（有無、着ぐるみの有無など）
- <問9> 地域団体に対するチーム保有商標の使用許諾
- <問10> チームグッズについて（保有率、アイテム別の使用状況など）

【内容サマリー】

<問4>

- ・全体の**約7割**の組織に「マスコットキャラクター」あり。
- ・リーグごとの保有率に差が大きい。
- ・「マスコットキャラクター着ぐるみ」の保有率は全体平均で**約6割**。

<問9>

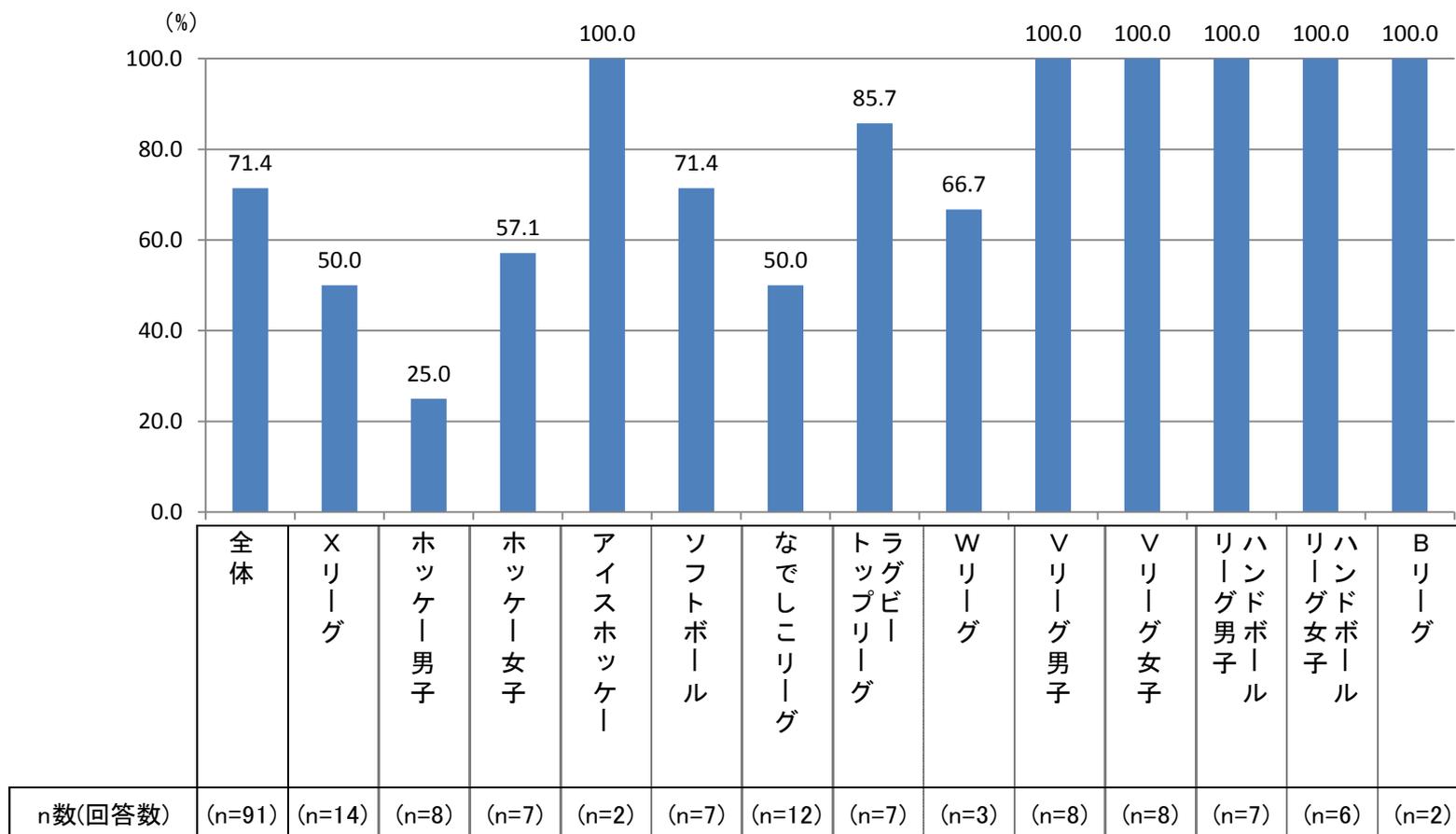
- ・「**商標使用無償許可 & 活用実績あり**」と「使用不許可」がそれぞれ約3割と**二極化**。
- ・特にプロクラブは「無償許可」の割合が高い。

<問10>

- ・各リーグとも**何らかのグッズを複数種類**保有。
- ・グッズは「タオル」「筆記用具」「キーホルダー」などファンや支援者が**日常生活で使い易いものや役立つもの**が中心。

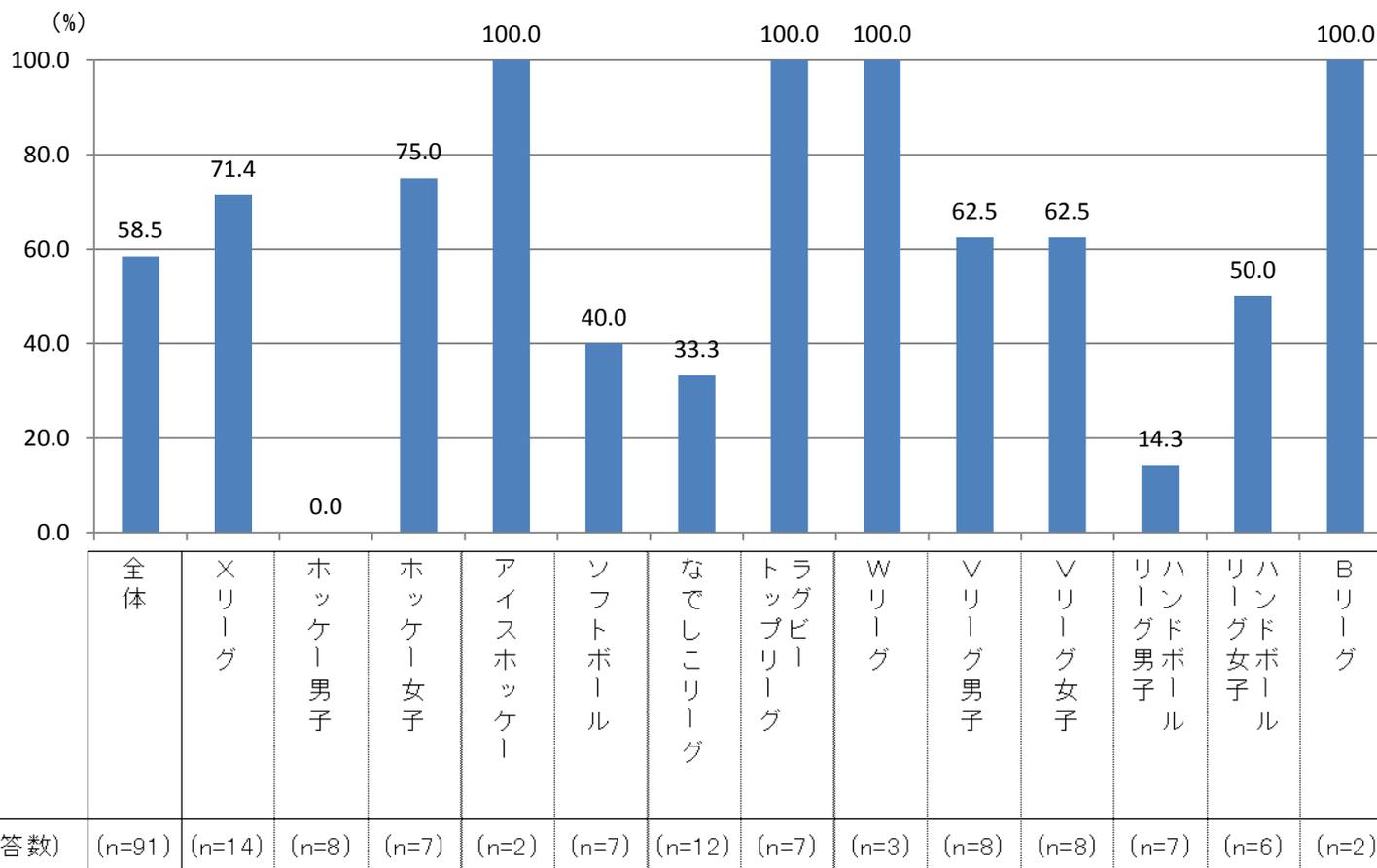
問4. マスコットキャラクターの有無

- 全体平均では**71.4%**が『マスコットキャラクター有り』と回答。なお、リーグごとに差が大きい。
- Vリーグとハンドボールは男女の差は無く、どちらも**100.0%**の保有率。
- Xリーグ、ホッケー男女、なでしこリーグ、Wリーグのマスコットキャラクター保有率は**全体平均を下回った**。



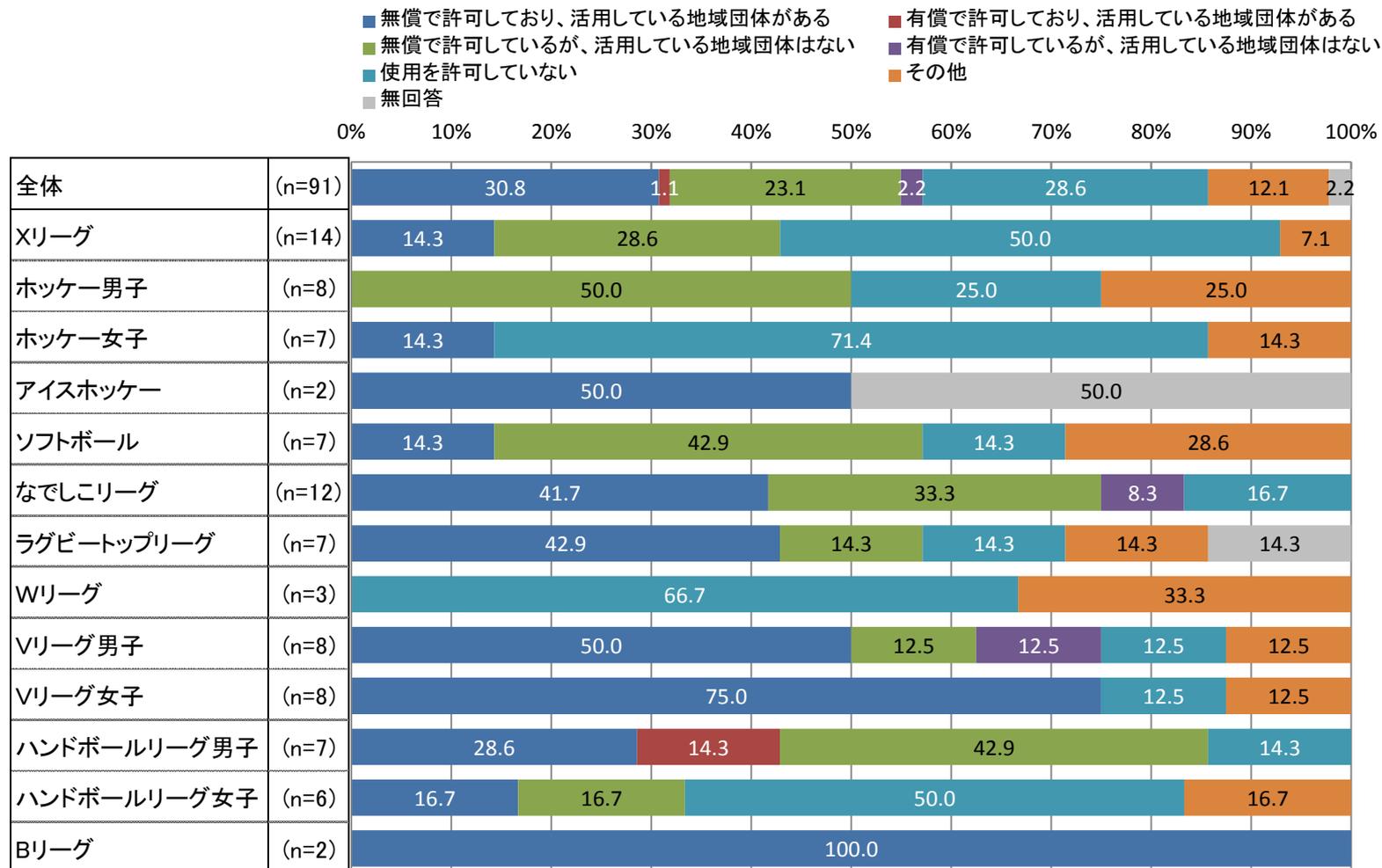
問4. マスコットキャラクター（マスコットの着ぐるみ）の有無

- 全体平均では『有り』が**58.5%**。『有り』で最も低いのはハンドボール男子、次いで、なでしこリーグ。
- ラグビートップリーグ、Wリーグ、Bリーグは『マスコットの着ぐるみ保有率**100.0%**』
- 『マスコットの着ぐるみ』保有率は**リーグ間で差が大きい**。（最大値100%。最小値0%）



問9.ホームタウンなどの地域団体へのチーム保有商標の使用許諾について

- 全体平均では『無償許可 & 活用あり』が**30.8%**と最も多く、次いで『使用不可』が**28.6%**と**二極化**。
- 『無償許可 & 活用あり』と回答したクラブが多いのはBリーグ、アイスホッケー、なでしこ、ラグビー、Vリーグ（男女）。
- 『有償許可 & 活用あり』と回答したのはハンドボール男子のみ。



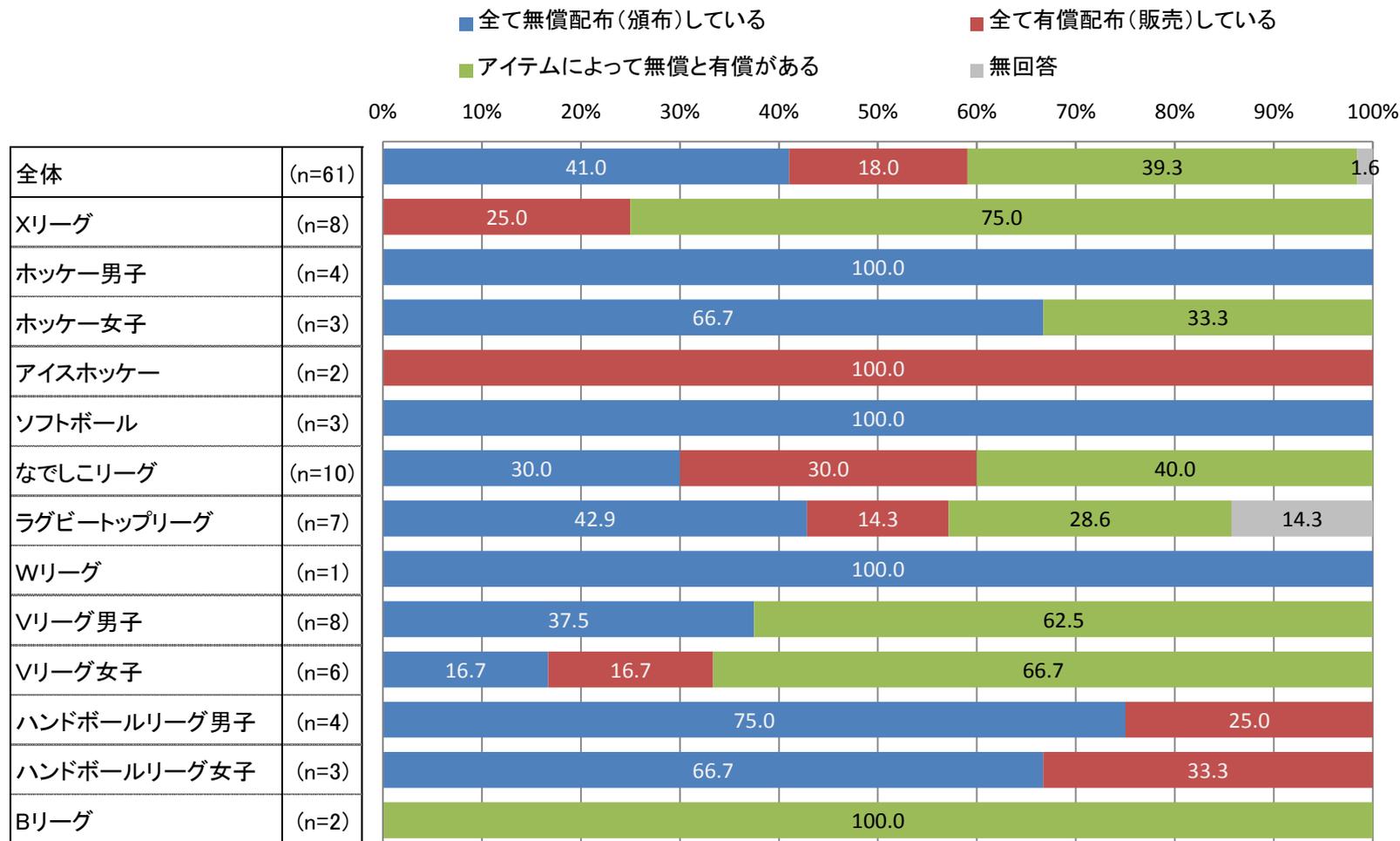
問10.グッズ別の保有率

- 全体平均では、**各リーグとも何らかのグッズを複数種類保有**している。
- ミニフラッグ、スポーツキャップ、レプリカユニフォーム、マスコットキャラクターぬいぐるみを保有していないリーグがある。
- ホッケー男子のみ、レプリカユニフォームを保有していない。

		(%)									
		ステッカー	ミニフラッグ	筆記用具 (ペン、メモ パッド)	スポーツ キャップ	タオル	レプリカ ユニフォー ム	マスコット キャラク ター・ぬい ぐるみ	キーホル ダー	その他	
全体	(n=91)	67.0	30.8	52.7	41.8	89.0	70.3	23.1	64.8	25.3	
Xリーグ	(n=14)	57.1	7.1	35.7	92.9	92.9	57.1	21.4	71.4	7.1	
ホッケー男子	(n=8)	50.0	0.0	12.5	0.0	50.0	0.0	0.0	12.5	25.0	
ホッケー女子	(n=7)	42.9	14.3	28.6	28.6	57.1	28.6	0.0	28.6	14.3	
アイスホッケー	(n=2)	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	
ソフトボール	(n=7)	42.9	14.3	28.6	57.1	85.7	57.1	14.3	42.9	28.6	
なでしこリーグ	(n=12)	83.3	75.0	58.3	41.7	100.0	100.0	8.3	66.7	41.7	
ラグビートップリーグ	(n=7)	100.0	85.7	71.4	100.0	100.0	100.0	14.3	100.0	0.0	
Wリーグ	(n=3)	33.3	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	33.3	100.0	33.3	
Vリーグ男子	(n=8)	100.0	25.0	75.0	12.5	100.0	100.0	25.0	87.5	25.0	
Vリーグ女子	(n=8)	75.0	25.0	87.5	0.0	100.0	100.0	75.0	87.5	50.0	
ハンドボールリーグ男子	(n=7)	57.1	28.6	57.1	28.6	85.7	57.1	0.0	28.6	14.3	
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	50.0	16.7	50.0	0.0	100.0	66.7	33.3	83.3	66.7	
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	

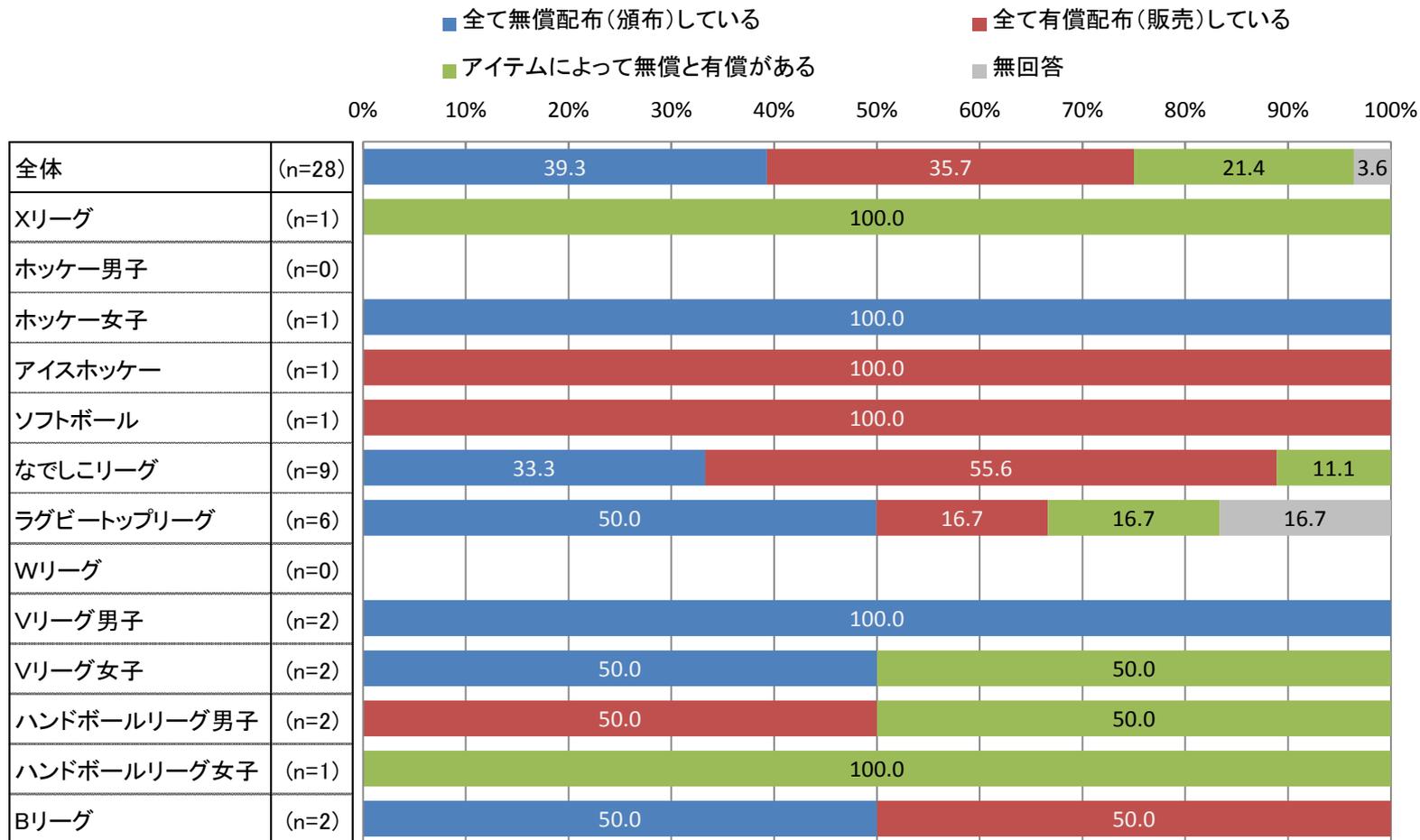
問10.グッズの配布方法（ステッカー）

- 全体平均では『全て無償配布』が最も多く、**41.0%**。
- ソフトボールとWリーグは、『全て無償配布』となっているが、アイスホッケーでは『全て有償配布』と**対照的**。
- ハンドボールリーグでは男女とも『全て無償』『全て有償』と**二極化**。



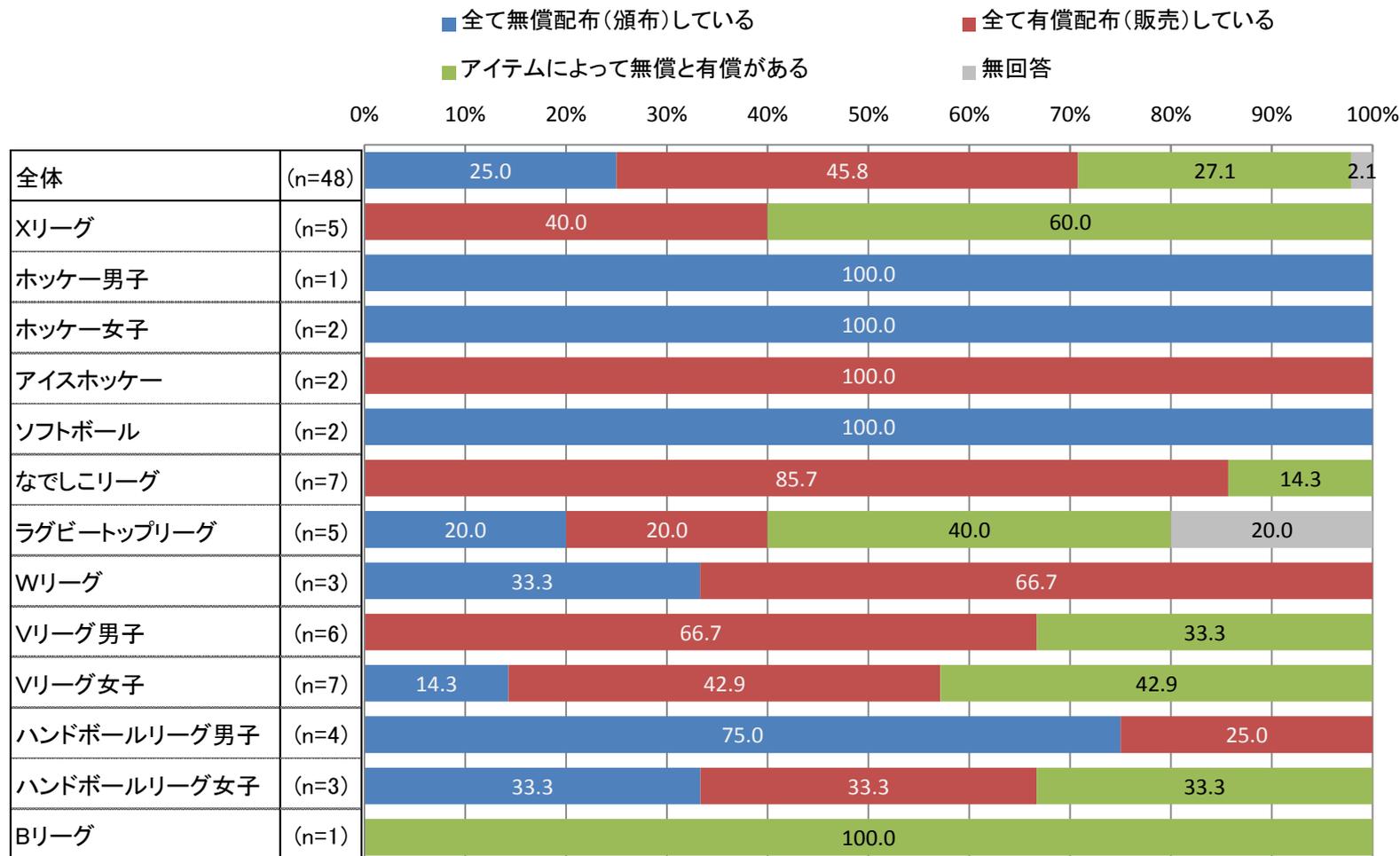
問10.グッズの配布方法 (ミニフラッグ)

- 全体平均では『全て無償』が最も多く、**39.3%**。次いで『全て有償』で**35.7%**。
- 『全て無償』(ホッケー女子、Vリーグ男子)と『全て有償』(アイスホッケー、ソフトボール) などリーグ間で差がある。
- なでしこリーグは、**全3パターン**が存在し、『全て有償』(55.6%)が**最大比率**。



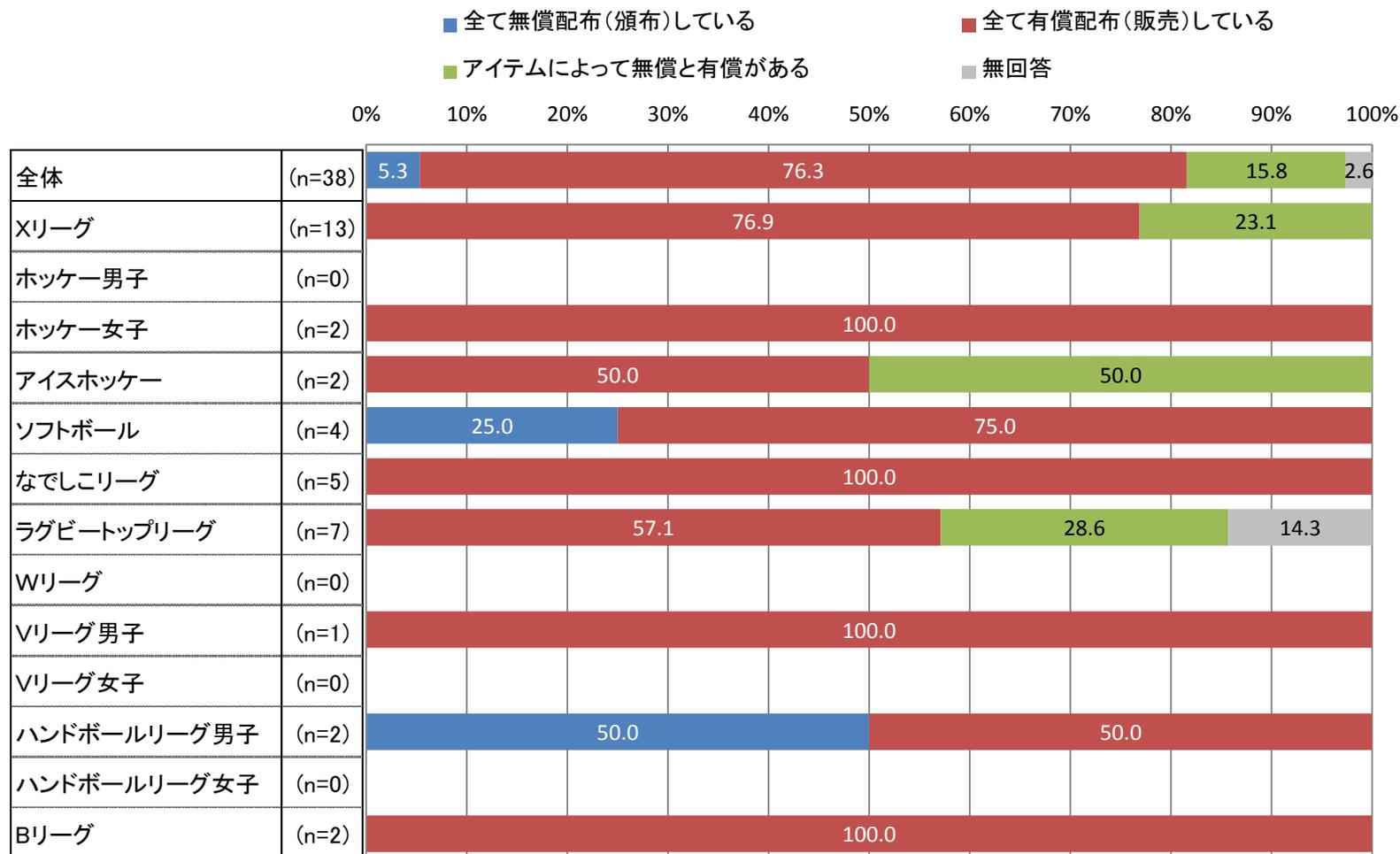
問10.グッズの配布方法（筆記用具、ペン、メモパッド）

- 全体平均では『全て有償』が最も多く、**45.8%**。『全て無償』と『アイテムによって異なる』は、ほぼ同率。
- ホッケー（男女）、ソフトボールは『全て無償配布』だが、アイスホッケーは『全て有償配布（販売）』と**対照的**。
- ラグビートップリーグ、Vリーグ男女、ハンドボール女子では、**様々なパターンが存在する**。



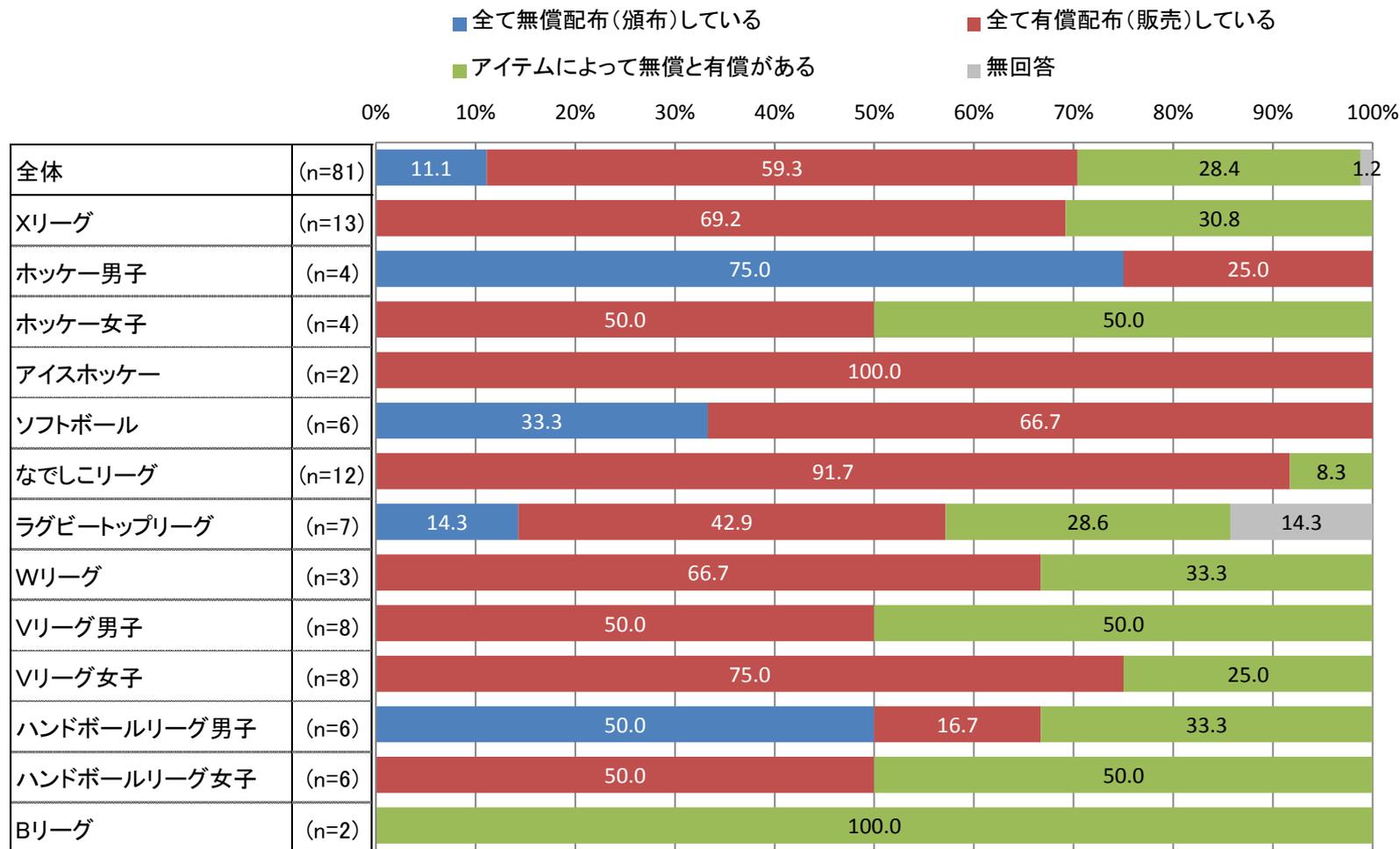
問10.グッズの配布方法（スポーツキャップ）

- 全体平均では、『全て有償配布（販売）』が最も多く、**76.3%**。
- 『全て有償配布（販売）』と回答したのはホッケー女子、なでしこリーグ、Bリーグ、Vリーグ男子である。
- 『全て無償配布』との回答があったのはソフトボールとハンドボール男子である。



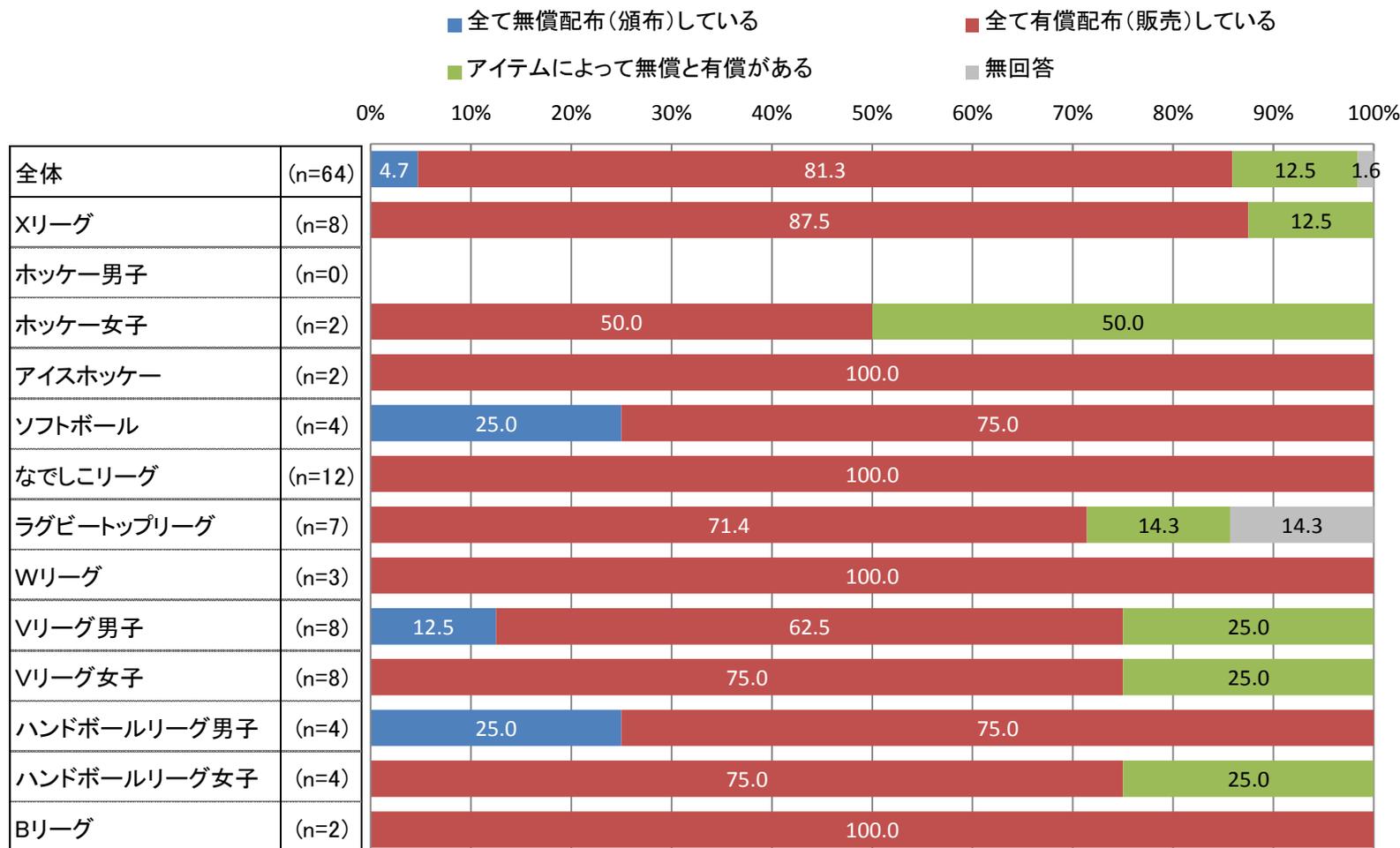
問10.グッズの配布方法（タオル）

- 全体平均では『有償で配布（販売）』が最も多く、**59.3%**。
- ホッケー男子とハンドボール男子、ソフトボールでは『全て無償配布』との回答比率が高い。
- アイスホッケーでは『全て有償で配布（販売）』のみの回答であった。



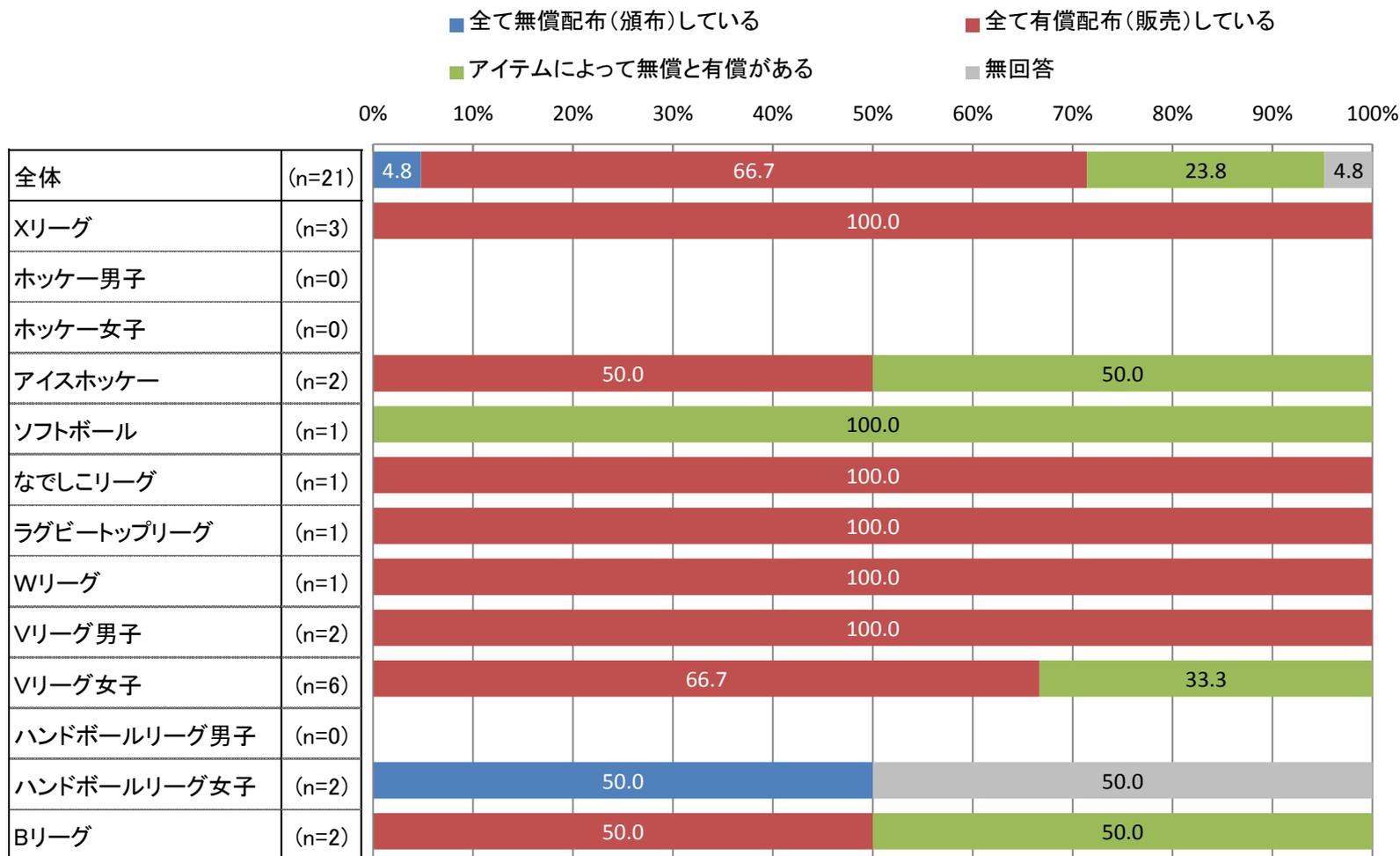
問10.グッズの配布方法（レプリカユニフォーム）

- 全体平均では『全て有償配布（販売）』が最も多く、**81.3%**であった。
- アイスホッケー、なでしこリーグ、Bリーグ、Wリーグでは『無償配布』を行っているクラブは無い。
- ソフトボール、ハンドボール男子、Vリーグ男子では『無償配布』を行っているクラブがある。



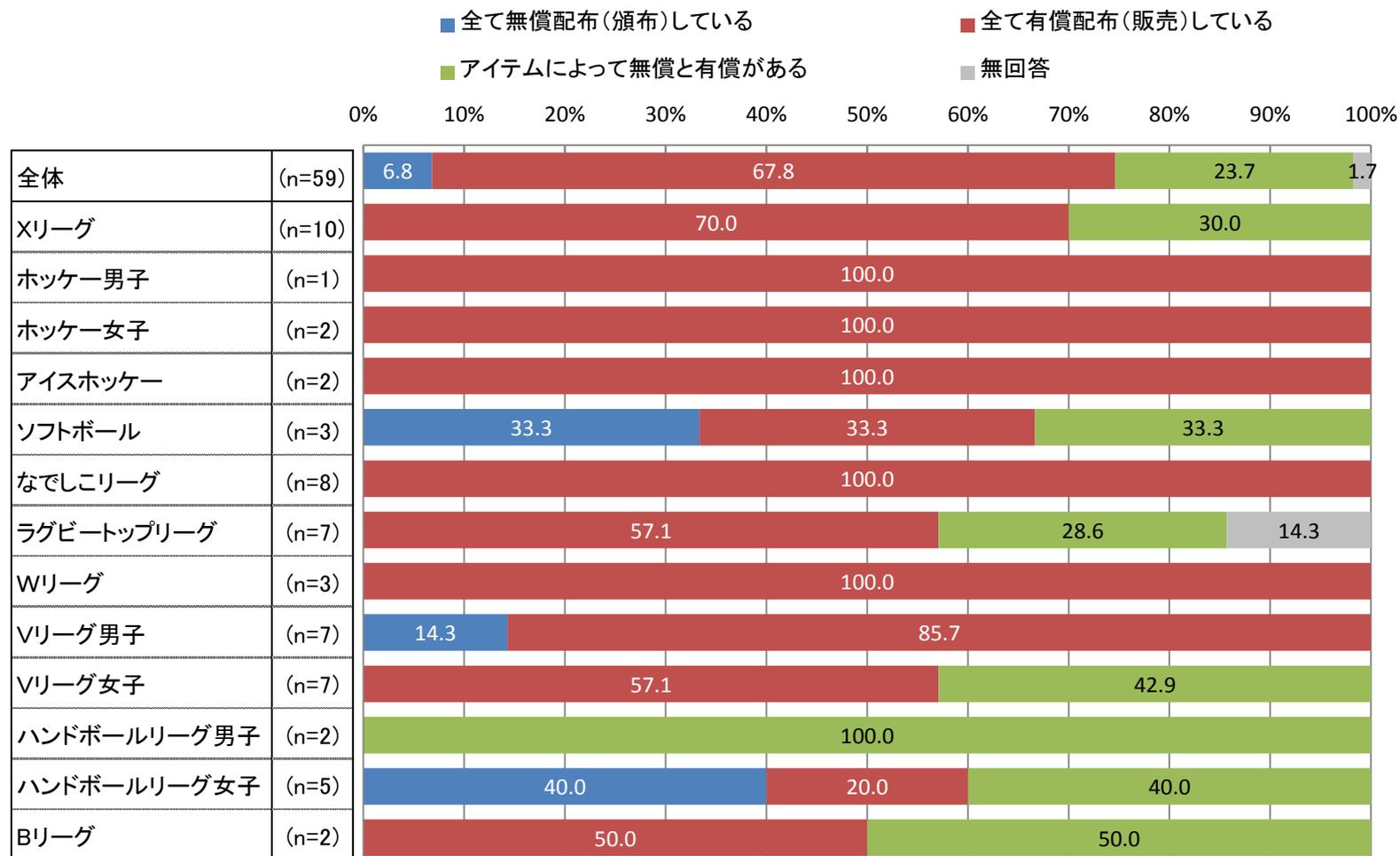
問10.グッズの配布方法（マスコットキャラクター・ぬいぐるみ）

- 全体平均では『全て有償で配布（販売）』が最も多く、**66.7%**であった。
- なでしこリーグ、ラグビートップリーグ、Wリーグ、Vリーグ男女、Bリーグでは『無償配布』しているクラブは無い。
- ハンドボール女子のみ、『全て無償で配布』と回答したクラブがある。



問10.グッズの配布方法（キーホルダー）

- 全体平均では、**67.8%**が『全て有償で配布（販売）』と回答。
- 『全て無償配布』しているクラブが有るのはソフトボール、Vリーグ男子、ハンドボール女子の3リーグ。
- 『全て有償配布（販売）』のみと回答したのはホッケー（男女）、アイスホッケー、なでしこ、Wリーグの5リーグ。



◆第7章：トッポスポーツ組織の地域活動におけるベンチマークまとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

- <問11>
- ・競技普及促進活動（若年層向けスクール等）におけるベンチマークについて
 - ・支援者交流活動（サイン会・ファン交流会）におけるベンチマークについて
 - ・社会貢献活動（ボランティア・福祉支援）におけるベンチマークについて
 - ・地域活性化活動（商店街・モールでのPR）におけるベンチマークについて

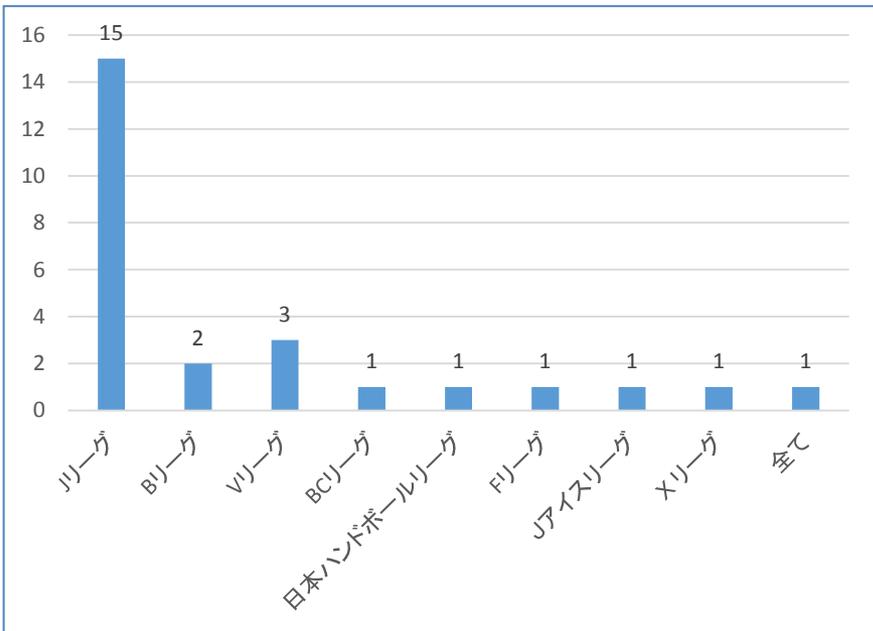
【内容サマリー】

<問11>

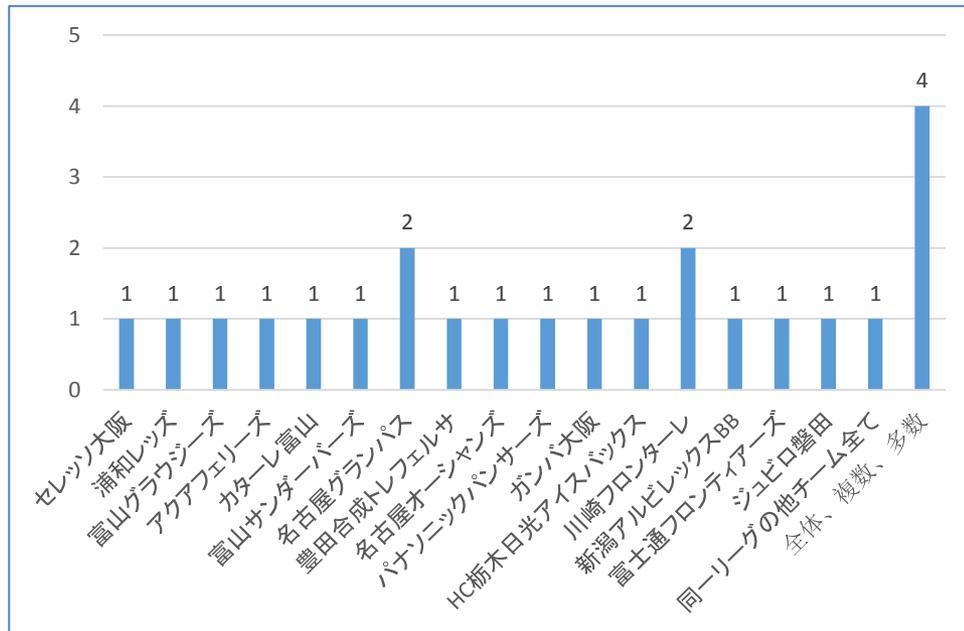
- ・「競技普及促進活動」では**Jリーグ**をベンチマークに挙げる組織が多い。
クラブではJリーグ「**名古屋グランパス**」「**川崎フロンターレ**」の名が挙げられた。
- ・「支援者交流活動」では**Jリーグ**や**Bリーグ**を挙げる組織が多い。
クラブではJリーグ「**川崎フロンターレ**」、Vリーグ「**豊田合成トレフェルサ**」の名が挙げられた。
- ・「社会貢献活動」では**Jリーグ**を挙げる組織が非常に多かった。
クラブでは「**名古屋グランパス**」「**川崎フロンターレ**」「**豊田合成トレフェルサ**」など。
- ・「地域活性化活動」では**Jリーグ**を挙げる組織が非常に多かった。
クラブではJリーグ「**川崎フロンターレ**」を挙げる組織が多かった。

問11.『競技普及促進活動（若年層向けスクール等）』におけるベンチマークは？ ※自由記述

- リーグ別では『Jリーグ』を挙げたのは**15クラブ**と最も多い。次いで『Vリーグ』の**3クラブ**である。
- クラブ別では『全体、複数、多数』と回答したのが最も多い**4クラブ**。
- クラブ別ではJリーグの『**名古屋グランパス**』と『**川崎フロンターレ**』がそれぞれ2クラブから名前が挙げられた。



リーグ別ベンチマーク



クラブ別ベンチマーク

問11.各活動において『ベンチマークあり』と回答したクラブ比率

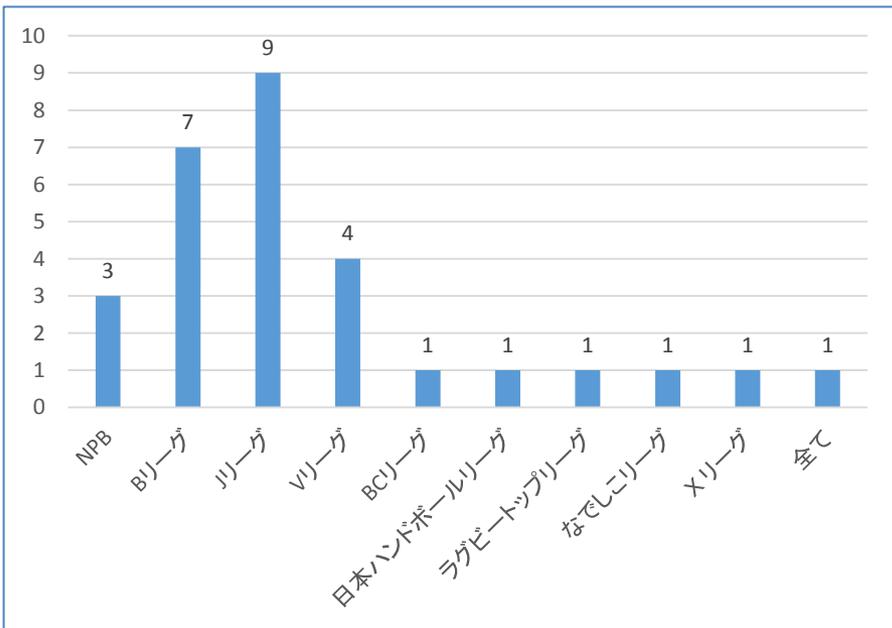
- 全体平均での比率は『支援者交流』『競技普及』『社会貢献』『地域活性化』の順である。
- Bリーグは、各調査対象項目において**100%**の数値になっている。
- ホッケー（男女）、ソフトボール、ラグビー、Vリーグ男子は対象項目により『ベンチマークがない』と回答。

(%)

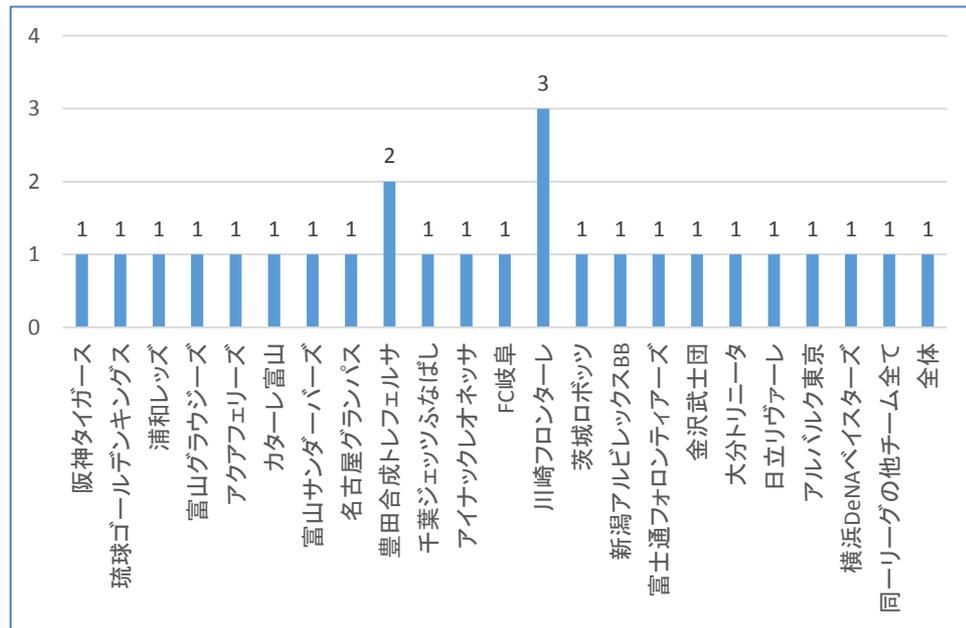
		競技普及促進活動 (若年層向けスクールなど)	支援者交流活動 (サイン会やファン交流会など)	社会貢献活動 (ボランティア、福祉支援など)	地域活性化活動 (商店街やモールでのプロモーションなど)
全体	(n=91)	30.8	33.0	28.6	27.5
Xリーグ	(n=14)	42.9	35.7	42.9	35.7
ホッケー男子	(n=8)	12.5	0.0	12.5	0.0
ホッケー女子	(n=7)	28.6	0.0	28.6	14.3
アイスホッケー	(n=2)	50.0	50.0	100.0	100.0
ソフトボール	(n=7)	0.0	14.3	14.3	0.0
なでしこリーグ	(n=12)	25.0	33.3	25.0	16.7
ラグビートップリーグ	(n=7)	0.0	14.3	28.6	28.6
Wリーグ	(n=3)	33.3	33.3	33.3	33.3
Vリーグ男子	(n=8)	37.5	37.5	0.0	50.0
Vリーグ女子	(n=8)	25.0	75.0	12.5	25.0
ハンドボールリーグ男子	(n=7)	57.1	57.1	57.1	42.9
ハンドボールリーグ女子	(n=6)	50.0	33.3	16.7	16.7
Bリーグ	(n=2)	100.0	100.0	100.0	100.0

問11.『支援者交流活動（サイン会・ファン交流会）』におけるベンチマークは？ ※自由記述

- リーグ別では『Jリーグ』が**9クラブ**と最も多く、次いで『Bリーグ』の**7クラブ**。
- 『Vリーグ』が**4クラブ**から挙げられた他、日本トップリーグ連携機構に未加盟の『NPB』が**3クラブ**から挙げられた。
- クラブ別はJリーグ『川崎フロンターレ』が最も多く**3クラブ**、Vリーグ男子『豊田合成トレフェルサ』は**2クラブ**が挙げた。



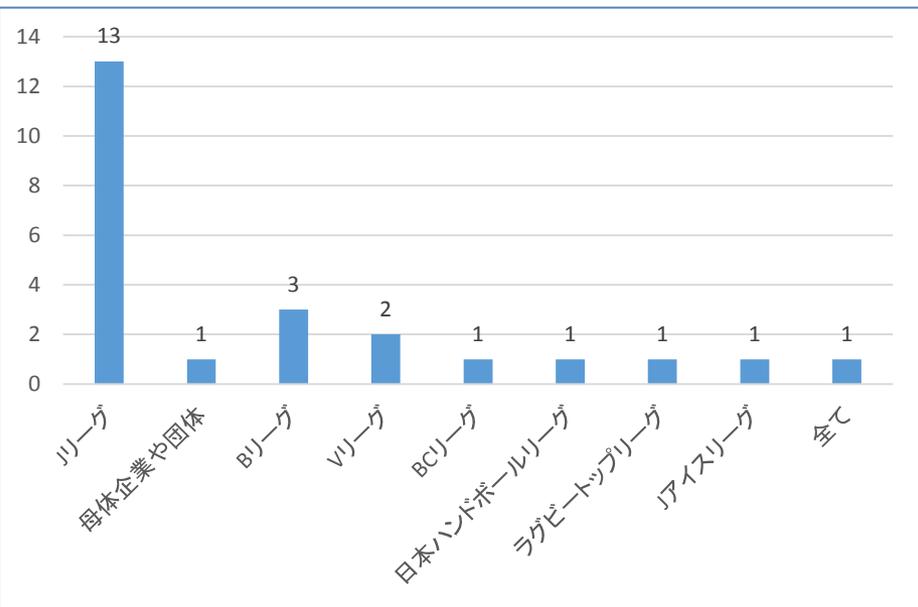
リーグ別ベンチマーク



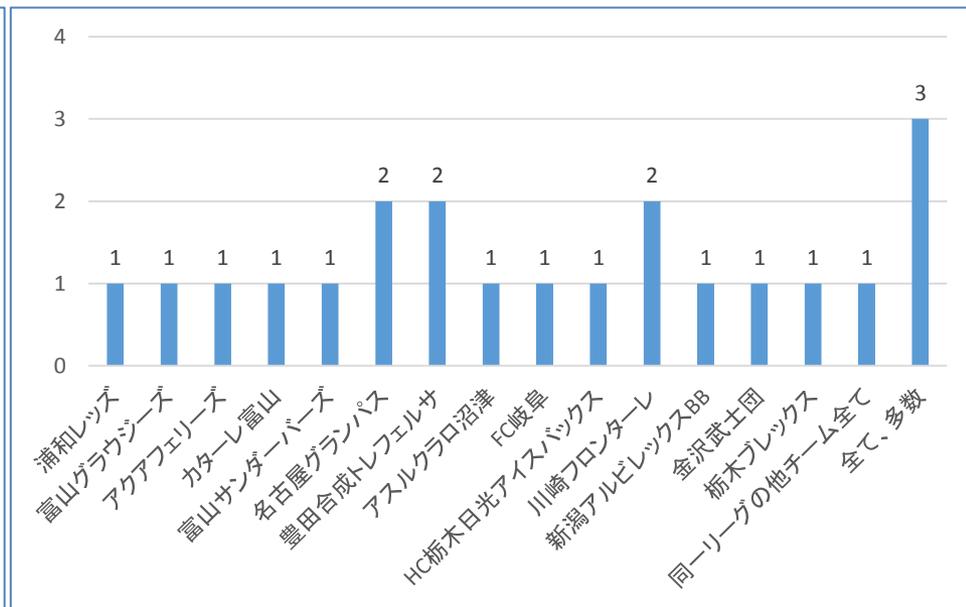
クラブ別ベンチマーク

問11.『社会貢献活動（ボランティア・福祉支援）』におけるベンチマークは？ ※自由記述

- リーグ別では『Jリーグ』が**13クラブ**と最も多く、次いで『Bリーグ』の**3クラブ**、『Vリーグ』の**2クラブ**。
- リーグ別では『母体企業が団体』の活動をベンチマークと挙げるクラブがあった。
- クラブ別では『全て、多数』が最も多く、**3クラブ**。次いで、Jリーグ『名古屋グランパス』と『川崎フロンターレ』、Vリーグ男子『豊田合成トレフェルサ』が**それぞれ2クラブ**から名前が挙げられた。



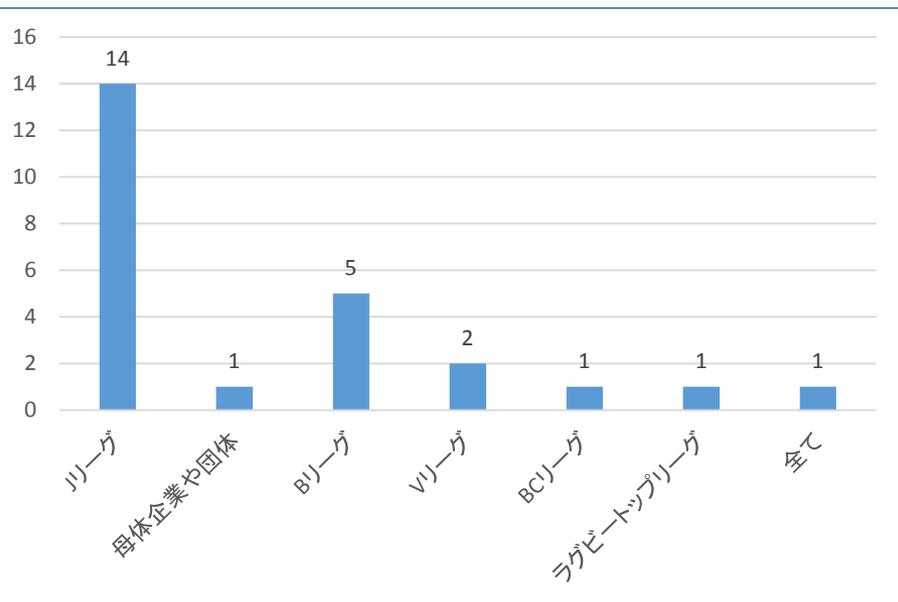
リーグ別ベンチマーク



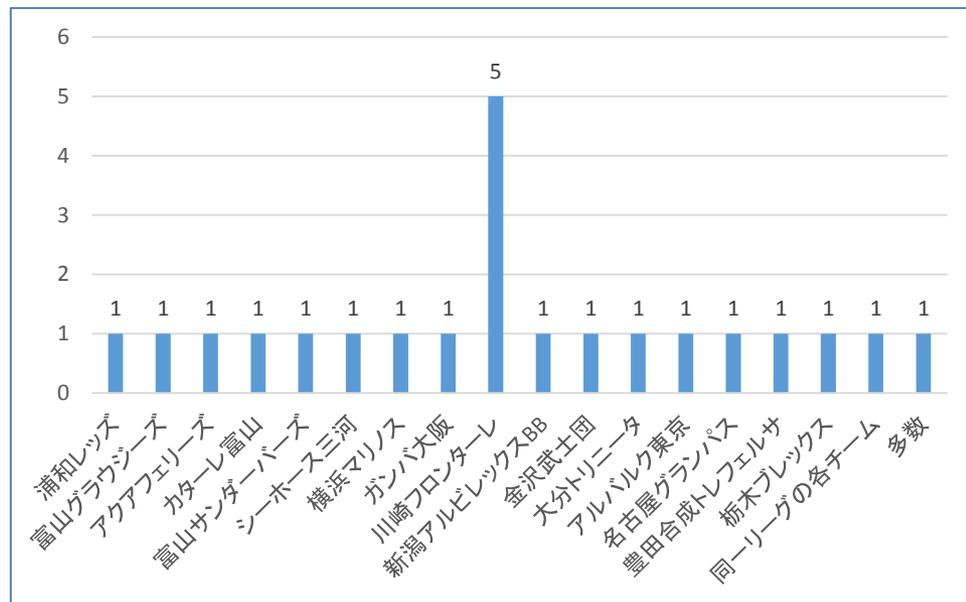
クラブ別ベンチマーク

問11.『地域活性化活動（商店街・モールでのPR）』におけるベンチマークは？ ※自由記述

- リーグ別では『Jリーグ』が**14クラブ**と最も多く、次いで『Bリーグ』の**5クラブ**、『Vリーグ』の**2クラブ**。
- 『母体企業や団体』『BCリーグ』『ラグビートップリーグ』『全て』は、**それぞれ1クラブ**から名前が挙げられた。
- クラブ別では『川崎フロンターレ』が最も多く、**5クラブ**から名前が挙げられた。



リーグ別ベンチマーク



クラブ別ベンチマーク

報告書作成スタッフ

YMFSトップスポーツ・プロジェクト・メンバー一覧（2019年9月時点）

	所属	氏名	
リーダー	一橋大学大学院 経営管理研究科	岡本 純也	准教授
メンバー	明治大学 商学部	澤井 和彦	准教授
	(公財) 笹川スポーツ財団 研究調査グループ	澁谷 茂樹	シニア政策アナリスト
	一橋大学大学院 経営管理研究科	中村 英仁	准教授
	京都産業大学 経営学部	涌田 龍治	教授
事務局	(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	尾鍋 文光	事務局
アドバイザー	東京大学、日本体育大学	浅見 俊雄	名誉教授